性格自己診断検査の作製

教授　矢田部達郎

目　　次

性格自己診断検査の作製

報告者　矢田部　達郎

第一部　綜括的自己診断検査の作製　研究担当者　矢田部　良子

Ⅰ　出　発　点 …… 71

Ⅱ　YK向性検査の作製 …… 74

Ⅲ　第一部の結び …… 85

第二部　特性別自己診断検査の作製　研究担当者　竹本　照子

Ⅰ　出　発　点 …… 87

Ⅱ　YG性格検査の作製 …… 99

Ⅲ　第二部の結び …… 137

第三部　矢田部 Guilford 性格検査の因子分析的研究　研究担当者　辻岡美延

Ⅰ　出　発　点 …… 139

Ⅱ　実　　験 …… 146

Ⅲ　第三部の結び …… 155

結　　語　執筆者　園原太郎 …… 159

要　　約 …… 166

文　　献 …… 167

性格自己診断検査の作製

報告者　矢田部達郎

心理学の目的が人間の行動を予言することにあるとするならば、性格診断ということはその最も重要な課題である。不幸にして現在においてはこの重要な課題は充分に解決されていない。我々は凡ゆる努力を傾けてこの目的に近づかなければならない。本研究は文部省科学研究費の補助を受け、報告者及び園原太郎教授が代表者として施行しつつある「人格診断法の綜合的研究」（研究番号、二十六年度1091、二十七年度1063、二十八年度1037）に対する予備的研究の一部をなすものである。人格研究の領域は広い。そして極めて困難である。しかし、たとえ最初は甚だ幼稚に思えるような成果しか獲得できないとしても、常に断えざる研究的努力が行われて、その捨石の上に将来の花々しい業績が築かれることを思えば、この報告の意義も決して軽いものとは考えられないのである。

本研究は京都大学文学部心理学教室関係者の全体的協力の下に運営された。特に第二部の研究は分校の佐藤幸治教授が Guilford-Martin の Inventory の Manual を C. H. Ruedisili 教授を通してわざわざ米国から取寄せられたことを切つかけとして着手されたものである。教室関係者以外にも好意ある協力を与えられた人々は少くない。ここに感謝の意を表明しておきたいと思う。

第一部　綜括的自己診断検査の作製

研究担当者　矢田部良子

I　出発点

性格検査は種々の方法によつて行われる。例えば、具体的な状況における個人の行動を観察すること、特定のテスト状況における個人の行動を評定すること、知人の評価を参考とすること、自己診断に訴えること、いわゆる投影テクニックを用いること、その他色々の仕方が考えられる。そしてそれが有効であるためにはできるだけ色々な方向から資料を集めて綜合的な評価をすることが望ましい。しかしその前に各種の研究法それ自身が充分に信頼できるものでなければならぬことは論をまたないであろう。そこで本稿においてはそのうち特に自己診断法についてその改良が企図される。

性格検査は比較的一般的な性格特性を綜括的に診断するものと、比較的特殊的な性格特性を個別的に診断するものとに区別することができる。本論文の第一部はそのうち綜括的診断法を取扱う。綜括的性格診断法として我国で広く行われているのは淡路式向性検査であるが、これは後でも述べるように改良すべき欠点がないわけではない。しかし現存するものとしては最も信頼すべきものであり、又我々が本章において取扱う問題と最も密接な関係にあるものであるから、以下それが成立した事情について少しく考察することにしたいと思う。淡路氏は1932年岡部氏と共に「向性検査と向性指数」な

る論文(1)を心理学研究誌に掲げ、氏の向性検査の成立ちを次のように述べられた。

余等はさきに共同して「人格観察法」なるものを制定し、先ず人格的特徴を三種の範疇に分ち、夫々の範疇毎に坐標を定めこの三坐標に帰及して人格を八標式に分ち、これら全部の標式を尺度として、各自の人格を観察若くは反省する評定法を立案し、これによつて幾多の日本人の人格診断を試みたが、研究の結果、それらの三坐標は相互に可成り密接なる関係を有し、目的によつては一の元坐標に還元して単純化することができ、人格を一延長的に比較考察することが、経験上、必ずしも不当に非ざることを発見した。

しかも余等の見るところを以てすれば、この一坐標はかの C. G. Jung の外向性・内向性気質説、若くは E. Kretschmer の乖離性・回帰性性格説の概念と一脈相通ずるものがあるように思われる、即ち「人格観察法」の三範疇七十五観点の全部を通じて、各人は夫々一定の偏倚傾向を示し、ある人格的特徴において一定の評定を受けたるものは、他の特徴においても亦特定の評定を下される場合が多く、従つて一方より他を期待することができ、それら特徴の相関的研究に基いて、大体各人の偏倚傾向を二大別し、これを一延長上に帰及して考察することが決して不都合でないことが明らかとなつた。

尤も人格を相対立する二標式に分ち、 Jung 若くは Kretschmer に類する学説を唱えた学者は、必ずしもその例に乏しくはない。 F. Nietzsche のアポロン型とデイオニサス型、 Romain Roland のハムレット型とドンキホーテ型、 W. Jamesの 柔心型と剛心型、O. Weininger の女性型と男性型、W. Ostwald の古典型と浪曼型、J. M. Baldwin の感覚型と運動型、G. B. Watson の思慮型と衝動型等の諸標式説の如きは、何れもこれに近きものであつて、共に二標式説の必要にして可能なることを暗示していると。

そこで氏等は C. G. Jung, E. Kretschmer, M. Freyd, W. M. Marston, D.A. Laird 等を参照して224 項目の性格特徴を選び、さらにそのうちから回答が「はい」若くは「いゝえ」に偏らない外向項目及び内向項目各25題を選出した。これが氏等の有名な向性検査であつて、その採点は外向項目肯定数プラス無応答数の二分の一を 25 で割つて 100 をかけたいわゆる向性指数(VQ)で表わされる。向性指数は氏等によれば大体知能指数と同様に性格の一般的傾向を表現するものと考えられたのである。しかしよしそこに一般因子が存在するとしても、かかる因子を測定するためには検査各問題に対する回答傾向が、検査の綜合得点と可成りの程度において整合的でなければなるまい。しかるにこの点において淡路式向性検査は未だ充分なる検討を経ていないうらみがある。我々は新検査の構成に当り、特にこの点に留意することにした。

新検査構成の出発点としては勿論淡路式検査を選ぶこともできる。しかし我々は独自の立場からむしろさらに遡つて Max Kibler (11) の仕事に訴えることにした。Kibler の仕事は心理学者の手に入りにくいから、以下それについても簡単に紹介しておくことにしよう。

Tübingen の Max Kibler は Otto Kroh の指導の下に Van der Horst (16) の研究の追試を行い、Kretschmer の体型と精神機能との関係を明らかにしようとした。実験は七種類からなり精神病者及び健康者の肥満型 (Pykniker) 及び細長型 (Leptosom) を被験者として諸種の精神的行動を測定したのである。

第一実験では赤 (1個) 青 (1個) 緑 (2個) 白 (2個) の電球を点滅して、若し赤がつけば反応するように要求し、この価を通例の反応時間と比較した。他の電球が注意を牽制すると考えて、これを牽制実験という。この実験では健康者の反応時間は大差ないが、循環気質者は分裂気質者に比してより大きく牽制されることが明らかにされた。

第二実験では抽象能力が検査されたが、これは4個の無意味音節（4字又は5字のもの）を黒、青、赤、緑で描いたカード5枚を2回宛各0.5秒露出し1回目は色のあつた位置をいわせ、2回目は文字を報告させたものである。肥満型は細長型に比して幾分多くの要素を把握し、特に求められない要素をも報告することがわかつた。求められない要素を全く報告しない被験者は細長型33名（内病者10名）の中6名もあるのに、肥満型24名（内病者6名）の中には1名しかなかつた。

第三実験では意識の範囲が測定された。5字のカード6枚、6字のカード4枚、7字のカード3枚、8字のカード2枚、9字のカード1枚、合計100字を、各カード0.2秒露出で何字把握するかを調べたのである。その結果は肥満型健康者平均42.4字、細長型健康者平均36.8字で、前者の意識範囲が幾分広いことを示した。

第四実験は混色器で色彩融合の時間を測つたもので、この場合には肥満型の融合閾が平均では幾分低い。但し個人差が著しい。

第五実験は食指の適意テムポを測つたものであるが、この結果ははつきりしなかつた。

第六実験は皮膚上の2点間空間閾を測ろうとしたのであるが、装置の都合上成功していない。

第二実験は Van der Horst の試みなかつたものであるが、それを除き他は大体 Horst の結果と似たものであつた。

第七実験が我々に関係の深い有名な自己診断検査で、循環気質者及び分裂気質者の性質を列挙した Horst のリストから、前者40項、後者46項を選んだもので、これを肥満型及び細長型の被験者に読ませたのである。その結果は肥満型健康者19名中18名は自ら循環型に属するといい、細長型健康者24名中17名が分裂型に属すると判断した。即ちそれは夫々94.7%、及び70.8%に当る。Kibler のリストは次ぎの通りである。

Die Autodiagnose der Pykniker und Leptosomen (Kibler)

1. gutherzig. 2. gesprächig. 3. freundlich. 4. gesellig oder gesellschaftlich schwerfällig, aber stillvergnügt. 5. heiter oder ruhig und still. 6. gemütlich. 7. behäbig. 8. humoristisch oder schwernehmend. 9. aufbrausend, aber dann gleich gut. 10. menschenfreundlich. 11. anpassungsfähig. 12. realistisch eingestellt. 13. immer auf das Mögliche bedacht. 14. Freude am Geniessen. 15. Freund von Essen und Trinken. 16. solid und gewissenhaft. 17. fast philiströs. 18. geschäftig. 19. umtriebig. 20. unternehmend oder auch bedächtig. 21. schlagfertig. 22. in Gesellschaft beweglich. 23. lebhaft. 24. ungezwungen. 25. im allgemeinen beliebt. 26. natürlich. 27. flott. 28. nicht formell höflich. 29. von wechselnder Stimmung. 30. bedenklich oder sorglos. 31. einmal sparsam, dann freigebig. 32. nicht verschlossen. 34. Kinderfreund. 35. von warmen Frömmigkeit. 36. nicht starr dogmatisch. 37. nichtprinzipiell. 38. zu Zugeständnissen bereit. 39. Freund der Natur und des geselligen Lebens. 40. Freund von realistischen Büchern, Natur- und Reisebeschreibungen. (以上Pykniker)

1. ungesellig, oder nur mit Auswahl gesellig. 2. ängstlich oder jede Gefahr gleichgültig. 3. menschenfreundlich. 4. still. 5. einsilbig. 6. im ganzen zurückgezogen. 7. jähzornig. 8. reizbar. 9. impulsiv. 10. leicht verstimmt. 11. sinnierig. 12. grüblerisch. 13. humorlos. 14. alles ernst nehmend. 15. phantastisch schwärmend. 16. idealisierend. 17. pedantisch. 18. gewissenhaft. 19. mit chronischem Insuffizienzgefühl. 20. Drang in die Ferne. 21. konsequent prinzipiell. 22. skrupellos oder strenger Moralist. 23. stoisch, dabei innerlich empfindsam.

24. aristokratisch. 25. feinfühlich. 26. bedürfnislos. 27. unabhängig. 28. zynisch. 29. sarkastisch oder sehr religiös. 30. bissig 31. steif. 32. ungelenk. 33. schüchtern. 34. unbeugsam. 35. hart. 36. zielfest. 37. gleichgültig 38. egozentrisch. 39. manchmal scheinbar altruistisch, aber tatsächlich wenig teilnehmend. 40. nicht mitleidig. 41. im allgemein kein kinderfreund. 42. zu Abstraktionen geneigt. 43. geistreich. 44. viel im Zukünftigen lebend. 45. zu Träumereien geneigt. 46. liest gern idealistische, bizarre und phantastische Bücher (以上Leptosom)

Ⅱ Y.K.向性検査の作製

1. Kibler 自己診断表の項目分析と、YK 第一検査の作製。 さて我々の目的を達成するためには上の表を量的に取扱えるように変革する必要がある。そこで我々は京都学芸大学の中島誠氏がアダプトした Kibler 式テストを使用することにした。このテストは上の表から分裂気質にあたる項目（以下S項目という）40 と、循環気質にあたる項目（以下C項目という）40 とを作つて読みきかせ、被験者に自分に合うと思う項目に○印を、合わないと思う項目に×印をつけさせるものである。C項目につけた○印の数をそれとS項目につけた○印の数との和で除した数に 100 をかけたものを循環気質の指数として用いる。

昭和27年7月 5、8、9、10、11日の5日間に亘り、京都市立加茂川中学校3学年 1、2、4、5、6組生徒239名（男117名、女112名）に施行した結果に次ぎのような処理を施した。これは通例 GP 分析（Good Poor Analysis）といわれるものである。

即ちこの場合はテストの総得点(上述の指数)について Q_3 以上の群（これを以下 C 被験者群という）と Q_1 以下の群（これを以下 S 被験者群という）とを求め、両群において有意差を示す項目が何々であるかを追求した。その意味は、テスト全体に対して整合的でない項目（即ち有意差のない項目）を除去しようとするのである。換言すればテストを構成する項目の全部について有意差が認められれば、このテストは完全に内的整合性（internal consistency）を有する、或は自己矛盾がないといいうるであろう。有意差の検定には 2 × 2 分割のカイ二乗テストを使用した。なお無解答は二分して C S 両者に加算することにした。この場合 P=0.1, 0.05, 0.01 に相当するカイ二乗の価は夫々2.71, 3.84, 6.64 である。**第1表**はテスト結果の度数分布表であり、**第2表**は実施項目と、そのうちの有意項目に対するカイ二乗の価を示すものである。

Table 1 Kibler 度数分布（加茂中生239名）

score	31〜35	36〜40	41〜45	46〜50	51〜55	56〜60	61〜65	66〜70	71〜75	76〜80	81〜85	86〜90	91〜95	96〜100	SD	Q_1	M	Q_3
f	1	2	8	22	25	38	44	34	29	22	10	1	1	2	11.1	52.8	63.6	71.3

この実験の結果を基礎として我々は出来るだけ自己矛盾のない新しいテスト・バッテリーを構成しようとした。これを以下 **YK第一型式**（矢田部キブラー向性検査第一型式）と名づけよう。この検査はまだ全く予備的なものと考えたから、上述有意差のあつた項目を主とし、その外大体の見当で新項目を補い、又有意差があつても表現のむつかしかつたもの(49,76)を省いたり、有意差がなかつたものでも表現をかえれば差が出そうなものを加えたりして、C項目及びS項目各25項目、合計50項目の新テストを構成したのである。

2. YK 向性検査第一型式の施行とその項目分析。 この検査を昭和27年7月15、16日両日に亘り、京都市立加茂川中学校3学年 2、5、6、7、8 組生徒243名（男115名, 女128名)、及び昭和27年12月3、4 日両日に亘り、京都市立皆山中学校3学年 A, B, C, D, E 組生徒188名（男111名、女77名）に施行した結果の度数分布は**第3表**、項目分析の結果は**第4表**（77頁）の通りである。採点法は前実験の場合に同じ。（なおこの場合、加茂中生は Kibler 検査の経験者である。）

Table 3 YK-1 度 數 分 布（加茂中、皆山中、431名）

score	11〜15	16〜20	21〜25	26〜30	31〜35	36〜40	41〜45	46〜50	51〜55	56〜60	61〜65	66〜70	71〜75	76〜80	81〜85	86〜90	91〜95
f	1	1	1	4	4	14	26	71	88	79	69	48	26	18	6	2	1

SD 11.5 ： Q_1 50.2 ： M 57.8 ： Q_3 65.1

Table 5 YA 向性検査度数分布（皆山中学生 189名）

score	41〜50	51〜60	61〜70	71〜80	81〜90	91〜100	101〜110	111〜120	121〜130	131〜140	141〜150	SD	Q_1	M	Q_3
f	1	1	4	10	17	45	50	34	13	13	1	16.7	94.5	104.1	114.6

3. YK 向性検査第二型式の作製。（YA 向性検査の施行とその項目分析）YK 第一型式の項目分析によつて1％レヴェル以下で有意差のある項目38をえたが、成るべくならば50項目位をえたいと思い、同種検査である淡路式向性検査を、YK 第一型式を施行したと同じ被験者に施行し、後者のC被験者群及びS被験者群で有意差を示す淡路式検査の項目を選出しようとした。かくして作製された50項目の新検査を、以下 **YK 向性検査第二型式**と呼ぶことにする。

さて淡路式向性検査を施行するにあたり、検査項目の表現を変えると識別力も変るおそれがあるので、最初からそれをYK検査と似た語調に変形した。なお第33項、38項、39項は肯定形を否定形とし、又第9項「無口である」を「口数が多い」と変えて、外向項目及び内向項目各25、合計50問から成る検査を構成した。これをかりに **YA 検査**と名づけよう。この検査を昭和27年12月3、4両日京都市立皆山中学校三学年 A, B, C, D, E 組生徒189名に対して、先きに述べた YK 第一型式の直後に施行した。その結果の度数分布は**第5表**、YK 第一型式の C 被験者群及び S 被験者群による GP 分析の結果は**第6表**（78頁）の通りである。

Table 2　Kibler GP 分析

（加茂中生、C群60名、S群60名）

	C 項 目	χ^2
1	気立がよい	4.0
2	話好き	3.0
3	親切な	7.5
4	多数の中で、でしやばらないで静かに楽しんでいる	—
5	はしやいでいる時もあるが、静かに落ついている時もある	—
6	気分がいつでもはれやか	8.5
7	ゆつたりとしてこせこせしない	—
8	じようだんをいう時もあり真面目な時もある	—
9	おこりつぽいがすぐなおる	—
10	人ぎらいをしない	—
11	新しいことに、すぐなれる	4.4
12	現実的に物事を考え、出来そうなことばかり企てる	—
13	楽しむことが好き	—
14	飲んだり食べたりする事が好き	—
15	真面目で正直	—
16	俗つぽい生活をする	—
17	よく働く	3.3
18	まめに立まわる	—
19	用心深く、然しどんどん仕事をする	—
20	その時々にかなつたうまい知恵を出す	—
21	人中でかたくならず活発に行動する	6.5
22	いきいきしている	4.8
23	物事にこだわらない	3.7
24	たいがいの人に好かれる	—
25	そつちよくな	—
26	気がるい	3.0
27	礼儀が形式ばらない	—
28	気持がいろいろ変りやすい	—
29	くよくよする時もあれば呑気な時もある	—
30	物惜しみをしない	4.0
31	あけつぱなし	4.4
32	実用的に、てきぱきと物をきめる	—
33	子供好き	—
34	あたたかな敬虔な心	—
35	がんこな独断家でない	4.8
36	主義を立てない	—
37	妥協しようという心がまえを持つている	—
38	自然を楽しみ、社会的な生活を好む	—
39	現実的な書物が好き	—
40	自然や旅行のことを書くのを好む	—

	S 項 目	χ^2
41	人とのつきあいが嫌い、又は自分の好きな人たち少しとだけのつきあいは好き	5.6
42	心配性か、又はどんな危険にあつても無関心	8.0
43	人間ぎらい	11.5
44	不活発な	6.1
45	無口な	7.0
46	引こみじあん	4.8
47	短気である	2.7
48	こうふんしやすい	4.8
49	衝動的	2.7
50	すぐふきげんになる	9.1
51	敏感	—
52	徹底的に考える	—
53	あまりじよう談をいわない	4.4
54	すべての事を真面目に受け取る	5.2
55	空想にふける	6.5
56	理想にはしる	—
57	識つたかぶりをする	—
58	正直な	—
59	常に自分を能なしと思う	9.6
60	永遠へあこがれる	—
61	或る時は道徳をかえりみず、或る時は極端な道徳家となる	—
62	徹底的に主義をたてる	—
63	外面は冷静のようであるが、内面は感じ易い	8.0
64	貴族的	—
65	欲がない	—
66	繊細な感覚を持つている	—
67	自主的	—
68	礼儀を無視する	—
69	皮肉な	—
70	目的をはつきりさせる	—
71	何に対しても無関心	2.7
72	自己中心的	—
73	表面博愛らしいが、実際には余り同情心がない	—
74	思いやりがない	—
75	一般に子供好きでない	—
76	抽象的に傾く	4.4
77	多才で機智に富む	—
78	多くを将来に生きる	—
79	夢想の傾、ややもすると、ぼんやりと考える	15.4
80	抽象的な奇怪な、空想的な本を読む事が好き	10.8

Table 4　YK-1 GP 分析

（加茂中、皆山中、C群107名、S群107名）

	項　　目	χ^2		項　　目	χ^2
1	多勢と一緒にいるのが好き	10.9	26	人とのつきあいは嫌い	11.3
2	気がるなたち	6.7	27	心配性である	17.8
3	いつもほがらか	20.7	28	人間嫌いである	10.6
4	気立てがよい	9.9	29	活発でない	22.9
5	話好き	8.3	30	無口である	33.1
6	親切である	7.8	31	引こみじあんである	20.4
7	飲食が好き	—	32	気が短い	15.7
8	いきいきしている	27.1	33	こうふんしやすい	14.7
9	がんこでない	18.2	34	神経質である	21.8
10	秘密をもたない	11.5	35	すぐふきげんになる	34.2
11	誰からも好かれる	9.5	36	気がすむまで考える	—
12	物おしみをしない	8.4	37	あまりじようだんをいわない	24.2
13	新しいことにもすぐなれる	31.8	38	何でも真面目に受け取る	—
14	人の中に出てもまごつかない	9.7	39	理屈ぽい	12.2
15	よくじようだんをいう	15.2	40	利己的である	11.1
16	誰とでもよく話す	25.5	41	しばしば憂うつになる	14.8
17	人の世話が好き	7.6	42	永遠にあこがれる	—
18	めんどうがらない	6.1	43	いつも自分は駄目だと思う	15.4
19	あまのじやくでない	12.2	44	人にたよらない	—
20	気持があつさりしている	17.0	45	きめたことは変えない	—
21	議論より実行	—	46	身なりをかまわない	3.3
22	たのまれたことはすぐ行う	11.2	47	うわさや流行を気にしない	4.0
23	あまり迷わずに決心がつく	15.8	48	我を通す傾向がある	7.2
24	今の自分に満足している	—	49	ぼんやり考えこむ癖がある	36.2
25	世の中は楽しいと思う	10.6	50	空想的な本が好きである	—

第6表の如くYA項目中YK第一型式の見地から有意差のある項目は1％レヴェルで、5、27、28、36、43、46の6項目、5％レヴェルで、1、12、20、31、39、48の6項目であるが、このうち28、39、46の3項目はYK第一検査の項目と重複しているからそれを省き、その代りに5％レヴェルに近い第6、第38、第47項目を入れ、これら12項目を、先きにYK第一型式で1％レヴェルで有意差のあつた38項目に加えて50項目の新検査を構成した。これがYK第二型式である。但しYK第一型式の第19項目「あまのじやくでない」は被験者の理解が困難であつたから、殆んど1％レヴェルに近かつた第18項目「めんどうがらない」と入れ替えることにした。又第7項目「物事にこだわらない」は後に適当でないと考えられた「派手なことが好き」の代りに入れられたものである。

4.　YK検査第二型式の施行とその項目分析。　この第二型式は中学生400名及び大学生400名に施行された。中学生は加茂川中学三年生200名（1, 2, 3, 4, 5組、男93名、女107名）及び上桂中学二年生200名（A, B, C, D, E組, 男96名、女98名、不明6名）であつて、施行期日は夫々昭和27年12月16, 17, 19日及び昭和28年6月12日とである。大学生は京都大学1～2回生で、施行期日は昭和28年

Table 6　YA 向性検査 GP 分析

（皆山中学、E群 47名 I群 47名）

	項　　目	x^2		項　　目	x^2
1	些細なことを気に病む	4.46	26	話好きである	3.25
2	仲々決心がつかない	3.45	27	気むずかしい	7.16
3	何事にも大事をとる	—	28	よくじようだんをいう	8.64
4	決めた意見にこだわらない	—	29	人のおだてにのりやすい	—
5	思案するより活動が好き	8.99	30	剛情である	—
6	陰気である	3.58	31	不満が多い	5.63
7	失敗にこりる	—	32	人のうわさを気にしない	—
8	のんきである	—	33	人の批評はしない	—
9	口数が多い	—	34	物事を人委せにできない	2.93
10	感情をすぐ外にあらわす	—	35	人から指図されるのが嫌い	—
11	よくはしやぐ	3.00	36	人のあつかいがうまい	7.82
12	気が変りやすい	5.25	37	人のいうことを素直にきく	—
13	物事にこる	—	38	気がきかない	3.25
14	しんぼう強い	—	39	隠しだてはしない	3.82
15	理屈ぽい	—	40	すぐ人に同情する	—
16	議論が過激になりやすい	—	41	すぐ人を信用する	—
17	用心深い	—	42	仲々恨みが忘れられない	—
18	動作がきびきびしている	—	43	はにかみやである	10.49
19	仕事をなげやりにしない	—	44	独りぼつちでいるのが好き	—
20	派手なことが好き	4.99	45	仲々友達ができない	—
21	仕事に夢中になる	—	46	人前でも平気で話す	9.89
22	空想家である	—	47	人中ではいつも引こんでいる	3.74
23	潔癖である	—	48	誰とでも平気でつきあう	4.31
24	持物をそまつにする	—	49	世話好きである	—
25	無駄づかいが多い	—	50	物惜しみをしない	3.68

5月19, 21, 30日であつた。その結果の度数分布は**第8表**及び**第1図**(80頁)であり、それに関する項目分析は**第9表**(81頁)に示される。

この結果が示すように大学生の平均得点はほぼ50点（52）のところにあつて正規分布を示し、中学生の平均得点はやや外向（59）に傾き、特に著しい内向点を示す者が少ない。

項目分析の結果は大学生においては全50項目が有意差を示し、中学生においても第15, 及び第17両項目を除き、すべて有意差を示した。今識別力の極めて大きい項目のみを残す目的を以て、内的整合度の検定規準として111頁に掲げたものを採用するとしても、大学生においては5% level 以下の項目は第9項及び第32項の2項目のみで、又中学生においても第 2, 10, 12, 15, 17, 19, 21, 25, 37, 40の10項目にすぎない。なおこの検査の各項目は中学生の資料から選定されたものであつたのに、それらが大学生において中学生に対するよりもさらに著しい整合度を以て妥当することが見出されたということは極めて注目すべき事実であると思われる。

5. YK 検査の性質。

Table 7　YK-Ⅱ 自己診断表　　No.

学校		氏名	男 女
第　学年　組		検査日　昭和　年　月　日　時	
		生年月日　昭和　年　月　日	

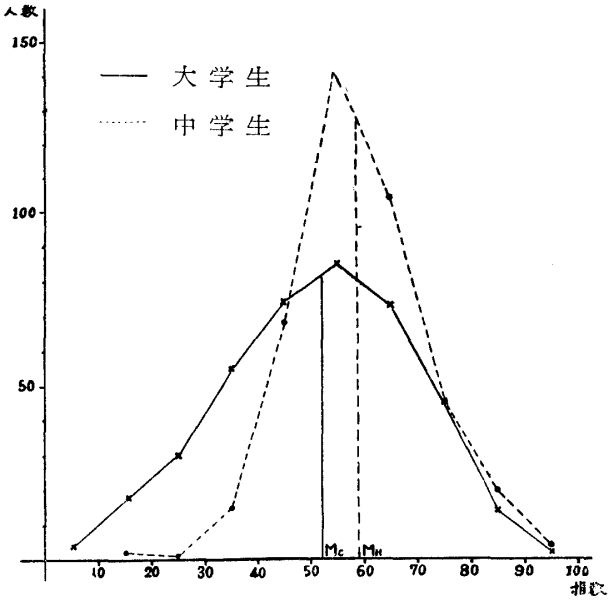
人は自分の性質についてどの程度まで正しい判断をもつているものでしようか、そのようなことを調べてみたいと思います。次の項目を順々に読みますから、そのうち自分に当てはまるものはその番号を○で囲み、当てはまらないものは×で消して下さい。余り考えすぎると決められなくなりますから、大体の印象で返事をして下されば よろしいのです。但し若しどうしても決められない時には番号を（　）で囲んでおいて下さい。なお付けた記号を修正するときは、番号の左側に○、×、（　）、の何れかを書き加えておけばよろしい。

1 多勢と一緒に居るのが好き
2 気がるなたちである
3 いつもほがらかである
4 気立てがよい
5 話好きである
6 親切である
7 物事にこだわらない
8 いきいきしている
9 がんこでない
10 秘密をもたない
11 誰からも好かれる
12 物おしみをしない
13 新しいことにもすぐなれる
14 人の中に出てもまごつかない
15 よくじようだんをいう
16 誰とでもよく話す
17 人の世話が好き
18 めんどうがらない
19 人のあつかいがうまい
20 気持があつさりしている
21 思案するより活動が好き
22 たのまれたことはすぐ行う
23 あまり迷わずに決心がつく
24 誰とでも平気でつきあう
25 世の中は楽しいと思う
26 人とのつきあいは嫌い
27 心配性である
28 人間嫌いである
29 活発でない
30 無口である
31 引込みじあんである
32 気が短い
33 こうふんしやすい
34 神経質である
35 すぐふきげんになる
36 我を通す傾向がある
37 あまりじようだんをいわない
38 人中ではいつも引こんでいる
39 理屈ぽい
40 利己的である
41 しばしば憂うつになる
42 気むずかしい
43 気が変りやすい
44 陰気である
45 気がきかない
46 はにかみやである
47 些細なことを気に病む
48 不満が多い
49 ぼんやり考えこむ癖がある
50 いつも自分は駄目だと思う

Table 8　YK 第二型式の度数分布（被験者大学生400、中学生400）

score	0〜9	10〜19	20〜29	30〜39	40〜49	50〜59	60〜69	70〜79	80〜89	90〜99	SD	M
大学生	4	18	30	55	74	85	73	45	14	2	17.9	52.1
中学生	0	2	1	15	68	141	104	45	20	4	12.4	59.1

Figure 1　YK-Ⅱ 度 数 分 布



A. YK 検査の再検査信頼度　YK第二型式についてその再検査信頼度を検する機会はまだもたない。そこで YK 第一と YK 第二間の再検査信頼度を参考のために算出してみた。先きに昭和27年7月に YK 第一型式を施行された加茂川中学三年生197名には、5カ月を隔てて12月に YK 第二型式が施行された。その結果の相関は r = 0.58である。又上述の皆山中学三年生173名は同じ12月中に2週間を措いて第一及び第二両検査を施行された。その結果は r = 0.59 である。通例向性検査の信頼度は 0.5〜0.6 程度といわれるが、我々の場合は可成り構成のちがう二つの検査間の相関であるから、この価は相当高いものということができるのであろう。

B. YK 検査における男女差　YK 第二型式の男女得点の差異については未だ充分に研究していないが、上桂中学二年生男96名、女98名について平均得点を求めたところ、男 56.6 (SD = 11.9) 女61.2 (SD = 11.2) となつて、女の方が幾分外向的であることを示した。しかるに加茂川中学三年生男93名、女107名について調べたところは、男 61.6 (SD=14.0) 女 58.75 (SD=12.1) で、むしろ逆の傾向が見られる。両中学共京都市外郊部の半農半住宅地に位置して、環境は似ているのであるから、この差は二年生と三年生との相異であるのか、或は知られざる環境差が存在するのか、その他如何なる理由によるのかは、今のところ決められない。

Table 9　YK-Ⅱ GP 分析

（加茂中、上桂中、400名京大生、400）

	項目	χ^2 大	χ^2 中		項目	χ^2 大	χ^2 中
1.	多勢と一緒に居るのが好き	72.6	13.0	26.	人とのつきあいは嫌い	42.0	18.0
2.	気がるなたちである	87.1	9.3*	27.	心配性である	56.6	40.5
3.	いつもほがらかである	77.3	29.8	28.	人間嫌いである	51.9	18.6
4.	気立てがよい	23.8	11.0	29.	活発でない	80.6	34.4
5.	話好きである	35.8	11.0	30.	無口である	63.8	43.2
6.	親切である	17.3	17.4	31.	引込みじあんである	98.4	38.7
7.	物事にこだわらない	48.6	欠	32.	気が短い	7.5*	31.2
8.	いきいきしている	68.4	13.0	33.	こうふんしやすい	14.2	28.1
9.	がんこでない	10.2*	20.5	34.	神経質である	38.7	19.2
10.	秘密をもたない	39.0	5.8*	35.	すぐふきげんになる	62.7	40.5
11.	誰からも好かれる	41.4	32.0	36.	我を通す傾向がある	19.2	12.0
12.	物おしみをしない	31.2	9.7*	37.	あまりじようだんをいわない	12.0	6.7*
13.	新しいことにもすぐなれる	40.5	12.0	38.	人中ではいつも引こんでいる	93.0	37.0
14.	人の中に出てもまごつかない	48.0	18.6	39.	理屈ぽい	28.9	27.4
15.	よくじようだんをいう	23.8	0.4*	40.	利己的である	40.5	4.8*
16.	誰とでもよく話す	73.2	16.8	41.	しばしば憂うつになる	83.8	33.6
17.	人の世話が好き	16.9	3.7*	42.	気むずかしい	38.3	36.1
18.	めんどうがらない	23.8	23.8	43.	気が変りやすい	40.5	14.6
19.	人のあつかいがうまい	32.5	4.0*	44.	陰気である	81.4	20.5
20.	気持があつさりしている	78.1	19.2	45.	気がきかない	27.4	30.4
21.	思案するより活動が好き	37.0	4.5*	46.	はにかみやである	59.8	20.5
22.	たのまれたことはすぐ行う	22.8	21.8	47.	些細なことを気に病む	54.1	29.6
23.	あまり迷わずに決心がつく	45.7	12.5	48.	不満が多い	50.0	46.1
24.	誰とでも平気でつきあう	44.2	12.5	49.	ぼんやり考えこむ癖がある	72.0	35.3
25.	世の中は楽しいと思う	41.4	8.4*	50.	いつも自分は駄目だと思う	57.2	37.8

＊印は111頁に述べる厳密な規準に照らすと５％レヴエルに達しないもの。

だからこの場合＊印は慣用とは逆に無意項目を意味する。

両者の合計について男女別の度数分布表を作ると**第10表**の通りであつて、この年令における男女間には殆んど性差が認められないことがわかる。この点から見ると、時に学級によつて性差の著しく認められる場合のあるのは、おそらくその学級特有の気風の影響と考えなければならぬように思われる。

Table 10　YK-Ⅱ 男女別度数分布（加茂中、上桂中、男189名、女205名）

score	0〜30	31〜35	36〜40	41〜45	46〜50	51〜55	56〜60	61〜65	66〜70	71〜75	76〜80	81〜85	86〜90	91〜95	96〜100	SD	M
男	2	6	5	8	20	31	39	34	16	5	9	5	7	1	1	11.3	59.1
女	1	2	2	10	30	35	35	35	16	17	13	4	3	1	1	11.8	59.8

項目別に見た男女差も余りはつきりしない。先きに述べた加茂川中学及び皆山中学の三年生の合計400名中 C, S 両被験者群に属する200名（男104名、女96名）について、カイ二乗検定の結果有意な性差を示した項目は次ぎの6項目にすぎない。（括孤内はカイ二乗の価）

1.男　多勢と一緒にいるのが好き（2.9）

14.男　人の中に出てもまごつかない（3.2）

25.男　世の中は楽しいと思う（6.3）

47.女　些細なことを気に病む（3.4）

49.女　ぼんやり考えこむ癖がある（6.3）

50.女　いつも自分は駄目だと思う（2.9）

上の3項目は男に多く、後の3項目は女に多い。又大体において女子の無解答率が大きいが、9, 19, 23, 26, 27, 47の7項目に差がない他、第7項「派手なことが好き」及び49項「ぼんやり考えこむ癖がある」において男子の無解答率が多いことが注目される。

ところが検査が幾分ちがうが、先きに加茂川中学三年生243名（2, 5, 6, 7, 8組、男115名、女128名）に YK 第一型式を施行した場合全員について男女差のある項目を求めた時には、次ぎの9項目に男女差が認められた。

13.男　新しいことにもすぐなれる（6.9）

14.男　人の中に出てもまごつかない（5.7）

22.女　たのまれたことはすぐ行う（3.9）

27.女　心配性である（13.2）

33.女　こうふんしやすい（7.2）

34.女　神経質である（4.0）

41.女　しばしば憂うつになる（4.6）

43.女　いつも自分は駄目だと思う（7.2）

46.男　身なりをかまわない（11.0）

このうち13，14，46項は男に多い項目である。このように「人の中に出てもまごつかない」及び「いつも自分は駄目だと思う」の2項目が上の場合と一致するにすぎないのは如何なる理由によるのであろうか。これも今のところ全く見通しをつけることができない。

回答率の問題をもう少し精しく考えて見ると、上述加茂川中学及び皆山中学のC，S両群に属する男104名、女96名が、YK第二型式の50問に答えた10,000回答は次ぎのように区分される。

男○	2,014；	男×	1,747；	男？	1,439
女○	1,529；	女×	1,384；	女？	1,887
参考	2,111；		2,382；		507

即ち○も×も男に多く、？のみが女に極めて多い。これは中学生の結果であるから一般化することは危険であるかも知れぬが、大体常識から期待されるところと一致する。

なほ参考として挙げたのは同じテストを京都大学1～2回生（男96名、女4名）に施行した結果であつて、中学生の無回答率が上表の如く、男29%、女38%という高率であるのに対して、ここでは僅かに10%であることが注目される。因みに大体同じ京大の学生群（400名）が後に述べるYG検査の予備検査240問に答えた場合の無回答率はさらに小さく、96,000分の6,772即ち7,1%にすぎなかつた。

C．YK検査と淡路式向性検査との関係　上述の皆山中学校三年生には昭和27年12月3,4両日YK第一型式の直後に淡路式向性検査の変形であるYA検査を施行した。189名について相関を求めたところ $r = 0.35$ であつた。又その2週間後12月16、17、18の3日間に行われたYK第二型式とYA検査との相関は $r = 0.41$ という価を示した。YK第二型式は前にも述べたように、淡路式向性検査からさらに十数項目を選んでYK第一型式に附け加えたもので、二つの場合の相関値が第二においてより大きいのは当然であるといわなければならない。それにも拘わらずこれらの相関値が余り大きくないのは、YK検査が向性検査と類似しながら、しかもそれとは異なる性格特性を測定するものであることを示すものということができるであろう。

附、YA検査第二型式の作製。　上述の如くYK検査が向性検査と必ずしも同一性格特性を測定するものとは速断しえないとすれば、二つの検査は独立に夫々の存在理由を特つものであるかも知れない。この意味において我々がYK検査作製に用いた技術を淡路式向性検査にも適用して、その内的整合性を高める操作が有意味であると考えられる。もとより我々はかかる仕事を我々の主目的とする暇はない。そこで手近かにある材料で暫定的な接近を試みた。

A．淡路式向性検査の項目分析　先ずYA検査に項目分析を施行して、その綜合得点と各項目との整合性を検定する。材料としては上述皆山中学のデータと、奈良少年鑑別所の16～19才の非行少年428名（VQ 112以上107名、92以下107名）について行われた同鑑別所用の淡路式向性検査結果（高橋雅春氏の好意による）を利用した。その結果有意差を示した項目は**第11表**の通りである。

Table 11　淡路式向性検査の GP 分析（χ^2）

（名皆山中３年生189名、奈良少年鑑別所 423名）

	項　　目	皆山	奈良		項　　目	皆山	奈良
1	些細なことを気に病む	8.0*	12.2*	26	話好きである	26.6*	16.8*
2	仲々決心がつかない	5.0	4.2	27	気むずかしい	8.1*	32.2*
3	何事にも大事をとる	4.0	23.5*	28	よくじようだんをいう	24.2*	21.1*
4	決めた意見にこだわらない	6.6	2.7	29	人のおだてにのりやすい	3.8	3.9
5	思案するより活動が好き	13.0*	11.2*	30	剛情である	—	20.3*
6	陰気である	13.5*	15.1*	31	不満が多い	5.2	4.6
7	失敗にこりる	8.5*	3.7	32	人のうわさを気にしない	—	11.2*
8	のんきである	5.3	—	33	人の批評はしない	—	—
9	口数が多い	11.6*	15.7*	34	物事を人委せにできない	—	—
10	感情をすぐ外にあらわす	—	15.7*	35	人から指図されるのが嫌い	—	8.2
11	よくはしやぐ	10.0*	6.5	36	人のあつかいがうまい	14.8*	—
12	気が変りやすい	—	27.0*	37	人のいうことを素直にきく	3.4	3.9
13	物事にこる	5.3	5.7	38	気がきかない	4.1	—
14	しんぼう強い	—	—	39	隠しだてはしない	3.7	—
15	理屈ぽい	—	—	40	すぐ人に同情する	3.5	7.1
16	議論が過激になりやすい	—	—	41	すぐ人を信用する	5.2	—
17	用心深い	—	22.2*	42	仲々恨みが忘れられない	3.1	19.1*
18	動作がきびきびしている	3.5	2.9	43	はにかみやである	8.8*	5.1
19	仕事をなげやりにしない	—	—	44	独りぼつちでいるのが好き	11.7*	6.5
20	派手なことが好き	10.5*	2.7	45	仲々友達ができない	11.3*	24.2*
21	仕事に夢中になる	—	—	46	人前でも平気で話す	13.0*	22.2*
22	空想家である	—	—	47	人中ではいつも引こんでいる	10.4*	31.4*
23	潔癖である	—	4.2	48	誰とでも平気でつきあう	20.0*	16.0*
24	持物をそまつにする	6.9	—	49	世話好きである	—	4.6
25	無駄づかいが多い	—	—	50	物惜しみをしない	—	7.9

註、奈良のテストは上のものとはややその表現を異にする。* 印は後（111頁）に述べる規準からみて、内的整合性を有すると思われる項目。

以上の結果から整合性のない項目を省き、それを他から補うために、今度は皆山中学生を YA 検査の得点によつて四分の一ずつの G 群と P 群とに分かち、それによつて YK 第一型式の各項目に GP 分析を施した。有意差のある項目は次ぎの通りである。

1.	多勢と一緒にいるのが好き	(17.9)	30.	無口である	(10.8)
3.	いつもほがらか	(8.3)	31.	引こみじあんである	(3.9)
5.	話好きである	(10.4)	34.	神経質である	(2.9)
11.	誰からも好かれる	(5.2)	37.	あまりじようだんをいわない	(4.8)
14.	人の中に出てもまごつかない	(3.9)	43.	いつも自分は駄目だと思う	(10.3)
15.	よくじようだんをいう	(13.5)	45.	きめたことは変えない	(3.6)
16.	誰とでもよく話す	(16.0)	49.	ぼんやり考えこむ癖がある	(3.3)

以上の結果を基礎として改訂の試みをしたものが **YA 第二型式**である。

YA 向性検査第二型式

1. 些細なことを気に病む
2. 仲々決心がつかない
3. 何事にも大事をとる
4. 決めたことはかえない
5. 思案するより活動が好き
6. いんきである
7. 失敗にこりる
8. のんきである
9. 無口である
10. 気持をすぐ顔にあらわす
11. よくはしやぐ
12.* 剛情である
13. 物事にこる
14. あまり冗談をいわない
15. いつも自分は駄目だと思う
16.* 気むずかしい
17. 用心深い
18. 動作がきびきびしている
19. 神経質である
20. 派手なことが好き
21.* 不満が多い
22. ぼんやり考えこむ癖がある
23. 潔癖（きれい好き）である
24. 持物をそまつにする
25. いつもほがらかである
26. 話好きである
27. 引込みじあんである
28. よくじようだんをいう
29. 人のおだてにのりやすい
30. 誰からも好かれる
31. 人中に出てもまごつかない
32. 自分の評判が気になる
33. 多勢と一緒にいるのが好き
34. 誰とでもよく話す
35. 人から指図されるのが嫌い
36. 人のあつかいがうまい
37. 人のいうことを素直にきく
38. 気がきかない
39. 隠しだてはしない
40. すぐ人に同情する
41. すぐ人を信用する
42. 仲々恨みが忘れられない
43. はにかみやである
44. 独りぼつちでいるのが好き
45. 仲々友達ができない
46. 人前でも平気で話す
47. 人中ではいつも引こんでいる
48. 誰とでも平気でつきあう
49. 世話好きである
50. 物惜しみをしない

以上のように改訂の試みをしたが、その基礎となつた資料は極めて片寄つたものであるから、これは今後にこれと同方向の改訂を試みる人に対する参考の意味を有するにすぎない。12,* 16,* 21* 番の如く社会向性項目を私行向性項目の方に移したことにも勿論疑問がある。なお「気が変りやすい」という項目は奈良のデータでは淡路式で要求されるのとは反対に内向項目として有意であつたことが注目される。

Ⅲ 第一部の結び

性格に極めて一般的な型があるかどうかは今のところイエスともノーともいいかねる。しかし多くの学者がそのことを主張したし、又常識もそのことを期待するようにみえる。因子分析の結果は知能におけるgの如きものをまだ見出していない。そのことについては第三部において述べるが、とにかくそういう一般的な型、若くは傾向を見出すことができれば、色々な点で便利であることは論をまたない。我々は淡路式向性検査に近いもので、しかも可成り異なる点を有する綜括的自己診断検査を構成することに成功した。少くともそれは淡路式よりは内的整合性の視点において著しく程度が高く、綜合評点を算出することに対して何等の危惧をもいだく必要のないようなものである。

しかしこの検査は一体何を測定しているのであろうか。若し極めて限られた性格の一小部分のみに限定されるとすれば、内的整合度が高くなつたということは少しも進歩とはいえないであろう。

周知の如く淡路式向性検査はその前半25問が私行的特徴をテストし、後半の25問は社会的特徴をテストするものといわれる（1. p. 432)。これは「選定された問題をその心理的性質に従つて配列して見たところ、偶然にこの二種の部類を成すことが見出された」のである。従つてこの二つの区分に余り拘泥する必要はないが、若し向性なるものが性格の機能的な一般特性を示すものとすれば、それが私行的状況において現われるか、対人的状況において現われるかは、ただ現象的区別であつて、元型を問題とする性格検査にとつては余り重要な区別とはいいがたいようである。

これに反してYK検査の前半後半の区分は、その出発点が循環性及び分裂性の区分から出発したという事情があつて、多少ともこの二つの性格特性を代表しているのではないかと思われる。尤もこの二つの特性が真に機能的意義を有するか否かはおのずから又別問題であるが、第二部の第20表に見られるように一方（Y）は社会的状況に働く諸因子（S,R,G,A等）との相関が高く、一方（Y'）は情緒的諸因子（D,C,I,N,等）との相関が高いことなどを見ると、両者はやはり何か機能的、源泉的特性を示すものではないかという想像が根拠のないものではないようにみえる。

のみならずこの Y と Y' とを合した YK 検査の綜合得点が、そこに見られる殆んどすべての諸因子と相当高い相関を示すことを見ると、Y 及び Y' の関係は可成り独立してはいるものの、又両者が合しても綜合採点を可能にするような unit を構成しているものであることが想定される。果してこれが性格的な "g" であるか否かはここでは未定のままに残して置かなければならない。

とにかくこれらの事実は、YK 検査の測定するものが決して限られた狭い範囲の特徴ではなく、性格の全般的な型、傾向、trends とでもいうべきものであるといえるように思われるのである。

こういう一般的傾向の綜括的診断検査が必要欠くべからざるものであることは、淡路式向性検査が広くかつ強く社会から要望されたということからも明らかであろう。ただその妥当性と信頼性とに問題があつたのであるが、我々の検査が若しこの欠点を幾分なりとも補うことができたならば、我々の努力は酬いられるわけである。それにはこの検査の性質に対する充分な理解と、その巧みなる適用とが要求される。我々の叙述がその手引きになりうれば幸甚である。

第二部　特性別自己診断検査の作製

研究担当者　竹　本　照　子

I 出発点

前章においては極めて一般的性格特性と考えられる向性の検査についても、GP 分析法を適用することによつて、綜合点を与えることに対して妥当な根拠を示すことができた。本章においては同様の方法によつて種々異なる多くの特性に対しても、夫々自己矛盾のない項目群を選定して、特性別に妥当な得点を出しうるような検査を作製しようとする。

その出発点として我々は Guilford-Martin の三つの inventory, 即ちＳＴＤＣＲ, ＧＡＭＩＮ, 及び Personnel Inventory を使用することにした。これら三つの inventory は13の性格特性を診断することができるものである。

次ぎに Guilford の仕事の大略を述べておくことにしよう。Guilford は最初 (3) 一般に使用されている向性検査から重要と考えられる36項目を選出し、930 名の大学生に回答させた結果からテトラコリツク係数を算出した。次ぎに Thurstone のセントロイド法を用い、軸の回転を行つた結果五つの独立的性格特性を見出して、これらを S (social introversion) E (emotionality) M (musculinity) R (rhathymia) T (thinking introversion) と名づけた。rhathymia とはギリシヤ語で「のんきさ」を意味する語であり、又Ｅ因子は後にC (cycloid disposition) と呼ばれるようになる。Guilford はこの分析を基礎として、さらに ＳＥＭ 3因子を含むと想像される問題１２３題を選び、これを 815 名（男382名、女433名）の新被験者に回答させ、S に対しては重要と思われる15問、E に対しては13問、M に対しては 12 問に対する得点から上下各４分の１の被験者を選出して、この２群の被験者群による各問題の回答率を算出した[1]。かかる操作を項目分析、かかる被験者を特徴被験者、かかる項目を特徴項目と名づけるならば、かれはこの第一次項目分析につづいて第二の項目分析を施行したらしい。この第二次項目分析に用いた特徴項目としては第一次項目分析によつて見出された因子負荷量の大きな項目中、他因子と共通でないものを選んでいる。即ちＳ特徴項目としては、１．人中ではだまつている傾向がある（負荷量 .72)。２．人中では後の方に引込んでいる傾向がある（ .66)。３．多くの人と知合になるのを喜ばない（ .65)。４．実際の経験より読書による経験を尊ぶ（ .43)。５．ゆつくり考えて行動する（ .41)。６．話すより書く方が自分の気持を表現しやすい（ .35）の６項目である。この場合例えば集団行動で指導的役割を演ずることを好まない(.50）の如きは思想的内向性を示すものと解釈される他の因子においても大きな負荷量（ .50) を示している故に省かれる。かくして同様にＥ因子の純粋特徴項目としては、1. 気分の動揺が激しい（ .57）。2. 感情を傷けられやすい（ .56)。３．未来の不幸を心配する（ .54)。４．しばしば空想にふける（ .42)。５．自分自身について考えていることが多い（ .35) の５項目、Ｍ因子の純粋特徴項目としては、１．男

註1）因みにこの場合 $r_{SE}=+.463$, $r_{SM}=+.402$, $r_{EM}=-.010$, であつた。

性である（ .83)。2．ぼんやりしていることは少ない（ .47)。3．物を売ることを好む（ .44)。4．自分から進んで日記をつけたことはない（ .42)。 5．自分の仕事を見ている人があるのを好む（ .34）の5項目が選ばれた。

ほぼ同様の操作によつて Guilford は D R T A の4因子、及びN, GD の2因子についても項目分析を施行している。前者に関しては (4) 先ず89項目を1,000名（男610、女390）の大学生に回答せしめ、その中30項目を分析して9つの因子を見出した。かれは第一因子を D (depression) と名づけたが、これについて負荷量の特に大きな項目は次の六つである。1．しばしばゆううつになる（ .66)。2．未来の不幸を心配する（ .63)。3．しばしば考えこむ（ .57)。4．のんきでない（ .53)。6． 自らを反省する（ .41)。第二因子は R (rhathymia) であり、1． 気がるなたちである（ .76)。2．のんきである（ .64)。 3．実行する前に熟考することがない（ .55)。4．衝動的である（ .47)。 5．しばしば刺激を求める（ .40)。 6．勉強より運動が好き（ .40)の6項目について負荷量が大きい。第三因子は LT (liking for thinking) といわれ、1．むずかしい問題について考えるのが好き（ .64)。 2．謎を解くのが好き（ .61）という2項目について負荷量が大きい。第四因子は前論文で Sと名づけられたものと同じ因子と考えられ、1．人中で後の方に引込んでいる（ .69)。2．見知らぬ人と話し始めるのに困難を感じる（ .65)。3．多くの人と知合になるのを好まない（ .55）の3項目について負荷量が大きい。第五因子ははつきりした性格をもつていない。第六因子は前論文における T 因子であるが、前の LT から区別するために知的指導性 (intellectual leadership) とも名づけられている。負荷量の大なる項目は、1．内省的（ .57)。2．しばしば考え込む（ .47)。3．他人の動機を分析する（ .48)。4．友人と真面目な問題を議論するのが好きである（ .39）の四つである。第七因子は A (alertness) と名づけられ、1．周囲の事物と密接な接触を保つ（ .78)。 2．周囲で起る事柄に人一倍注意する（ 75)。 3．自分の直接的環境に対して人一倍アラアト、即ち気をくばつている（ .54）の3項目において負荷量が大きい。第八及び第九因子は負荷量の特に大きな項目がなく、剰余因子と考えられた。

N 及び GD 両因子に関する研究 (5) は選ばれた100項目を600名の大学生に回答させ、そのうち24項目について因子分析を行つたものである。七つの因子がえられたが、そのうちはつきりしたものは二つであつて、一つは N (nervousness)、他は GD (general drive) と名づけられた。第一因子 N に対して負荷量の大きな項目を挙げると、1．一寸したことが仕事の邪魔になる（ .53)。2．坐つていても落付かない（ .55)。3．予期しない刺激で驚かされやすい（ .51)。4．しばしば不眠に悩まされる（ .48)。5．何かするのに人一倍エネルギーを消耗する（ .44)。6．坐つているとき色々身体の位置を変化する（ .43)。 7．鉛筆をなめたり爪をかんだりするような神経質的習慣をもつ（ .42)。8．講義を聞いていながらいたずら書きなどをする（ .42)。9．困難な状況ではじきに汗をかく（ .34)。10. 感情をじき外にあらわす（ .33)。11. 気がるでない（ .33)。12. 仕事を途中で邪魔されるのを好まない（ .32)。 13. 人中で爪の掃除をする人を見るといやな気がする（ .24）の13項目である。又第二因子 GD に対して負荷量の大きな項目は、1．動作が速い（ .81）2．短かい時間に沢山の仕事をすることができる（ .60)。 3．一つの仕事から他の仕事へと忙しく立働く

(.53)。4．口数が多い (.45)。5．気がるなたちである (.40)。6．食事が人より速い (.38)。7．実行する前に熟考することがない (.36)。 8．時間があるのに急いで行く (.34)。 9．ゆつくり考えて行動する方でない (.28)。10. 感情をじき外にあらわす (.23) の10項目である。この他第四因子として、1．一日のうちで色々仕事に変化のある職業を好む (.81)。 2．しばしばちがう種類の仕事がしたい (.80)。 3．ゆつくり考えて行動する方でない (.57) という3項目に可成り高い負荷量をもつ因子がえられたが、その意味がはつきりしないので Guilford はこれに命名しなかつた。その他の因子は負荷量が低く特徴がない。

さてその後の経過ははつきりしないが、上のような操作の結果、前に述べた S T D C R 及び G A M I N と呼ばれる検査バツテリーが構成され、さらに幾分性質がちがうが O Ag Co という三つの因子を含む使用者検査用質問表が構成されたのである(6,7,8)。次ぎにこれら13因子の性質を簡単に説明しよう。

S (社会的内向 social introversion) 積極的性質―羞恥心、隠遁性、社会的接触を避ける傾向。消極的性質―社交性、社会的接触を求める傾向、人と一緒にいるのを好む性質。これに対する項目例―知合を選ばれた少数に限る、人中でだまつている、未知の人と話し始めに困難を感じる、しばしば淋しがる、夕方を一人で過ごす、人生を真剣に考える、赤面する、人に指導的役割を委ねる。

T (思考的内向 thinking introversion) 積極的性質―瞑想的又は反省的傾向、哲学的傾向、自己又は他人を分析する傾向。消極的性質―外向的な思想傾向。項目例―他人の動機を分析する、過去を追憶する、人生を真剣に考える、むずかしい問題を解くのを好む、しばしば物思いに沈む、こまかいことに注意する、気むずかしい、ほめられると仕事がよくできる。

D (抑鬱性 depression) 積極的性質―いつも陰気である、悲観的気分、罪悪感。消極的性質―快活さ、楽天主義。項目例―気むずかしい、自己を意識する、しばしば空想にふける、心配性である、気分が動揺する、感情を傷けられやすい、淋しがる、決心がつかない、劣等感がある、興奮しやすい。

C (循環性傾向 cyclic tendency) 積極的性質―著しい気分の変化、驚きやすいこと、情緒的不安定性。消極的性質―気分の安定性、気持にむらがないこと。項目例―気むずかしい、一時の衝動にかられる，ほめられると仕事がしやすい、しばしば仕事を変える、空想、心配、気分の動揺、感情を傷けられやすい、衝動的、興味がすぐ変る、淋しがる、感情的、ぼんやりしている。

R (のんきさ rhathymia) 積極的性質―気がるである、のんきである、活潑さ、衝動性。消極的性質―腰が重い、ぎこちない、自己意識が強い、生真面目である。項目例―のんきである、一時の衝動にかられる、刺激を求める、議論が飛躍する、活潑である、人をからかう、じつとしていない。

G (一般的活動性 general activity) 積極的性質―烈しい活動に対する一般的な圧力。項目例―動作が速い、速く食事をする、速く歩く、活潑である、はりきつて仕事を始める、急ぐ、口数が多い、衝動的、無鉄砲、集団の指導者となる。

A (支配性 ascendance) 積極的性質―社会的指導性。項目例―未知の人との話し始めに困らない、困難にもめげない、組織的才能がある、社会的主導性をとる、人中で喋るのが好き、責任をとる、不時の出来事を先に立つて処置する、自分の権利を守る、商売が上手。

M（男子性 masculinity） 項目例—身体的に強くなりたい、蛇、暗闇、深い水を恐れない、文学、音楽、絵画、ダンス、草花、看護人よりも数学、科学、政治、狩猟、賭博、鉱山師、請負師を好む。

I（劣等感 inferiority feeling） 積極的性質—自信の缺乏、自己の過小評価、不適応感。項目例—失敗したと感じやすい、じき当感する、興奮すると仲々平静に戻らない、不器用である、人からはげましてもらいたい、人から無視されることが多いと思う、ぼんやりしている、じき力をおとす、決断がおそい。

N（神経質 nervousness） 積極的性質—驚きやすい、落付かない、気が散る、いらいらする、色々なことが気にかかる。消極的性質—平静である、沈着である、ゆつたりしている。

O（客觀性の欠乏 lack of objectivity） 積極的性質—何でも自分に関係付ける、過敏性、じきうろたえる、神経質である、批評を気にする、人に面倒なことを押しつける、じき気分を害する、色々なことを気にする。

Ag（愛想のないこと lack of agreeableness） 積極的性質—人の意見をききたがらない、大抵の人を馬鹿だと思う、負けずぎらい、友好的でない、威張るのが好き、利己的である、しばしば人と争う、人の意見を軽蔑する、自負心が強い、あつかましい。

Co（協調性の欠乏 lack of cooperativeness） 積極的性質—人を信用しない、人はずるけるものと思つている、交通整理を好まない、上役を好まない、財閥に反感を抱く、あらゆる成功者に対して疑惑をもつ。

以下参考のため **Guilford-Martin** の三つのテストの項目を掲げておこう。

An Inventory of Factors S T D C R の項目は次の通りである。原文は質問形になつているが、以下では叙述形に直して簡単に意訳しておく。括弧内の左側は yes, 中は？、右側は no を意味し、指数のない項目には1点、指数2の項目には2点が与えられる。

1 書くより話す方が気持を伝えやすい（——S）
2 友達の数は少い方がよい（S—R）
3 会合ではいつも指導的な役目を引きうける（——S）
4 心配性でない（R_2—T）
5 こまかい、めんどうな仕事が好きである（T—R）
6 いんきである（TDC—R）
7 知らぬ人と話す時は固くなる（S——）
8 よく考えないでうつかり行動することが多い（CR—T）
9 ほめられると仕事がよくできる（TC——）
10 いろいろちがう仕事がしてみたい（CR——）
11 目上の人の前に出ると固くなる（SD,S,R）
12 空想にふける癖がある（DC——）
13 人生は楽しめるだけ楽しむのがよい（TR_2——）
14 何か不幸が起りそうで不安である（DC——）
15 時々ボカンとしていることがある（C——）
16 人の批評は余り気にしない（R——）
17 会合の席ではいつも後の方に引つこんでいる（SD,S,R）
18 勉強より運動が好きである（R—T）
19 親しい者から待たされると、かんしやくを起す（DR——）
20 人中に出て話をするのが好きである（T,S,SD）
21 過去のことや未来のことはあまり考えない（——TD）
22 気分がしばしば動揺する（TDC——）
23 動作はあまり活潑でない（——R）
24 人よりもおこりつぽいたちである（TDC—R）
25 色々な人と知合いになるのが楽しみである（—S,S）
26 人中ではだまつている（S—R）
27 新しいことにもすぐなれる（R,S,S）
28 感情を外に表わしやすい（C——）
29 いつも自分について考える（TD,D—）
30 人の気持を色々分析する傾向がある（T_2——）

31 いつも世間の事に気をつけている（R——）
32 度々ゆううつになることがある（DC,DC—）
33 大事なときになるとガタガタふるえてくる（SC,SC—）
34 仲々決心がつかない（S,S—）
35 起きていても夢ではないかと思うことがある（SD,S—）
36 人と一緒にはしやぐことはめつたにない（——R）
37 人中でしやべるのは気が引ける（S,S—）
38 新しい友達はめつたにできない（S,S—）
39 衝動的である（自分がおさえられない）（CR_2——）
40 社交的な集りの中心になる（—S,S）
41 度々元気がなくなる（DC——）
42 人が見ていると仕事ができない（S—R）
43 度々考え込む癖がある（T_2——）
44 とてもありそうもないことを空想する（CR,C—）
45 異性（男なら女）の前では人一倍恥かしがる（S,S,R）
46 用心深いたちである（——R_2）
47 いつも何か刺激がほしい（R_2——）
48 興味がじきに変りやすい（CR——）
49 過去の事を考え込む癖がある（T_2DC——）
50 わけもなく自分がみじめだと思うことがある（DC,D—）
51 度々自分が悪いという気持に悩まされる（D,D—）
52 時々一人ぼつちだと思うような時がくる（SDC——）
53 他人から批評されるとひどく悲観する（DC,D,R）
54 はずかしがりやで困る（S,S—）
55 陽気な会に出るより家で本を読む方がよい（ST—R）
56 恥をかいた経験は人一倍忘れられない（STD,D,R）
57 仕事にいろいろ変化のある職業につきたい（CR——）
58 早く決心すればよかつたと後悔することが多い（DC,C—）
59 感情的である（C——）
60 気が散つて困る（DC——）
61 話かけられた時気楽にすぐ返事ができる（R—S）
62 早合点の傾向がある（CR_2——）
63 指導的な役目は他の人にやつてもらいたい（S——）
64 空想にふける（C——）
65 わけもないのに喜んだり悲しんだりする（DC——）
66 人目に立つようなことが好きである（——S）
67 人からからかわれても、めつたに怒らない（C—D）
68 人のすることの裏を考えることが多い（T_2——）
69 実行する前には、もう一度ゆつくり考える（——CR_2）
70 多勢の人に見られていると思うと落付けない（S——）
71 何が起つても割合平気でいられる（T——）
72 後からああすればよかつたと思うことが多い（S—T）
73 活潑である（R_2,S,S）
74 深く物事を考える傾向がある（T_2——）
75 自分はつまらぬものだと思う（DC——）
76 困ることがあつても朗らかでいられる（——DC）
77 人をからかう癖がある（R_2——）
78 往来では何んだか人から見られているような気がする（C——）
79 人中にいてもふと淋しくなることがある（D,D—）
80 いつも人に引け目を感じる（劣等感がある）（SDC,S,R）
81 政治家より科学者になりたい（S—R）
82 馬鹿正直である（ST_2D—R_2）
83 自分で話すより人の話をきく方である（S——）
84 人はいつも自分のうわさをしているように思う（TD,D—）
85 一人でゆつくり考える時がほしい（T—R）
86 時々その日の出来事が気になつて眠れない（DC,D—）
87 何のあてもなく散歩に出ることがある（R_2—T）
88 いやな人は道で出会つても避けて通る（D——）
89 すぐ誰とでも友達になれる（—S,S）
90 動作はハキハキしている（R—S）
91 人前に出るのは恥かしい（SDC,S,R）
92 講演を聞いていてもそわそわしていることが多い（R_2—T）
93 人は度々私を誤解することがある（DC——）
94 異性（男なら女）の友達はほとんどできない（S——）
95 時々気が散つて考えがまとまらない（C,C—）
96 しばしば興奮することがある（DCR,C—）

97 親友にも自分のことを話すのは好まない
(——R)
98 余り身なりはかまわない(——R)
99 友達と真面目な話をすることを好む(T_2——)
100 会合の席では余り自分の意見をはかない
(——R)
101 むずかしい問題を考えるのが好きである
(T_2——)
102 自分の心を反省(分析)するのが好きである
(T_2—R)
103 一人きりでいたいと思うことが時々ある
(TDC——)
104 人の行いが大変気になるたちである(T——)
105 何でもよく考えて見なければ気がすまぬ
(T_2——)
106 未来のことには興味がない(R—T)
107 運動競技を見ているときはいつも夢中になる
(R——)
108 坐つていると気が落ちつく(——D)
109 人づきあいはよい方である(CR,S,S)
110 真面目な劇より万才がよい(R——)
111 疲れていても仲々寝つかれない時がある
(DC——)
112 極めてのんきな性質である(R_2—T)
113 自分の仕事に生命をささげる(T—R_2)
114 人の中で働いている時が一番楽しい(R—ST)
115 世の中には不幸より幸福の方がずつと多いと思う
(——S)
116 しばしば物思いに沈むことがある(T_2DC——)
117 心配で眠られぬことが度々ある(DC——)
118 人との交際が好きである(R—S)
119 今の青年は道徳的に昔よりも優れていると思う
(R——)
120 過ぎ去つた失敗をいつまでも気にする傾向がある
(TDC——)
121 頭の働きがよくなつたり悪くなつたり定まらない
(C,C—)
122 いつも出来るだけ人を避ける傾向がある
(SC,S—)
123 お祭さわぎが好きである(R—T)
124 失敗するとそれがいつまでも忘れられない
(TDC,DC—)
125 会やグループのために働くのが楽しみである
(R——)
126 自分の将来については極めてのんきである
(—D,D)
127 生きるのがいやなほどゆううつな時がある
(DC——)
128 こちらから求めて友達を作ることが多い
(R,S,S)
129 過去の過ちを考えてくよくよ時を浪費する
(DC——)
130 世間からはなれて暮らすのはたまらない
(—S,S)
131 生きがいのあるようなことはめつたにないと思う
(DC——)
132 時々眠る前にその日の出来事をずつと振りかえる
(TDC——)
133 世間のつきあいは全く時間の浪費である
(D——)
134 不平が多いたちである(T_2C——)
135 いいかげんな宣伝をしている人を見ると腹が立つ
(TD——)
136 人が来てうるさいと思うことが度々ある
(TD——)
137 思うようにならないと人を恨む(C——)
138 気分は大体おだやかな方である(—DC,DC)
139 娯楽に行くときは大抵連れがある(—C,C)
140 大体いつも機嫌がよい(—D,D)
141 くだらぬ考が頭を去らないので困ることがある
(DCR——)
142 人との交際はうまくやつていく方である
(—S,SD)
143 勝負に負けてくると、ひどくあわてる(C,C—)
144 昔よかつたことを考えて時をすごす(CR——)
145 偉い人に会う時は尻ごみされる(SC,SC—)
146 いつも疲れた気持である(D,D—)
147 昔の自分は死んでしまつたと思うことがある
(C,C,T_2)
148 人中に出ても別段固くならない(T_2—S)
149 友達が出来ても余り長つづきしない(R——)
150 色々な実世間の活動がしてみたい(R—S)
151 人前で赤面して困ることがある(S—R)
152 会話の最中にぼんやり考えこむことがある
(TDC——)
153 自分は人から余りよく思われていない(C——)
154 人からじろじろ見られているような気がする
(DC——)
155 元気が溢れたり消耗したりして変化が激しい
(C,C—)

156 時々なぜ人はあんなことをするのかと考えてみる（T_2——）
157 秘密を打明けられる人はめつたにない（不明）
158 人とつきあうより本に親しむ方が面白い（不明）
159 時々何に対しても興味がなくなる（DC,D—）
160 計画を立てるより早く実行がしたい（R——）
161 時々人生の意義について考える（T_2——）
162 怒りやすいがじきなおる（CR——）
163 時々5年先きにはどうしているかなどと考える（C——）
164 退屈した時には何か強い刺激がほしい（CR——）
165 いつも健康である（—D,DC）
166 お客をもてなすのが楽しみである（—S,S）
167 周囲の人々の気分がすぐ自分にも伝染する（DC,D—）
168 人中で間違つたときは人一倍悲観する（S,S,R）
169 空想にふけるのが楽しみである（TC——）
170 今は不幸でもやがて幸福な時が来るだろう（C——）
171 人と一緒にいるのは気づまりである（SD,S—）
172 陽気に仲間と時を過ごすのが好きである（CR,S,S）
173 自分の気持を反省することは好まない（R—T_2）
174 何でもめんどうなことは好まない（——T）
175 上のようないろいろの質問はばからしいと思う（——T）

The Guilford-Martin Inventory of Factors G A M I N の項目は次ぎの通りである。この目録は G項41、A項50、M項52、I項69、N項69から成り、このうち9項目だけが重複している。採点紙がないため精確な対応がわからないので、それは省略することにした。なおこの目録には186問から成る省略形がある。

1 誰でも自分については自分が一番よく知つている
2 自分の性格は他の人とは大分ちがつている
3 てきぱきと物事を片付ける
4 どちらかというと不器用である
5 人中でお化粧をする人を見るといやな気がする
6 実行する前にもう一度考えなおしてみる
7 気持を顔にあらわしやすい
8 目立つような席に坐るのを好まない
9 物を値切つて買つたことがある
10 物売りなどを断ることが仲々できない
11 人から云われずに日記をつけた経験がある
12 自分のよいと思うことは人にもすすめたい
13 深い水のあるところは恐ろしい
14 何事もあまり迷わずに実行ができる
15 思うようにならないとすぐ気がくじける
16 痛みは割合平気で我慢できる
17 涙もろい
18 自分の財産は不当に監理されている
19 人はいつも自分をみとめてくれる
20 自分のなすべきことに余り迷うことはない
21 余り永い間両親から離れて暮したくない
22 人からいつも注目されているような気がする
23 新しいスポーツを習いたいとは思わない
24 人の成功に対してはいつも気楽にお祝をいう方である
25 いつもペンや鉛筆に力を入れて太い字を書く
26 つまらぬことでいらいらすることが多い
27 人から軽蔑されるとすぐ腹を立てる
28 馬が虐待されるのを見るとたまらなくなる
29 自分には大抵のことができそうな気がする
30 退屈することが多い
31 気のきいたことをいおうと思うがいつもおそすぎる
32 自分は社会から適当な報酬を払われている
33 目上の人に叱られるとすぐ泣きそうになる
34 困難な時は却つて虚勢を張り通す
35 劣等感で強く苦しむことがある
36 健康は人並み以上である
37 映画やラジオで度々興奮することがある
38 ぐずぐずする人をみているといらいらしてくる
39 坐ればじき気分がおちつく
40 急に刺激されるとひどく驚くことがある
41 押売りを断るのがむずかしい
42 押しつけがましい人は避けるようにしている
43 店員が後から来た人を先きにすると注意してやる
44 自分の仕事をのぞき込む人は好まない
45 多くの人と知合になるのが楽しみである
46 自分の着物のことでからかわれるとすぐ気を悪くする
47 食事は人一倍速い方である
48 動作はゆつくりしている方である
49 いつもはりきつている

50 あわてると仲々落付くことができない
51 興味が度々変化する
52 図書館員より建築家になりたい
53 映画や劇のラヴシーンを好む
54 自分をおさえることができない方である
55 自分が主となつて会を作つた経験がある
56 人前で目上の者から呼びかけられるのは好まない
57 どちらかというとおこりつぽいたちである
58 どんなことでもうまくやる自信がある
59 蛇はおそろしい
60 人のニキビを見るのはいやらしい
61 若い時分には楽しい時があつた
62 新しい計画を実行してみたい
63 同年輩の者に比べてお金を作ることがうまい
64 しようと思つていることを催促されると腹が立つ
65 自分のためより上役のためによく働く
66 鉱山で働くより草花が作りたい
67 釣針にかかつた魚が可愛さうに思う
68 いつもまめに働くたちである
69 友人や家族の世話ばかりしている
70 人から向う見ずだといわれることがある
71 自分の計画はいつもなるべく変えたくない
72 人のうわさに過敏である
73 目上の人がいるといつも固くなる
74 政治家よりも芸術家になりたい
75 人よりもずつと早く仕事をすることができる
76 勉強よりも運動が好きである
77 困難な時には汗をかくことが度々ある
78 一つの仕事が済むとすぐ他の仕事にうつる
79 寄附を募集する役は引受けたくない
80 間違つた発言に対してはすぐ弁駁する
81 夜眠られぬことが多い
82 時々じつと動かずに坐つていることがある
83 何かする時あまり他人に気がねしない
84 競技の時はしばしば固くなる
85 人一倍長い時間眠る
86 失敗しやしないかと心配することが多い
87 人中ではいつもおとなしくしている
88 家族や友人は自分がえらくなると思つている
89 請負師になるより保母になりたい
90 素人劇の仲間入りがしたい
91 なるべく面倒なことにはかかりあわぬようにしている
92 勘定が高いと思うときは遠慮なく申出る
93 名前を云い合う時はいつもこちらから先にいう
94 人に勝手なことをされても大概はだまつている
95 仲々笑いが止まらぬことがある
96 しばしば精神的な混乱を感じる
97 夜墓地を平気で通ることができる
98 きたない爪をみるのはたまらない
99 話をきいていてもじつとしていることが少ない
100 ぜいたくな着物を好む
101 汗の臭気を好まない
102 親類は皆成功している
103 友達の数は少ない方がよい
104 羽を傷めた鳥を憐む
105 きしむ音を聞くとむしずが走る
106 いつも静かに落付いていたい
107 自分のすることは大抵正しい
108 自分の能力には自信がある方である
109 往来で人から見られているような気がする
110 大抵の人は自分よりも要領がいい
111 むずかしい問題を考えるのが好きである
112 短い時間に沢山の仕事をする自信がある
113 衝動的である（自分がおさえられない）
114 じつと坐つているのが人一倍つらい
115 鉛筆をなめたり爪をかんだりする癖がある
116 会などをうまく導いていく才能がある
117 講師と意見がちがう時はすぐ質問する
118 よくぼんやりしていることがある
119 人の前で話すのが好きである
120 不精だといわれると腹が立つ
121 いつも時間より早く出かけていく
122 口数が多い方である
123 人からさいそくされないと働かない
124 身体的に人より劣つていると思う
125 植林をやるよりデザイナーになりたい
126 興奮してもじき平静になれる
127 責任は自分ひとりで引受ける
128 野外に獵などに行くのを好む
129 失心したことがある
130 友人から物を借りるのはとてもいやである
131 自分の権利が侵害される時はいつも立上る
132 友達は自分よりは幸福である
133 人はいつも自分の判断を信用してくれる
134 物思いに沈むことが多い
135 順番を乱して列の先に入る人には注意してやる
136 うなされることが時々ある
137 ノミを見るといやな気持がする
138 人から励まされないと仕事に張合が出ない

139 仕事がないときはいつも何か手なぐさみをしている
140 探険家になるより祕書になりたい
141 野卑な言葉をにくむ
142 怒つても原因が去れば速かに回復する
143 興奮的な楽しみより静かな楽しみを好む
144 容姿がもつと美しければよいと思う
145 心が定まらないために時々脱線することがある
146 爪をかむ人を見るのはいやである
147 困難にぶつかるとすぐ気がくじける
148 しばしば刺激を求める
149 一寸したことがすぐ仕事の邪魔になる
150 会合の主役の人に挨拶するのが躊躇される
151 食堂で悪い食物を出された時は直ちに抗議する
152 何か事件が起つた時は進んで手助けをする
153 商売が好きである
154 大勢で何かする時は進んで指導者になる
155 馬鹿といわれると気にさわる
156 強盗が心配になる
157 何かするのに人一倍エネルギーを使う
158 成功欲が人一倍強い
159 神経質な方である
160 じきにうろたえる方である
161 想像の友達をもつたことがある
162 強い感動の後何も手につかぬようになつた経験がある
163 子供の時はよくいうことをきかなかつた
164 買物に欠点があつたときはすぐ取替にいく
165 いやな仕事でも割合我慢してやり通すことができる
166 顔や肩をピクピクさせる癖がある
167 ひげをそらぬ男を見ると気分が悪い
168 自分よりずつと強い相手とでもベストを尽して勝負する
169 人に待たされると人一倍いらいらする
170 見込の少ない場合でも機会をとらえてやつてみる
171 人中で爪の掃除をする人を見ると気分が悪い
172 神経がいらだつことが度々ある
173 勝負事よりダンスの方がよい
174 火を特にこわがる
175 何事も自分の窮極の理想を妨げることはできないと思う
176 子供の時しばしば仲間をリードしたことがある
177 面倒な事は出来るだけ避けるようにしている
178 不利益でもすることはしないと気がすまない
179 ルールに背くプレイヤーには遠慮なく注意する
180 友人が自慢する持物も自分には大抵何でもない
181 人並はずれたことは恥しくてできない
182 用がある時は超過勤務を断つて歸る
183 人違いで挨拶した時はひどく困惑する
184 勝負の横から指図されるのは大きらいである
185 いつも疲れた気持である
186 子供の時仲間はずれにされていた経験がある
187 暗い地下室に入る時別にこわいとは思わぬ
188 道を歩く時は人一倍速い方である
189 大きなクモなどを見ると虫ずが走る
190 同性の友達同志でキスするのはたまらない
191 大きな音でびつくりすることが時々ある
192 気楽なたちである
193 特技又は特別の趣味をもつている
194 いつも何かしていないと気がすまない
195 最近5年間に二度以上何かのリーダーになつたことがある
196 しばしば元気があふれて困る
197 人一倍食慾が盛んである
198 弾の入つている銃を扱うのはこわい
199 しばしば人から好かれないことを恐れる
200 義理で親戚の者をキスするのを好まぬ
201 高いところに立つのは人一倍恐ろしい
202 負けずぎらいである
203 音が永く鳴つていると神経がいら立つ
204 時々生きがいがないように思うことがある
205 時々もつとお金がほしいと思うことがある
206 自分の意見はかえにくい
207 年とつてからのことが心配である
208 就職の件で人に依頼するのは躊躇される
209 文学や美学より数学や科学の勉強がしたい
210 人とけんかをするといつも後で後悔する
211 朝起きた時にも疲労感の去らぬことが多い
212 異性の友達を作りたいという傾向が強い方である
213 いくら喰べてもやせる傾向がある
214 神経をしずめるために薬をのんだ経験がある
215 いくら体をつかつても殆んど疲れない
216 知らぬ人と話すのも別段苦にならぬ
217 負けそうな勝負はすぐなげる
218 肺病などになりはしまいかと心配したことがある
219 時々自分は人生の失敗者だと思うことがある
220 西部劇より何か考えさせる劇の方を好む
221 日中でも休息したいことが度々ある
222 時々自分がもつと美しければと思うことがある

223 理由もなく不安になることが時々ある
224 何かする時は秩序立ててする
225 あやうく乗物に乗りおくれた時ひどく腹が立つ
226 青年時代家から遠く離れたいと思つた経験がある
227 他人は私のことを快活であるという
228 自分の悪口を云いふらす人には必ず抗議する
229 自分はどこか人より優れたものを持つている
230 自分のチームが負けた時は本当にくやしいと思う
231 早く目的地につきたいとあせることが度々ある
232 目上の人とも遠慮しないで議論することがある
233 親が定めた範囲で生活することができない
234 目上の者が余分の仕事を課するといらいらする
235 何だかわからないが何かがひどく欲しいことが時々ある
236 同輩よりも体力が強い
237 今迄に自分に協力してくれなかつた人が沢山ある
238 好きな人が他の人とつきあうと不快である
239 書いたり読んだりしている時のぞき込まれるのはいやである
240 仲間での活動ではいつも端役をさせられた
241 いらいらすると消化不良などを起しやすい
242 時々他人が羨ましいことがある
243 新しい計画にとりつく時は極めて熱心である
244 人中で知つたような人に逢つた時は大抵話しかけてみる
245 もつと力が強かつたらよいと思うことが時々ある
246 仲々決心がつかず機会を失うことが多い
247 物を投げつけたいほど腹がたつた経験がある
248 機敏な行動を必要とする計画に参加するときが一番楽しい
249 話中に電話を切つた交換手にはどなりつけたいほど腹が立つ
250 もつと違つた境遇に生れたらと思うことが時々ある
251 人のすることがおそいのでいらいらすることが多い
252 もつと身長が高かつたら（低かつたら）よいと思うことがある
253 車がつかえてうごかぬ時はひどくいらいらしてくる
254 人からあまり自分のことを聞かれるのは好まない
255 自分より若い者は自分より楽しい生活をしている
256 じつと動かずにする仕事は好まない
257 何かにつけ自分は人から無視されていると思う
258 大抵のことは人よりも先きにすませる
259 近所とうまくいかぬため住居を変えたいと思つたことがある
260 窓が仲々開かない時ひどくいらいらする
261 人に負けないようにもつと強くなりたい
262 家の者が遊びに出ても自分だけ喜んで留守番をする
263 人目に立つようなことはしたことがない
264 最良の配偶者は世の中に一人しかないと思う
265 感情が激するとじき涙が出そうになる
266 できれば一つの仕事が済んでから他の仕事に移る
267 自分の道具を投げたりこわしたりするほど怒つた経験がある
268 現代の社会では婦人は責任がないのに特権ばかりある
269 階段を上る時いつも二段ずつまたぐ
270 自分の癖をからかわれると恨みに思う

The Guilford-Martin Personnel Inventory の項目は次の通りである

1 人には各々適当な職分がある
2 人は金もうけよりも自分の職分を愛することが大切である
3 適当な職分でないと成功することがむずかしい
4 努力すればどんな職業においても成功することができる
5 大概の人は適職についている
6 上役ははつきりと仕事をきめてくれるような人が望ましい
7 過ちを繰返さないことは不可能に近い（——Co_2）
8 個人の自由を束縛するような法律が沢山あると思う（—Co_2,Co_2）
9 いくじのない人は我慢ができない（——Ag）
10 いつも自分について考えている傾向がある（——O_2）
11 援助はしてくれても多くの人はそれで迷惑するのをおそれている（—Co,Co）
12 合法的脱税をする人を見ると不快である（——Ag）

13 度々人の意見がたしかめてみたい（—O,O）
14 人から批評されるとひどく気にさわる（——O_2）
15 Yes man は軽蔑する（——Ag）
16 女は大抵その責任を果たす能力がない（—Co_2,Co_2）
17 自分のよく知つていることで人が困つているのを見ると助けてやりたい（Ag_2,Ag_2—）
18 上役は大抵いやな仕事を目下の者に押しつける（——Co_2）
19 人から指図されるのは好まない（——Ag_2）
20 じきうろたえるたちである（——O_3）
21 誰かに自分の気持を読まれているような気がすることがある（—O_2,O_2）
22 何もかもうまく行かないと思う日が時々ある（—O_2,O_2）
23 社長はできるなら勤労者から昇進するのがよいと思う（——Co）
24 恥をかいた経験はいつまでも忘れられない（——O_3）
25 一方の頬をも向けるような人はなぐられるのが当り前だと思う（——Ag_2）
26 理由もなく人を恐ろしいと思うことがある（——O）
27 独占事業は禁止すべきだと思う（——Co_2）
28 自分の功績を取ろうとする人がある（——O）
29 映画などの人物が自分に似ていると思うことが時々ある（——O_2）
30 人の親切には裏があるように思われる(——O)
31 会のプランは自分のが一番いいことが多い（——Ag_2）
32 交通整理をもつとしつかりやつてほしい（——Co_2）
33 幸福になるには財力が必要だと思う（——Ag）
34 秘密結社は禁止すべきだ（——Co）
35 上役より高い給料を貰うねうちのある人は少くない（——Co_2）
36 責任のないことでひどく罰せられた経験がある（——Co）
37 話はいつも自分の得意な問題になりやすい（——O）
38 悪者でも罰せられれば気の毒だと思う（——O）
39 自分が悪くもないのに窮地に陥ることが度々ある（——O_2）
40 人から噂されて、しかもそれが誰だかわからなかつた経験がある（——Ag_2）
41 世間の人は大抵馬鹿だと思う（——Ag_2）
42 時々人に打明け話がしたい（——O_2）
43 わざと自分を遣ける人がいる（——O）
44 余り無礼な人には歸つてくれといいたくなることがある（——Ag_2）
45 収入以上の暮しをしている人が沢山あるように思う（—Co,Co）
46 保釈制度はよい制度だと思う（Co——）
47 我慢しているのも知らないで私の気持を傷ける人が多い（——O_2）
48 催眠術を使つて私のしたくないことをさせようとした人がある（——O_2）
49 自分は迷惑しても人には成るべくしたいことをさせて置く（A—O）
50 わざといやがらせをする人がある（——O_2）
51 新しい社会に入るときはそこでの重要人物を予め知つて置きたいと考える（——Co_2）
52 人と大いに議論するのが楽しみである（——Ag）
53 法廷でも貧乏人は正当に取扱われないと思う（——Ag）
54 出世するためには嘘をいう人が多い（——Co_2）
55 特に触れられたくない秘密がある（——O_3）
56 ひそかに自分を見張つている者がある（——Co_2）
57 自分の計画は人より優れていることが多い（——Ag）
58 非常に知能の高い人は多くは身体が虚弱であると思う（——Co_2）
59 他人の争いを見てしばしば不快になることがある（——O）
60 悪意で人から無視されたり虐待されたりしたことがある（——Co_2）
61 大抵の人は指導者に盲従する（——Co_2）
62 自分に何かしてくれる人は大抵何かを期待している人だと思う（——Co）
63 講演者が自分に話しかけているように思うことが時々ある（——O_2）
64 ずるい人は誰れかが負かしてくれればいいと思う（—Ag,Ag）
65 大抵の人は人に気付かれなければずるけると思う（——Co_3）
66 些細なことでも議論で負けるのは堪えられない（——Ag）
67 よいことは大抵他人にせしめられるように思うこ

とが多い（——Co_2）

68 人が痛たがるのを見るのはたまらない（——O）

69 今の世の中では引きのない人が出世することはむずかしいと思う（——Co_2）

70 他人の権利を考える人は少ない（——Co_2）

71 いつも自分を人と較べる傾向がある（——O_3）

72 多くの人は閥を作つていると思う（——Co）

73 一般的にいつて自分自身を守れぬ人は虐待されても仕方がないと思う（——Co）

74 物事は自分でしなければ気に入るように行くものではないと思う（—Co_2,Co_2）

75 いつも自分のことばかり考えていなくとも、人は自分の努力で出世することができると思う（Co——）

76 自分はどちらかというと神経質な方である（——O_3）

77 両親の時代より今の方が成功の機会が多いと思う（Co_2,Co_2—）

78 他人は必要以上に私の行動に気をくばつている（——Co_2）

79 退屈したときは何か刺激を求める（——Ag_2）

80 我国の教育制度は色々な点で極めてよくないと思う（——Co_2）

81 人の忠告は大抵すなおに受け入れる方である（O——）

82 専門家でも大抵のことは自分より大して優れているとは思わない（——Co）

83 知合のうちにも監獄に入れてやりたいような人がある（——Ag_2）

84 色々生活様式を変えたいのでもつと収入がほしい（——Co）

85 余り役に立たないくせに報酬だけはよい人が沢山いる（——Co_2）

86 友達を助けるためには嘘をついてもかまわないと思う（——O）

87 友達や家族の者から指図されるとひどく腹が立つ方である（——Ag_2）

88 人の善行はすぐほめる方である（O——）

89 人は度々自分のかげ口をいうようである（——Co_2）

90 親友や家族の者がひどく痛がるのを見てはいられない方である（——O）

91 時々顔出しをしないと人から無視されるということは本当だと思う（——O）

92 スパイのような人を個人的に沢山知つている（——Co_2）

93 大抵の人は心から信用してもかまわないと思う（Co_2——）

94 自分の思う通りに人を動かすのがとても楽しみである（——Ag_2）

95 役員は結局自分の利益を計るようになると思う（——Co_2）

96 企業は漸次国営にするのがよいと思う（——Co）

97 じき感情を害するたちである（——O_3）

98 礼儀は大抵深刻な闘争を隠すための粉飾にすぎない（——Co_2）

99 失敗の責任はいつも自分におしつけられる（——Co_2）

100 自分でなくてもすむようなつまらぬ仕事をさせられるのはかなわないと思う（——O）

101 人の同情をうるために自分の不幸を大げさにいう人が沢山いる（——Co_2）

102 人が私を利己的だといつた時或る程度は尤もだと思つたことがある（——Ag_2）

103 ひそかに私を負かそうとしている人があると思う（——Co_2）

104 つまらぬ仕事より、つらくとも面白い仕事が望ましい（——O）

105 財力や権力をえて自分を軽く見る人の鼻をあかしてやりたいと思うことがある（——Ag_2）

106 友人や家族を守るためにいつもトラブルがたえない（——Ag_2）

107 恨みは仲々忘れられない（——Ag）

108 人間の性質はよくない点が多いと思う（——Co_2）

109 誠実な友達は少ない（——OCo）

110 人は私を心臓だという（—Ag_2,Ag_2）

111 あらゆる事が皆自分に関係があるように思われる（——O_2）

112 余り威張る人にはわざと反対がしてみたくなることがある（——O_2Ag_2）

113 わざと私にいじわるをする人が多い（——Co_2）

114 皆が自分に反対しているように思う時が時々ある（——O_2）

115 脱獄囚があつた時何とはなしにつかまらなければよいと思つたことがある（——O）

116 他人の意見をばからしいと思うことが時々ある（——Ag_2）

117 他人から自分のすべきことを注意されると精にさわる（——Ag_3）

118 人と一緒に事をする時取り残されたと思うことが度々ある（——O_2）
119 仲々人にだまされない方である（——Ag）
120 政府はあらゆる市民に立派な生活をさせる義務があると思う（——Co）
121 重要な資材を遊ばせておく人はそれを盗用する人と同じ非難に価する（——Co）
122 私のことを不当に悪く噂する人がある（——O_2）
123 商談の時相手は自分を警戒していることが多い（——Co）
124 自分の今の地位は役不足だと思う（——Co_2）
125 罰せられなければ正直にやつて行く人は少ないと思う（——Co_2）
126 なくし物をした時はじき人を疑う方である（——O_2）
127 圧制者に威張らさせるのは多くの場合威張らせる人に責任があると思う（——Co）
128 時には抗議集会を開いて団結の力で解決しなければならぬ事があると思う（——Co_2）
129 人から裏切られた経験がある（——O）
130 保釈制度は罪人にはよいが社会には有難くない（——Co）
131 人を押しのけるよりも人に押しのけられた方がよい（Ag—O）
132 おせつかいな人にはもつと自分の仕事に気をつけろといつてやりたいと思うことがある（—Ag_2,Ag_2）
133 正義のためには立ち上がらなければならぬと思うことが時々ある（——Ag_2）
134 役員を引き受けるのが好きである（——Ag_2）
135 払えないほどの借金をして困つた経験がある（——Co）
136 団体行動ではなるべく自分の計画を実行させたいと努力する（——Ag_2）
137 人から不当に非難された経験が度々ある（——O_2Co_2）
138 人と争つても自分の権利を守らなければならぬことがしばしばある（——Ag）
139 自分の功績を人に横取りされた経験がある（——Co_2）
140 何か全世界の人にすまぬように思つた経験がある（——O）
141 失敗の責任を人一倍負わされた経験がある（——Co_2）
142 気をつけていないと人はしばしば自分に仕事を押しつける（——Co）
143 特に出しやばらせたくないと思う人がある（——Ag_2）
144 大抵の人は命令されなければ働かないと思う（—Ag_2,Ag_2）
145 その音楽を聞くといつも泣きたくなるような曲がある（——O）
146 多くの人は自分が与えるよりも多くの報酬をえようとする（——Co_2）
147 宣伝に合わないことがわかつて買物を返しに行くことが時々ある（——Co_2）
148 人がかげで自分の悪口をいつているように思うことが時々ある（——O_2）
149 列の前に割込む人には注意してやる（——Ag）
150 ハイ、イ・エ、或は？のしるしを残らずつけましたか

Ⅱ YG性格検査の作製

1. 項目の選擇。 さて我々はこれらの13因子を出発点とし、日本語を用いて、成るべく少数の因子で成るべく広く性格の特徴を把握できるようなテスト・バツテリーを構成しようとする。そのためには先ずこれらの因子を充分に表現し、代表しうるような特徴項目群を見出さなければならない。幸い Guilford の ＳＴＤＣＲ の採点紙を見ると、或る項目に対して特徴的反応を示した特徴被験者群が何々であるかを知ることができる。例えば第一問「あなたは書くよりも話すことによつて自分をよりたやすく表現することができますか」に対しては S 特徴被験者群のみが否定的回答において特に特徴を示したのであろうことが推測される。又第二問「あなたは友達を選ばれた少数に限定する傾向がありますか」に対しては S被験者群の肯定的回答及び R被験者群の否定的回答においてのみ著しい特徴が現われているのである。そこで我々は少くとも ＳＴＤＣＲ に関する限りにおいては、同

じ型の回答を与える項目を抽出していくつかの特徴項目群を作り、これを基礎として項目分析を行うことができると考えた。

かかる構想の下に分析の基礎として適当と考えられる反応の型を抽出した結果、次ぎの如き9種類の特徴項目群がえられた。即ち

1. **S 項目群**、S 被験者群の肯定若くは否定の反応においてのみ特徴を示す項目（12項目）。

2. **S-R 項目群**、S 被験者群の肯定に特徴が現われると同時に、R 被験者群の否定に特徴が現われる項目、及びその逆の項目（12項目）。

3. **T 項目群**、T 被験者群のみの肯定若くは否定に特徴を示す項目（12項目）。

4. **T-R 項目群**、T 被験者群の肯定に特徴が現われると同時に、R 被験者群の否定に特徴が現われる項目、及びその逆の項目（12項目）。

5. **D 項目群**、D 被験者群のみ同上（6項目）。

6. **C 項目群**、C 被験者群のみ同上（6項目）。

7. **DC 項目群**、DC 両被験者群が同時に肯定若くは否定する項目（12項目）。

8. **R 項目群**、R 被験者群のみ同上（12項目）。

9. **CR 項目群**、CR 両被験者群が同時に肯定若くは否定する項目（12項目）。

これらを総計して96項目になるが、これら以外にも同じ型に属する項目がないわけではない。しかし日本の習慣に合わぬものや、表現などがうまくいかないものは除くことにした。又その他にも二つ以上の被験者群によつて特徴的反応が示される複雑な型の項目もあるが、それらも分析の基礎としての純粋性を欠く故に除外された。

G A M I N 等には採点表に上の如き純粋性を識別しうるような表示がないので、それらの因子については常識的に代表価の多いと思われるものを各12項目選出することにした。即ち

10. **G 項目群**、これは Guilford の G 項目（12項目）。

11. **A 項目群**、これは Guilford の A 項目（12項目）。

12. **I 項目群**、これは Guilford の I 項目（12項目）。

13. **N 項目群**、これは Guilford の N 項目（12項目）。

14. **O 項目群**、これは Guilford の O 項目（12項目）。

15. **Ag 項目群**、これは Guilford の Ag項目（12項目）。

16. **Co 項目群**、これは Guilford の Co 項目（12項目）。

この他に第一部で取扱つた YK 検査から

17. **Y 項目群**（12項目）、及び 18. **Y' 項目群**（12項目）を加えた。

但し Guilford の **M 項目**は余りにも心理学的意義に乏しいと思われるので、後にこの検査を西京大学の男女学生各100名に施行した結果から、男女間に有意差を示した項目を選出して、これに充当することにした。

以上の204項目の他、さらに諸種の検査を参照して重要と思われるもの36項目を加え、総計240問のテスト・バッテリーを構成した。

項目の配列は 1, 11, 21番……等に S 項目を配し、下1桁に2のつく番号には S-R、3のつく番号には T、4番に T—R、5番に D 及びC、6番に DC、7番に R、8番に CR、9 番に Y、10番に Y' とした。これら10種類で120 番までを占めるが、121 番から 240 番までの1番には G、2番には A、3番には I (M はこのテストでは省略されている)、4番には N、5番には O、6番にはAg、7番には Co を配し、他の 8, 9, 10番は追加された36問に当てられた。かくして出来上つたテストが**第12表**に示したものであつて、以下これを **YG 予備検査**(矢田部ギルフォド予備検査)と呼ぶことにしよう。

第12表で括弧内の番号はオリジンを示す。S は STDCR, G は GAMIN, P は Personnel Inventory, B は Bernreuter, U は 内田式神経質々問表、YK は 矢田部 Kibler を意味する。

Table 12　YG 予 備 検 査

(アンチク番号は逆に採点したもの)

1(S 1) 話すより書く方が気持を伝えやすい
2(S 2) 友達は選ばれた少数だけでよい
3(S 43) 度々考えこむくせがある
4(S 4) のんきなたちである
5(S 51) 度々後悔で胸が一杯になることがある
6(S 14) 何か不幸が起りそうで不安である
7(S 16) 人の批評は余り気にしない
8(S 8) よく考えずに行動してしまうことが多い
9(YK 1) 多勢と一緒にいるのが好きである
10(YK 27) 心配性である
11(S 3) 会などの時はいつも人の先に立つて働く
12(S 11) 目上の人の前に出ると固くなる
13(S 30) 人の気持を色々と推測してみることが多い
14(S 5) こまかいめんどうな仕事が好きである
15(S 79) 人中にいてもふと淋しくなることがある
16(S 41) 度々元気がなくなる
17(S 31) 周囲の人とうまく調子を合わせていく
18(S 10) 色々ちがう仕事がしてみたい
19(YK 3) いつもほがらかである
20(YK 30) 無口である
21(S 7) 知らぬ人と話す時は固くなる
22(S 73) 活潑でない
23(S 68) 人のすることの裏を考えることが多い
24(S 18) 運動より勉強の方が好きである
25(S 88) いやな人と道で出会うと避けて通る
26(S 50) わけもなく自分がみじめだと思う事がある
27(S 31) 人と一緒にはしやぐことが多い
28(S 39) 衝動的である(自分がおさえられない)
39(YK 4) 気立てがよい
30(YK 31) 引込みじあんである
31(S 25) 色々な人と知合になるのが楽しみである
32(S 42) 人が見ていると仕事ができない
33(S 71) 何が起つても割合平気でいられる
24(S 85) 一人でゆつくり考える時がほしい
35(S 108) 坐つていても気分が落付かない
36(S 58) 早く決心すればよかつたと悔むことが多い
37(S 46) 用心深いたちである
38(S 44) とてもありそうもないことを空想する
39(YK 6) 親切である
40(YK 35) すぐふきげんになる
41(S 37) 人前で話すのは気がひける
42(S 45) 異性(男なら女)の前では人一倍恥しがる
43(S 74) 深く物事を考える傾向がある
44(S 87) 何のあてもなく散歩に出ることがある
45(S 140) 大体いつも機嫌がよい
46(S 65) わけもなく喜んだり悲しんだりする
47(S 47) いつも何か刺激を求める
48(S 48) 気が変りやすい
49(YK 8) いきいきしている
50(YK 42) 気むずかしい
51(S 38) 新しい友達はなかなかできない
52(S 61) 人に対してはいつも気楽に返事ができる
53(S 99) 友達と真面目な話をするのが好きである
54(S 92) いつもそわそわして落付かない
55(S 146) いつもつかれた気持である

56(S 75) 時々自分をつまらぬ人間だと思う事がある
57(S 77) 人をからかうくせがある
58(S 57) 仕事に変化がないとすぐいやになる
59(YK 9) がんこでない
60(YK 41) 度々ゆううつになる
61(S 63) 世話役はいつも人に頼むことにしている
62(S 26) 人中ではだまつている
63(S 101) むずかしい問題を考えるのが好きである
64(S 102) 時々自分で自分の心を反省(分析)する
65(S 15) 時々ボカンとしていることがある
66(S 76) 困ることがあつてもほがらかでいられる
67(S 100) 思つたことは遠慮なくいう方である
68(S 62) 早合点の傾向がある
69(S 27) 新しいことにもすぐなれる
70(S 134) 不満が多い
71(S 66) 人目に立つようなことは好まない
72(S 91) 人前に出るのが恥かしい
73(S 104) 人の品行(行い)が気になるたちである
74(S 106) 未来のことにはあまり興味がない
75(S 28) 気持を顔にあらわしやすい
76(S 117) 心配で眠られぬことが度々ある
77(S 107) 運動競技を見ている時はいつも夢中である
78(S 69) 実行する前に考えなおしてみることが多い
79(YK 14) 人中に出てもまごつかない
80(YK 45) 気がきかない
81 人中ではあがるたちである
82(S 118) 人と広くつきあうのが好きである
83(S 105) 何でもよく考えて見ないと気がすまない
84(S 112) きがるなたちである
85(S 59) 感情的である
86(S 127) 生きるのがいやなほどゆううつな時がある
87(S 110) 真面目な劇より万才の方がよい
88(S 144) 昔のことを考えるのが楽しみである
89(YK 16) 誰とでもよく話す
90(YK 46) はにかみやである
91(S 84) 自分で話すより人の話を聞く方である
92(S 128) こちらから進んで友達を作る事が少ない
93(S 156) 度々人はなぜあんな事をするのかと考える
94(S 113) 仕事はいつも真剣にやる
95(S 95) 時々気が散つて考えがまとまらない
96(S 129) 度々過去の失敗をくよくよと考える
97(S 125) 会やグループの為に働くのが楽しみである
98(S 162) 怒りやすいがすぐなおる
99(YK 18) 何でもあまりめんどうがらない
100(YK47) 些細なことを気にやむ
101(S 94) 異性(男なら女)の友達は殆んどできない
102(S150) 色々な世間の活動がしてみたい
103(S161) 時々人生の意義について考えてみる
104(S123) お祭さわぎが好きである
105(S121) 頭がよくなつたり悪くなつたり定まらない
106(S159) 時々何に対しても興味がなくなる
107(S149) 友達は時々変わる方である
108(S164) 退屈したときは何か強い刺激がほしい
109(YK20) 気持があつさりしている
110(YK49) ぼんやり考えこむくせがある
111(S130) 世間から離れて一人で生活がしたい
112(S151) 人前で赤面するので困ることが多い
113(S174) 何んでもめんどうなことは好まない
114(S114) 人中で働いている時が一番楽しい
115(S139) 一人で遊びに行くことはめつたにない
116(S167) 周囲の人々の気分がすぐ自分に伝染する
117(S160) 計画を立てるより早く実行がしたい
118(S172) 陽気に仲間と時をすごすのが好きである
119(S 89) 誰とでも平気でつきあう
120(YK50) いつも自分はだめだと思う
121(G 3) てきぱきと物事を片付ける
122(P 18) 自分はいつもいやな仕事を押しつけられる
123(P 66) 負けずきらいである
124(P 20) じきにうろたえるたちである
125(G 9) 物の値段が高ければ遠慮なく負けさせる
126(G 8) 目立つような席に坐るのは好まない
127(G 5) 人中でお化粧する人はいやな気がする
128(G166) 体の一部分をピクピクさせるくせがある
129(G194) いつも何かしていないと気がすまない
130(YK10) 秘密をもたない
131(G 47) 食事は人一倍速い方である
132(P 36) 悪くもないのに罰せられた経験がある
133(P 79) 平凡に暮すよりは何か変つたことがしたい
134(P 22) 何もかも旨く行かないと思う日が時々ある
135(G 10) 気が弱いので物売りを断るのに苦労する

136(G 16) 人からいつも見られている様で不安である
137(G 40) 急に刺激されるとひどく驚くことがある
138(G218) 肺病その他の病気を人一倍こわがる
139(G243) いつもはりきつて新しい仕事にとりかかる
140(YK11) 誰からも好かれる
141(G 48) 動作はきびきびしている
142(P 54) 成功するためにはうそも必要だと思う
143(P102) 私を利己主義だという人がある
144(P 30) 人の親切には下心がありそうで不安である
145(G 69) いつも友人や親戚の世話ばかりしている
146(G 27) 軽蔑されたと思うとひどく腹が立つ
147(G 81) 度々ねつかれないで困ることがある
148(G115) 鉛筆をなめたり爪をかんだりする癖がある
149(YK17) 人の世話が好きである
150(YK23) 余り迷わずに決心がつく
151(G 70) 人から向見ずだといわれることがある
152 人から虐待された経験がある
153(P116) 人の意見を度々馬鹿らしいと思う事がある
154(P 37) いつも話題は自分のことになりやすい
155(G 83) 正しいと思うことは人にかまわず実行する
156(G 35) 劣等感（人に劣る感じ）に悩まされる
157(G 84) 競技などのとき固くなる
158(G136) うなされることが度々ある
159(G169) 空想にふけるのが楽しみである
160(YK12) 物おしみをしない
161(G 75) 仕事は人よりもずつと速い方である
162(G 65) 人が見ていないと大抵の人は怠けると思う
163(P132) 余り出しやばる人は押えるのがよいと思う
164(P 42) 時々誰かに打明け話がしたい
165(G 91) 成るべく面倒なことにはかかわりあわない
166(G 86) 失敗しやしないかといつも心配である
167(G114) じつとおとなしくしているのが苦手である
168(G247) 物を投げつけたい程腹を立てた経験がある
169(S 97) 親友にも自分のことは打明けない
170(YK19) 人のあつかいがうまい
171(G 78) 一つの仕事がすむとすぐ次の仕事に移る
172(P 70) 世の中の人は人の事などかまわないと思う
173(P136) 新しい計画を立てるのが好きである
174(P 55) 人から触れられたくない秘密がある
175(G116) 会などをうまく導いていく才能がある
176(G108) 何かにつけて自信がない
177(G149) 一寸したことがすぐ仕事の邪魔になる
178(G 77) 困難な状況では汗が出て来て困る
179(S 98) 余り身なりをかまわない
180(YK22) たのまれたことはすぐ行う
181(G121) いつも時間より早く出かけていく
182(P 80) 世の中は不公平なことに満ちていると思う
183(P138) 自分を守るには人と争うのもやむをえない
184(P 63) 講演を聞きながら時々合槌をうつ癖がある
185(G127) 会の仕事などは喜んで引きうける
186(G265) 興奮するとじき涙が出る
187(G223) 理由もなく不安になることが時々ある
188(S126) 自分の将来については極めてのんきである
189(S136) 人が来てうるさいと思うことが度々ある
190(S 24) 気が短い
191(G122) 口数が多い方である
192(P 92) スパイのような人が沢山いる
193(P149) 列の先に割込む人には遠慮なく注意する
194(P 71) いつも自分を他人と比較する傾向がある
195(G147) 困難にぶつかると気がくじける
196(G199) 人から邪魔にされはしまいかと心配である
197(G254) 余り自分のことを聞かれるのはいやである
198(S 82) 馬鹿正直である
193(B 89) 大切な決心をする時も余り人に相談しない
200(YK33) こうふんしやすい
201(G123) 人からさいそくされないと働かない
202(P 95) 人は結局利慾のために働くのだと思う
203(P 41) 世間の人は馬鹿ばかりだと思うことがある
204(P 97) すぐ感情を傷付けられやすい
205(G152) 何か事件が起きた時には進んで世話をする

206(G242) いつも他人が羨ましいと思う
207(U 50) 広い通りを横切る時非常に不安になる
208(S171) 人と一緒にいるのが気づまりである
209(G 12) 自分のよいと思うことは人にもすすめる
210(G159) 神経質である
211(G112) 短い時間に沢山の仕事をする自信がある
212(P109) 親友でもほんとうに信用する事はできない
213(P 44) 失礼なことをされるとだまつていない
214(P111) 色々な事が皆自分に関係がある様に思える
215(G164) 買物に欠点があればどんどん返しにいく
216(G246) 仲々決心がつかず機会を失うことが多い
217(U 54) 気狂になりはしまいかと心配した事がある
218(S103) 一人ぎりでいたいと思うことが時々ある
219(G 34) 困難な時は却つて元気を出す
220(YK37) 余りじようだんをいわない
221(G188) 足が速いのでいつも人を追いこして歩く
222(P124) 人は私を充分に認めてくれない
223(P 12) 不正なことはだまつていられない
224(P118) わざとのけ者にされたことが度々ある
225(G181) 人とちがうことは恥かしくてできない
226(G250) もつとちがう境遇に生れたかつたと思う
227(S 22) 気分がしばしば動揺する
338(S116) しばしば物思いに沈むことがある
229 度々人の気持を確かめてみたい
230(YK44) いんきである
231(G262) 家の者が遊びに出ても喜んで留守をする
232(P141) 自分はいつも運がわるい
233(P 19) 人から指図されるのはきらいである
234(P122) 私のことをいつも悪くいう人がある
235(G232) 目上の人とも遠慮なく議論する事がある
236(G257) いつも自分は人から無視されていると思う
237(P107) 侮辱された恨みはいつまでも忘れられない
238(S152) 会話の最中にふと考えこむくせがある
239(P119) 余り人からだまされぬたちである
240(YK38) 人中ではいつも後の方に引込んでいる

2. YG 予備検査の施行とその解答率。 この予備検査は昭和28年5月19, 21, 30の3日間に亘り、京都大学1～2回生400名に施行された（上述YK第二型式の施行直前である)。被験者は自分に当てはまる項目番号を○で囲み、当てはまらぬものは×、どうしても決められない時には（　）で囲むように要求される。実験者は各項目を約6秒（読む時間3秒、休み3秒位）で読み、総計約24分を費やした。

被験者別の解答率は**第13表**及び**第14表**に掲げた。

これらの表中 A Group, B Group としたのは全く偶然に200名宛の2群を作つたもので、両者の差は些少であると思われる。表の数値を集計すると[1)]

	○	×	?
A-Group	21261	23211	3528
	(44.3%)	(48.4%)	(7.3%)
B-Group	22324	22432	3244
	(44.6%)	(46.7%)	(6.7%)
A+B (400名)	43585	45643	6772
	(45.4%)	(47.5%)	(7.1%)

となり、AB 両群間には全く有意の差はなく、合計では○と×とがほぼ同数で、無答率は極めて小さい。

全員400名中無答率⅓以上の者は1名もなく、2割以上の者は A Group に15名、B Group に

註 1) 実は第12表でアンチク番号をつけた24項目は採点が逆にしてあるので、この集計には幾分無理がある。

13名ある。この A Grorp の15名中12名は、後に160問から成る類似の YG 検査の第二型式を受けたが、この場合にも凡べて15%以上の無答率を示した。20%以上のものは9名である。[1] しかしこの無答率の大きいということは例えば Maslow の考えたように、或る性格特性を表わすものであるか否かは明らかでない。少くとも YG 検査の第二型式で測定された S T D C R G A M I N O Ag Co の13特性との間には何らの相関もないように見える。それはこの12名の被験者がこれらの13特性について獲得した得点を比較するのに、如何なる特性においても高得点者及び低得点者が殆んど均分に含まれているし、又四分の一以上若くは以下の得点を示す特性が夫々37及び39合計76であつて、偶然の分配から予期される156/2=78の価と全く一致することからも知られる。

なお○の判断が×の判断の2分の1に達しない被験者は400名中21名、逆の場合が5名あるが、これらの者も我々のデータが示す限り YG 検査の得点とは殆んど無相関のように見える。

項目別の解答率は**第15表**に掲げる。この表で重要なことは同じ京大分校生の200名ずつの二群が、各項目に対して果して同じ型の解答率を示すかということである。表の数値を2×3の x^2 test にかけてみると、1% level で有意差のある項目は 19, 62, 111, 162, 174, 176, 197, 198, 208 の9項目であり、5% level では 52, 79, 88, 135, 144, 172, 196, 209 の8項目合計17項目である。これらは何れも B Group によつてより内向的に反応されている。従つて B Group は A Group よりも内向的な Group であると考えられる。この差が如何にして生じたかは今のところ決定する手段がない。ただ A, B 両群共京大分校生から構成されているが、A 群は全部入学当初の一回生であるのに反して、B 群は一回生132名と二回生68名とから成るという相異がある。

そこでこの点を検討するために、この一回生132名と二回生68名との上述17項目に対する解答率を x^2 test にかけてみると、有意差のある項目は5% level でも僅かに88項と174項との二項を認めうるに過ぎなかつた。従つて上述第15表に見られた相異は一回生と二回生とによる相異ではないことがわかる。

とにかく A, B 両群の差は240項目中の僅かに9項目（多く見て17項目）に過ぎないのであるから、以下においては特に必要のない限り、A Group を以て京大生の代表と考えていくことにしたいと思う。（なお上の17項目中88, 197, 209の3項目は以下のテスト構成では全然使用されていない。）

次ぎに回答率の不規則な項目について考えておくことにしよう。先ず**無回答率**が10%を越えるものは次ぎの34項目である。そのうち20%を越えるものは140及び222の2項目にすぎない。

7 (13%),	19 (12%),	22 (10%),	24 (17%),	29 (17%),	42 (10%),
49 (16%),	63 (13%),	71 (13%),	80 (13%),	87 (13%),	97 (12%),
101 (10%),	105 (14%),	113 (12%),	114 (13%),	115 (10%),	130 (11%),
140 (25%),	141 (13%),	142 (13%),	143 (10%),	155 (13%),	160 (12%),
169 (10%),	170 (11%),	175 (11%),	195 (10%),	202 (11%),	205 (11%),
213 (12%),	219 (13%),	222 (20%),	223 (11%).		

註 1) 但しこの予備検査で無答率の低い者で、型式Ⅱの検査で高い者も認められるので、この関係は決して絶対的のものではない。

Table 13 被験者別解答率

(YG 予備検査 A Group)

Ss	○	×	?	Ss	○	×	?	Ss	○	×	?	Ss	○	×	?
1	104	130	6	51	131	105	4	101	103	133	4	151	74	143	23
2	87	91	62	52	95	117	28	102	116	124	0	152	133	98	9
3	83	139	18	53	85	78	77	103	117	113	10	153	128	104	8
4	120	112	8	54	60	122	58	104	80	111	49	154	90	146	4
5	87	140	13	55	123	115	2	105	121	100	19	155	121	114	5
6	115	124	1	56	96	135	9	106	66	168	6	156	147	90	3
7	116	114	10	57	86	148	6	107	106	119	15	157	67	126	47
8	75	134	31	58	132	98	10	108	129	107	4	158	94	125	21
9	101	105	34	59	92	134	14	109	142	93	5	159	64	123	53
10	89	107	44	60	66	145	29	110	120	118	2	160	105	131	4
11	104	111	25	61	74	115	51	111	128	103	9	161	138	98	4
12	146	85	9	62	90	131	19	112	119	111	10	162	134	101	5
13	62	150	28	63	103	125	2	113	125	107	8	163	109	120	11
14	138	76	26	64	86	134	20	114	95	127	18	164	99	129	12
15	113	112	15	65	126	108	6	115	105	117	18	165	112	121	7
16	143	86	11	66	79	94	67	116	115	116	9	166	105	125	10
17	105	128	7	67	88	131	21	117	105	114	21	167	119	73	48
18	87	150	3	68	133	91	16	118	135	96	9	168	81	89	70
19	78	149	13	69	125	109	6	119	136	92	12	169	109	121	10
20	94	128	18	70	93	144	3	120	90	143	7	170	136	85	19
21	87	140	13	71	114	91	35	121	116	122	2	171	86	149	5
22	53	116	71	72	113	93	34	122	86	141	13	172	99	124	17
23	91	140	9	73	103	121	16	123	89	140	11	173	92	130	18
24	123	84	33	74	77	162	1	124	97	143	0	174	145	90	5
25	105	132	3	75	151	84	5	125	140	97	3	175	167	53	20
26	111	98	31	76	109	121	10	126	124	115	1	176	123	81	36
27	97	135	8	77	105	128	7	127	131	91	18	177	88	109	43
28	94	103	43	78	112	111	17	128	100	129	11	178	113	103	24
29	108	69	63	79	87	139	14	129	115	112	13	179	110	125	5
30	71	151	18	80	133	103	4	130	96	119	25	180	141	95	4
31	141	95	4	81	99	119	22	131	84	146	10	181	91	129	20
32	136	85	19	82	103	129	8	132	135	102	3	182	133	105	2
33	148	86	6	83	72	132	36	133	128	91	21	183	106	127	7
34	88	98	54	84	87	145	8	134	86	144	10	184	92	132	16
35	99	101	40	85	133	104	3	135	77	118	45	185	109	127	4
36	115	123	2	86	88	134	18	136	72	153	15	186	101	119	20
37	117	117	6	87	132	94	14	137	121	89	30	187	97	126	17
38	124	112	4	88	122	104	14	138	80	111	49	188	131	86	23
39	98	115	27	89	122	115	3	139	122	113	5	189	89	147	4
40	78	133	29	90	138	101	1	140	111	110	19	190	137	94	9
41	117	108	15	91	113	117	10	141	94	140	6	191	111	116	13
42	79	156	5	92	108	89	43	142	101	127	12	192	74	149	17
43	129	88	23	93	108	128	4	143	111	124	5	193	85	128	27
44	116	122	2	94	93	130	17	144	63	152	25	194	123	105	12
45	74	164	2	95	140	90	10	145	96	130	14	195	124	71	45
46	122	114	4	96	123	102	15	146	108	127	5	196	98	135	7
47	110	125	5	97	91	136	13	147	155	83	2	197	93	95	52
48	36	128	76	98	111	100	29	148	74	127	39	198	101	115	24
49	113	121	6	99	133	96	11	149	126	106	8	199	82	126	32
50	120	92	28	100	127	91	22	150	59	138	43	200	108	126	6

Table 14 被験者別解答率

(YG 予備検査 B Group)

Ss	○	×	?	Ss	○	×	?	Ss	○	×	?	Ss	○	×	?
201	123	107	10	251	99	140	1	301	113	124	3	351	110	105	25
202	135	101	4	262	106	134	0	302	127	92	21	352	150	86	4
203	146	92	2	253	105	111	24	303	116	116	8	353	135	99	6
204	93	142	5	254	114	113	13	304	143	54	43	354	111	128	1
205	124	112	4	255	97	132	11	305	141	96	3	355	150	86	4
206	106	128	6	256	142	48	50	306	133	100	7	356	97	143	0
207	48	137	55	257	115	115	10	307	117	113	10	357	85	151	4
208	75	158	7	258	69	113	58	308	145	91	4	358	124	110	6
209	63	102	75	259	148	84	8	309	86	141	13	359	125	106	9
210	115	117	8	260	87	142	11	310	118	114	8	360	73	152	15
211	123	106	11	261	92	94	54	311	85	138	17	361	81	140	19
212	106	125	9	262	91	125	24	312	112	128	0	362	134	91	15
213	149	75	16	263	125	105	10	313	140	96	4	363	102	131	7
214	83	93	64	264	104	93	43	314	80	128	32	364	103	124	13
215	62	139	39	265	157	79	4	315	92	118	30	365	111	119	10
216	135	94	11	266	142	53	45	316	117	122	1	366	89	124	27
217	138	98	4	267	98	136	6	317	115	120	5	367	77	151	12
218	79	122	29	268	57	152	31	318	142	97	1	368	120	114	6
219	158	81	1	269	95	142	3	319	98	134	8	369	87	111	42
220	65	102	73	270	117	118	5	320	144	95	1	370	93	134	13
221	79	148	13	271	78	115	47	321	115	116	9	371	75	147	18
222	60	136	44	272	65	116	59	322	126	97	17	372	108	118	14
223	88	136	16	273	135	77	28	323	109	131	0	373	141	91	8
224	112	68	60	274	108	95	37	324	96	137	7	374	99	138	3
225	121	107	12	275	108	114	18	325	104	135	1	375	87	127	26
226	111	83	46	276	149	78	13	326	107	131	2	376	109	126	5
227	111	120	9	277	127	107	6	327	121	116	3	377	119	108	13
228	134	99	7	278	105	128	7	328	127	76	37	378	115	119	6
229	156	80	4	279	77	134	29	329	141	99	0	379	137	96	7
230	115	115	10	280	73	119	48	330	131	98	11	380	108	118	14
231	141	98	1	281	94	72	74	331	106	127	7	381	93	129	18
232	123	105	12	282	141	92	7	332	122	113	5	382	136	101	3
233	122	107	11	283	98	131	11	333	104	134	2	383	59	135	46
234	134	99	7	284	106	128	6	334	118	110	12	384	108	132	0
235	135	96	9	285	106	118	16	335	128	107	5	385	134	101	5
236	105	110	25	286	95	117	28	336	160	76	4	386	121	106	13
237	108	112	20	287	138	38	64	337	104	135	1	387	107	124	9
238	148	90	2	288	120	103	17	338	88	146	6	388	97	121	22
239	117	115	8	289	123	97	20	339	116	79	45	389	125	93	22
240	119	100	21	290	92	134	14	340	141	91	8	390	139	82	19
241	85	139	16	291	139	94	7	341	93	136	11	391	110	98	32
242	130	110	0	292	118	112	10	342	149	76	15	392	104	113	23
243	146	64	30	293	146	87	7	343	99	129	12	393	145	90	5
244	137	99	4	294	110	64	66	344	78	147	15	394	135	96	9
245	99	134	7	295	107	123	10	345	104	93	43	395	140	100	0
246	98	117	25	296	72	166	2	346	98	140	2	396	132	82	26
247	84	151	5	297	93	115	32	347	127	84	29	397	103	127	10
248	114	119	7	298	99	123	18	348	141	93	6	398	129	107	4
249	58	131	51	299	121	82	37	349	99	137	4	399	134	102	4
250	80	159	1	300	91	137	12	350	114	120	6	400	88	151	1

Table 15 項目別解答率（YG 予備検査　京大生 400名）

項目	A Group ○	A Group ×	A Group ?	B Group ○	B Group ×	B Group ?	項目	A Group ○	A Group ×	A Group ?	B Group ○	B Group ×	B Group ?
1	95	93	12	110	80	10	61	109	76	15	122	59	19
2	134	49	17	150	44	6	62**	83	97	20	114	67	19
3	135	57	8	147	45	8	63	105	65	30	101	76	23
4	111	77	12	111	72	17	64	177	19	4	169	26	5
5	129	63	8	139	52	9	65	114	81	5	126	67	7
6	34	157	9	43	148	9	66	121	64	15	133	55	12
7	56	120	24	52	126	22	67	66	113	21	69	117	14
8	79	100	21	89	98	13	68	101	85	14	105	87	8
9	96	89	15	85	95	20	69	135	53	12	111	69	20
10	108	80	12	129	62	9	70	60	128	12	79	110	11
11	147	38	15	143	39	18	71	117	58	25	123	49	28
12	111	74	15	129	55	16	72	86	102	12	103	87	10
13	157	34	9	162	34	4	73	89	103	8	105	89	6
14	60	123	17	64	122	14	74	154	26	20	156	34	10
15	123	64	13	135	55	10	75	86	97	17	88	97	15
16	106	83	11	121	71	8	76	27	165	8	31	158	11
17	119	60	21	114	70	16	77	92	95	13	72	115	13
18	127	58	15	115	75	10	78	46	132	22	52	131	17
19**	80	94	26	63	116	21	79*	102	85	13	75	109	16
20	76	107	17	88	94	18	80	67	109	24	71	102	27
21	101	89	10	114	72	14	81	125	61	14	140	50	10
22	75	105	20	91	89	20	82	84	99	17	92	92	16
23	96	89	15	102	90	8	83	118	66	16	124	64	12
24	82	80	38	78	92	30	84	85	102	13	85	95	20
25	97	85	18	106	79	15	85	90	87	23	107	81	12
26	70	121	9	76	117	7	86	52	142	6	66	128	6
27	112	78	10	89	102	9	87	40	138	22	47	124	29
28	54	131	15	68	115	17	88*	85	96	19	108	81	11
29	120	46	34	116	51	33	89	78	106	16	69	113	18
30	111	64	25	124	64	12	90	103	89	8	122	64	14
31	56	122	22	69	119	12	91	131	53	16	133	47	20
32	108	75	17	123	60	17	92	112	73	15	118	63	19
33	87	104	9	78	111	11	93	142	48	10	134	61	5
34	160	32	8	154	30	16	94	148	37	15	143	42	15
35	35	149	16	54	130	16	95	140	49	11	149	40	11
36	85	102	13	91	98	11	96	103	81	16	113	76	11
37	57	128	15	45	143	12	97	53	123	24	53	125	22
38	126	66	8	133	63	4	98	82	102	16	83	106	11
39	163	18	19	156	26	18	99	77	106	17	80	102	18
40	56	132	12	59	130	11	100	109	82	9	127	67	6
41	111	71	18	117	72	11	101	115	61	24	129	55	16
42	84	94	22	93	88	19	102	85	101	14	104	88	8
43	135	52	13	131	56	13	103	145	47	8	161	38	1
44	80	112	8	74	125	1	104	137	47	16	129	59	12
45	49	141	10	63	129	8	105	68	101	31	86	90	24
46	25	167	8	35	159	6	106	91	99	10	98	92	10
47	104	80	16	106	83	11	107	37	157	6	36	152	12
48	87	106	7	99	86	15	108	135	52	13	144	51	5
49	95	72	33	76	94	30	109	113	65	22	112	74	14
50	54	136	10	65	128	7	110	119	72	9	124	66	10
51	83	99	18	98	86	16	111**	42	144	14	79	108	13
52*	61	128	11	86	102	12	112	88	104	8	98	89	13
53	139	41	20	143	41	16	113	106	79	15	101	69	30
54	175	20	5	160	34	6	114	152	28	20	134	36	30
55	52	142	6	73	116	11	115	117	70	13	127	46	27
56	117	73	10	131	64	5	116	92	88	20	99	83	18
57	89	104	7	79	112	9	117	62	118	20	68	120	12
58	85	95	20	93	96	11	118	146	37	17	147	38	15
59	139	46	15	119	68	13	119	71	117	12	72	119	9
60	101	90	9	102	92	6	120	31	157	12	51	138	11

ゴチク番号は逆に採点した項目。*は5％、**は1％levelにて有意差。

Table 15 （続き）

項目	A Group ○	A Group ×	A Group ?	B Group ○	B Group ×	B Group ?	項目	A Group ○	A Group ×	A Group ?	B Group ○	B Group ×	B Group ?
121	86	98	16	76	110	14	181	108	78	14	95	94	11
122	30	155	15	38	145	17	182	148	35	17	149	35	16
123	147	34	19	160	29	11	193	118	61	21	136	49	15
124	54	132	14	67	121	12	184	72	118	10	57	138	5
125	31	157	12	33	156	11	185	39	143	18	45	146	9
126	138	45	17	141	39	20	186	56	137	7	65	123	12
127	136	42	22	138	49	13	187	45	150	5	58	134	8
128	30	158	12	33	159	8	188	72	115	13	72	120	8
129	66	120	14	47	137	16	189	93	97	10	111	78	11
130	88	90	22	72	108	20	190	77	115	8	76	115	9
131	64	134	2	52	140	8	191	60	129	11	56	131	13
132	82	108	10	86	105	9	192	41	138	21	43	140	17
133	140	49	11	136	50	14	193	20	167	13	21	173	6
134	122	72	6	131	63	6	194	139	48	13	149	48	3
135*	118	70	12	90	95	15	195	123	55	22	122	59	19
136	54	139	7	72	121	7	196*	69	123	8	97	92	11
137	83	101	16	97	91	12	197**	97	89	14	129	57	14
138	47	144	9	60	132	8	198**	50	137	13	80	106	14
139	117	60	23	125	61	14	199	104	82	14	111	81	8
140	61	82	57	65	90	45	200	70	118	12	91	100	9
141	82	94	24	58	113	29	201	167	30	3	155	31	14
142	89	80	31	85	95	20	202	104	77	19	104	72	24
143	61	124	15	59	114	27	203	74	117	9	59	132	9
144*	35	153	12	51	126	23	204	104	84	12	114	78	8
145	18	172	10	13	178	9	205	50	129	21	52	125	23
146	138	53	9	135	53	12	206	36	155	9	49	141	10
147	67	128	5	63	134	3	207	15	184	1	23	175	2
148	39	159	2	31	168	1	208**	46	139	15	74	111	15
149	50	137	13	64	123	13	209*	149	43	8	127	67	6
150	68	115	17	65	126	9	210	116	69	15	126	63	11
151	41	153	6	56	138	6	211	57	128	15	52	137	11
152	46	147	7	52	145	3	212	51	127	22	55	128	17
153	132	53	15	131	62	7	213	90	85	25	78	101	21
154	42	144	14	59	132	9	214	64	121	15	72	114	14
155	84	87	29	84	92	24	215	51	131	18	57	132	11
156	65	119	16	87	101	12	216	116	65	19	130	63	7
157	114	75	11	136	55	9	217	34	162	4	50	146	4
158	15	180	5	24	165	11	218	140	54	6	144	49	7
159	117	64	19	137	59	4	219	110	63	27	95	79	26
160	89	86	25	94	83	23	220	72	119	9	74	110	16
161	60	120	20	52	133	15	221	96	95	9	94	99	7
162**	67	118	15	83	96	21	222	65	95	40	66	92	42
163	127	58	15	129	55	16	223	104	74	22	97	77	26
164	123	73	4	121	72	7	224	27	169	4	36	150	14
165	60	122	18	52	129	19	225	116	68	16	113	71	16
166	82	108	10	87	99	14	226	71	120	9	69	119	12
167	56	126	18	45	136	19	227	103	86	11	114	78	8
168	108	90	2	112	86	2	228	115	73	12	131	60	9
169	42	137	21	54	127	19	229	120	71	9	121	70	9
170	47	125	28	46	138	16	230	45	139	16	42	138	20
171	104	80	16	93	91	16	231	62	123	15	56	130	14
172*	84	96	20	110	74	16	232	35	153	12	50	139	11
173	164	25	11	165	24	11	233	117	63	20	131	50	19
174**	60	131	9	93	99	8	234	22	163	15	26	154	20
175	31	145	24	30	150	20	235	106	84	10	101	88	11
176**	46	129	25	83	102	15	236	17	178	5	21	163	16
177	87	101	12	107	86	7	237	60	126	14	70	121	9
178	67	121	12	68	122	10	238	100	85	15	105	87	8
179	96	91	13	103	83	14	239	128	58	14	109	66	25
180	146	41	13	131	55	14	240	75	108	17	95	86	19

○の回答率が20％以下のものは16項目で次ぎの通り（＊印のものは採点が逆になつている）。

11*(19％), 46 (15％), 54*(13％), 74*(15％), 76 (17％), 114*(16％), 128 (16％), 145 (8％), 148 (17％), 158 (10％), 175 (15％), 193 (10％), 201*(15％), 207 (10％), 224 (16％), 234 (12％).

×の回答率が20％以下のものは8項で次ぎの通り。

13 (17％), 34 (16％), 39 (11％), 64 (11％), 94 (20％), 118 (19％), 123 (16％), 182 (18％).

3. YG 予備検査の項目分析。 上に述べたように我々は S 以下18特性に対して夫々12問ずつの特性項目群を選定した。そこで今度は A Group の被験者200名の成績を用い、各特性項目群の得点について夫々上位者4分の1と下位者4分の1との2群を選出することにした。次ぎにこれらの2群が240項目の各々について獲得した得点の総和をカイ二乗検定にかけて、有意差のある項目とない項目とを識別しようとしたのである。この GP 分析の仕事は結局18×240の価についてカイ二乗検定を行わなければならないから大変な手間を必要としたので、カイ二乗の価の算出はやむをえず略算を用いた。従つて第16表では小数点以下を省略してある。しかし我々の目的に対してはこれで充分であつたと考える。

採点法は○をつけた場合2点、？には1点を与えたから満点は24点であり、最低は0点である。但し第4項、第11項等表中に番号数字をアンチクにした24項目では逆に×をつけたものに2点を与えることにしてある。

カイ二乗検定の場合には？をつけた被験者の回答は○及び×の度数に半分ずつ加えることにした。

第16表の読み方 例えば項目の1の S 特性についていうと、S 特性項目12題の総得点について高得点群(Q_3以上)と低得点群（Q_1以下）とを分け、これら2群の項目1に関する得点をカイ二乗検定にかけた場合の x^2 の価が24であることを示している。同様に項目1の S-R 特性については S-R 特性項目12題の綜合得点について高得点群と低得点群とを分け、これら2群の項目1に関する得点をカイ二乗検定にかけた場合の x^2 の価が20であることを示している。検定は2×2の式に従つたから5％ level の $x^2=3.8$, 1％ level の $x^2=6.6$, 0.1％ level の $x^2=10.8$ であるが、表中アンチク体の数字はその特性項目12題の中に当該項目自身が含まれているので割引きを必要とする。この自己尺度による価に対する割引きの程度を如何ほどにするかについては色々考え方があると思うが、我々の場合は充分な代表的価値を有する特性項目を選ぶのが目的であるから、暫定的にではあるが $x^2=25$ 以下はあまり充分ではないと考えてみた。従つて項目1の S特性に対する代表価は充分にはプレグナントではないということになる。これに反して S-R 特性に対する代表価は $x^2=20$ であつて S 特性の24よりも小さいが、この場合には全く自分には無関係な尺度によつて測られたものであるから、極めて大きな有意性を有することになる。

なお x^2 の価でゴチク数字を用いたものはその特性項目群と逆相関を有する項目であり、項目番号でゴチク数字を用いたもの（24項目）は表現の肯定若くは否定が他の同一項目群の意味と逆になつているために、×に対して得点を与えた項目である。

但し表中 M 項目の価は西京大学女学生と京大男学生との差を示すもので、後に述べる YG 検査の第一型式の項目選定に使用された価とは一致しない。

さて上に述べた尺度中に自分が含まれるためにどれだけ割引きしなければならぬかという問題をも少し考えて見よう。この内的基準の取り方によつては上に選ばれた12項目が特性の代表者として適当であつたとも考えられるし、又極めて不完全であつたとも考えられることになる。今尺度に用いられる項目数（n）が少いために x^2 の値に当然起ると期待される歪みを $\phi=\frac{1}{\sqrt{n}}$ とし、

$t=\frac{|p-q|-\phi}{\sqrt{\sigma_p^2+\sigma_q^2-2\phi\sigma_p\sigma_q}}$ なる式を適用すると、内的整合度の検定基準とすべき x^2 の値は次ぎのようになるであろう。

項目数（n）		12	25	50
N=100	1% level	19	13	9.4
	5% level	16	10	7.0
N=200	1% level	31	20	13.4
	5% level	27	16	11.0

N = G + P

そこで第16表中アンチク体で示した自己尺度項目の値は、この場合被験者総数が200名であるから、G群プラスP群の人数Nは100の場合にあたり、5%レヴェルとすれば16,1%レヴェルとすれば19になるわけである。尺度としてはやはりどうしても1%位は必要だと考えると次ぎのリストが示すように、例えばS, S-R項目群の如く殆んどすべての項目が有意差を示すものもあるが、その他は必ずしも充分に内的整合であるとはいい難い。

	基準以上のx^2を示す項目数			基準以上のx^2を示す項目数
S	項目	11	CR	項目 9
S-R	項目	12	G	項目 6
T	項目	8	A	項目 9
T-R	項目	4	I	項目 9
D	項目	6 (6項目中*)	N	項目 7
C	項目	5 (6項目中*)	O	項目 9
DC	項目	9	Ag	項目 8
R	項目	7	Co	項目 9

* 6項目の場合は上の基準に従うと1% level 29, 5% level 26 となる

このように最初に選択された特性項目群は必ずしも充分に内的整合性をもつたものではなかつたので、我々はもつと完全なテスト・バツテリーを構成する必要に迫られた。それは単に内的整合性の視点からだけではなく、各特性間の独立性という視点からも可成りの疑問が持たれたのである。第16表に見られるように多くの項目は多くの特性に対して一様に有意差を示している。しかもその程度は著しく高いのである。

Table 16 (1) YG 予備検査 x^2 の表

項目	S	S′R	T	T′R	D	C	DC	R	CR	G	A	M	I	N	O	Ag	Co	Y	Y′
1	**24**	20	6	3	17	4	22	4	1	3	8	0	15	13	10	1	0	7	21
2	16	**21**	4	10	7	1	6	16	1	1	1	0	6	10	3	1	3	34	12
3	6	12	**33**	10	20	8	19	4	1	3	4	4	9	12	3	2	4	12	26
4	1	3	3	**34**	10	0	5	0	2	3	0	0	4	5	6	0	4	15	14
5	4	11	6	4	**52**	9	35	1	12	0	3	3	31	31	20	0	8	10	32
6	4	9	3	4	16	7	**34**	0	2	2	7	5	14	12	11	0	7	6	18
7	1	2	3	2	17	4	17	**10**	2	0	0	1	10	10	8	0	3	4	8
8	0	0	7	4	8	7	3	9	**49**	0	2	0	16	10	3	0	7	3	3
9	21	45	14	12	11	3	14	29	7	10	12	2	6	2	1	2	0	**45**	22
10	7	18	3	8	26	4	37	2	0	0	2	3	24	23	12	0	2	10	**38**
11	**27**	18	0	3	0	0	0	14	1	9	18	1	2	0	1	5	0	14	6
12	37	**58**	0	1	5	4	17	2	1	5	36	3	18	10	1	1	0	10	14
13	0	3	**13**	0	7	0	3	0	2	0	0	2	7	1	4	5	2	3	5
14	0	0	8	**15**	0	0	0	2	2	0	0	0	1	1	0	1	0	1	0
15	9	14	21	3	**54**	10	20	1	4	0	7	0	17	8	16	1	10	22	25
16	11	18	13	3	53	26	**72**	1	4	3	6	0	40	31	27	2	20	32	48
17	13	15	2	7	10	1	4	**24**	2	10	1	1	3	3	15	0	0	32	27
18	2	17	0	3	5	3	0	6	**31**	1	0	4	3	0	2	4	2	3	0
19	12	12	8	14	21	5	7	13	1	14	4	1	7	8	10	0	4	**58**	28
20	37	38	6	21	6	9	7	35	6	12	8	0	6	1	0	6	1	14	**36**
21	**39**	41	0	4	12	3	12	1	0	0	18	6	21	16	2	1	0	16	12
22	26	**55**	4	9	14	0	19	18	0	14	20	1	20	3	3	0	9	23	26
23	2	13	**28**	1	18	5	11	0	2	0	5	0	18	11	7	4	16	7	10
24	0	8	4	**27**	2	0	1	8	7	2	0	2	0	0	0	0	3	1	2
25	6	7	0	0	**34**	4	6	0	6	0	3	0	10	16	9	1	7	3	7
26	4	7	6	2	30	13	**79**	1	3	1	5	17	32	27	36	5	23	12	34
27	13	18	5	15	1	0	1	**52**	21	6	1	2	0	0	0	6	0	14	13
28	0	0	0	0	7	40	3	2	**44**	0	0	2	12	5	10	14	1	4	10
29	5	4	0	2	5	2	2	2	2	2	1	3	2	0	5	1	2	**15**	0
30	37	52	6	3	16	10	26	10	0	19	35	5	26	12	3	3	0	25	**50**
31	**34**	37	5	8	8	3	7	16	4	4	7	0	8	9	0	0	0	21	11
32	26	**49**	3	1	35	6	22	3	6	8	14	0	37	24	8	2	5	31	15
33	2	13	5	5	7	0	14	2	0	0	2	0	10	14	6	0	0	3	12
34	1	0	5	**11**	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	3	0	0	6	7
35	1	3	0	2	**28**	9	10	1	10	0	3	0	16	12	7	1	0	3	8
36	11	9	5	0	18	6	**39**	0	8	1	7	8	22	20	10	0	1	6	9
37	2	4	13	14	1	0	1	**16**	8	2	0	2	0	0	0	0	3	0	4
38	2	5	1	0	14	11	6	0	**23**	1	2	2	16	8	13	1	11	7	18
39	1	1	0	0	4	1	3	1	1	1	0	4	3	3	0	0	0	**20**	2
40	9	8	2	4	21	13	13	0	8	0	2	1	18	19	24	7	16	18	**46**
41	**52**	72	2	9	10	1	10	12	0	15	25	1	16	6	6	1	7	16	26
42	29	**53**	4	5	12	14	19	4	1	5	21	1	26	13	5	0	6	4	19
43	0	0	**50**	14	2	1	0	7	12	1	3	1	1	0	0	5	4	1	6
44	0	1	6	**13**	4	6	6	1	1	2	0	0	4	7	5	9	0	4	1
45	9	17	6	8	**39**	6	18	14	2	7	3	1	10	12	10	1	5	10	30
46	0	2	1	0	7	5	**13**	0	3	0	1	0	4	4	10	1	3	2	11
47	2	1	0	5	3	1	0	**28**	28	10	1	0	6	4	10	27	12	3	1
48	4	2	6	7	5	22	11	0	**41**	0	6	1	13	6	11	0	2	0	21
49	19	35	4	12	14	0	20	26	1	23	24	0	10	4	6	1	3	**40**	26
50	7	7	7	5	17	7	7	2	2	1	1	0	4	10	11	3	7	23	**38**
51	**53**	40	2	4	12	9	4	13	0	6	9	0	7	1	0	3	1	26	13
52	29	**46**	0	3	19	9	18	17	0	15	19	0	14	6	0	9	3	42	26
53	0	0	**20**	6	0	0	0	10	4	0	4	2	0	0	0	0	0	1	0
54	0	1	0	5	6	5	5	3	3	1	0	0	8	5	3	4	1	1	6
55	17	26	9	6	**67**	12	19	5	1	12	12	0	34	25	24	0	13	14	41
56	7	12	2	3	25	16	**59**	3	1	0	5	12	21	22	26	3	12	14	23
57	0	0	0	8	4	0	0	**25**	11	4	4	6	1	3	5	3	3	0	1
58	4	13	1	6	14	16	9	0	**35**	0	5	0	16	18	12	10	4	2	8
59	0	0	1	0	6	4	1	0	4	7	0	2	2	4	1	0	0	4	3
60	15	12	25	6	36	18	59	2	0	2	3	4	40	34	34	6	18	29	**77**

Table 16 (2) YG 予備検査 χ^2 の表

項目	S	S-R	T	T-R	D	C	DC	R	CR	G	A	M	I	N	O	Ag	Co	Y	Y'
61	**31**	18	0	0	4	3	2	3	0	5	29	0	10	4	1	4	3	6	4
62	44	**61**	1	6	8	1	16	18	0	26	35	9	16	3	11	4	0	20	25
63	0	0	**31**	7	2	0	0	2	7	1	13	3	1	4	0	5	0	0	1
64	0	0	7	**5**	2	0	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	3	2
65	2	3	4	1	10	**44**	14	0	6	0	2	5	8	9	9	2	11	8	13
66	5	16	0	12	22	4	**21**	15	2	12	3	0	5	4	3	0	1	21	12
67	19	31	1	1	1	1	3	**17**	1	9	28	0	6	0	1	1	0	11	8
68	0	1	4	11	10	16	2	25	**53**	1	0	0	8	8	20	0	0	1	8
69	12	21	0	4	10	1	14	3	1	17	8	1	7	6	2	0	2	48	21
70	8	7	8	0	25	13	21	1	4	1	3	4	18	17	18	4	17	10	**36**
71	**38**	37	4	8	8	0	7	8	0	9	15	4	12	2	1	6	3	2	7
72	38	**79**	6	6	8	4	20	7	1	12	38	3	30	12	8	1	11	18	44
73	6	6	**20**	4	14	3	4	0	2	1	1	0	14	5	8	0	4	0	8
74	2	3	1	**8**	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	3	2	0	1	14
75	1	0	0	0	11	**41**	7	1	10	0	0	1	7	4	7	6	2	5	11
76	3	4	0	0	8	3	**13**	0	2	0	1	1	7	13	10	0	6	8	4
77	3	2	1	0	2	0	0	**34**	5	1	0	0	0	0	0	0	2	6	2
78	0	1	20	10	0	0	1	5	**17**	0	0	1	0	4	0	2	0	0	0
79	22	42	1	0	7	5	10	2	0	13	13	4	15	2	1	1	3	**31**	23
80	14	15	0	0	0	3	2	1	0	10	10	2	3	0	7	0	5	20	**28**
81	**35**	55	3	4	12	6	9	1	3	3	16	4	20	12	0	0	4	13	13
82	44	**67**	4	19	16	1	12	41	3	12	16	1	11	11	1	2	1	45	24
83	1	1	**52**	30	4	2	14	7	5	2	1	0	2	2	2	3	2	1	7
84	16	29	13	**52**	13	3	21	29	8	16	6	0	6	4	3	0	1	32	25
85	1	6	1	0	21	**44**	17	0	12	0	1	1	18	10	9	2	0	1	17
86	1	7	4	0	29	13	**52**	2	1	1	0	16	15	19	29	7	17	19	52
87	1	0	7	7	1	0	0	**13**	1	0	2	2	0	0	1	0	1	4	4
88	0	1	3	0	4	1	1	2	8	0	0	0	1	1	5	0	0	1	3
89	49	46	4	14	6	4	7	25	2	13	18	0	9	6	3	2	2	67	32
90	37	53	4	4	10	10	12	6	2	8	27	0	19	5	3	0	6	22	**42**
91	**33**	28	4	8	1	1	2	15	6	7	21	2	4	1	0	8	0	11	5
92	55	**55**	2	4	14	2	8	6	0	2	19	6	17	14	0	5	0	21	14
93	3	3	**29**	4	10	4	16	0	0	0	0	0	7	7	9	1	6	9	6
94	2	1	5	**10**	3	0	1	0	2	4	2	0	0	1	2	0	3	5	3
95	2	5	2	0	16	**42**	13	0	8	0	5	1	19	14	7	2	3	4	10
96	14	24	10	5	39	12	**53**	0	3	1	8	1	42	38	18	1	9	18	35
97	21	17	0	4	1	1	3	**18**	2	9	26	0	4	1	0	3	3	17	7
98	0	0	0	1	5	7	0	11	**35**	1	0	6	3	0	3	4	0	3	0
99	6	14	0	0	9	2	5	5	0	6	12	0	7	7	1	0	4	**22**	10
100	12	16	15	8	34	7	38	3	1	0	3	3	30	27	15	0	5	14	**58**
101	**40**	23	0	7	1	0	1	10	5	5	19	3	8	1	0	0	0	9	17
102	19	**46**	1	7	2	0	7	17	5	12	17	2	8	5	1	22	2	20	2
103	1	0	**17**	0	2	1	2	2	1	0	0	1	0	1	5	0	4	4	7
104	6	4	3	**34**	1	1	0	19	6	8	3	2	0	1	0	2	0	7	3
105	3	2	1	0	14	**39**	0	0	5	0	4	2	19	7	20	1	12	18	18
106	8	10	4	1	33	24	**56**	2	5	4	14	4	22	25	29	5	12	7	21
107	0	0	0	0	0	1	1	**34**	2	0	0	0	2	0	5	1	1	0	4
108	2	1	1	4	0	2	0	55	**29**	1	0	0	2	0	9	20	7	2	1
109	11	18	14	10	18	12	37	14	2	7	3	1	13	10	9	0	4	**46**	32
110	7	10	23	1	23	21	34	3	1	2	5	6	12	18	29	2	0	21	**45**
111	**15**	7	6	0	10	4	10	2	1	1	3	6	6	8	12	0	10	14	26
112	22	**42**	1	0	7	15	4	1	4	2	12	4	20	14	10	0	5	17	23
113	2	10	**14**	2	2	2	1	0	4	2	8	1	10	2	2	2	2	0	2
114	12	6	0	**8**	2	2	1	10	1	4	15	0	3	1	1	0	3	17	11
115	1	1	1	0	0	**8**	0	0	0	0	3	6	1	1	0	0	3	3	0
116	0	0	3	4	7	4	**12**	4	13	0	4	2	6	5	10	0	0	0	1
117	4	7	7	8	2	0	1	**28**	12	11	0	4	0	0	1	2	3	1	1
118	6	16	5	6	7	2	6	14	**7**	4	1	7	1	3	1	0	2	21	7
119	38	42	3	18	10	7	10	19	2	5	17	0	14	7	0	2	0	**50**	17
120	12	11	1	0	12	5	20	0	4	1	9	27	22	21	10	0	9	10	**41**

Table 16 (3) YG 予備検査 x^2 の表

項目	S	S/R	T	T/R	D	C	DC	R	CR	G	A	M	I	N	O	Ag	Co	Y	Y′
121	22	19	0	1	8	5	10	6	0	**62**	0	0	19	6	3	2	0	14	10
122	0	0	0	0	2	0	0	1	1	1	1	0	1	2	6	0	**11**	2	5
123	0	1	1	5	0	0	1	0	0	4	2	0	3	0	0	**6**	0	0	0
124	8	12	2	5	12	7	12	6	15	2	10	2	14	12	**28**	0	4	18	29
125	0	3	0	1	0	0	0	2	0	3	**14**	0	0	0	1	2	1	6	6
126	19	22	1	2	3	0	5	5	0	7	12	1	**12**	5	1	0	2	6	11
127	1	0	4	1	4	1	2	0	1	2	0	8	6	**14**	1	0	0	4	3
128	0	0	1	2	9	4	2	0	4	0	0	2	3	4	3	0	0	9	6
129	1	3	0	0	3	1	0	3	4	6	2	2	1	5	3	7	0	1	0
130	0	0	2	0	1	4	4	0	0	1	3	3	1	3	4	1	3	6	10
131	4	2	0	0	1	0	0	3	7	**6**	6	0	9	24	1	1	1	0	0
132	0	0	1	0	0	2	0	0	1	1	0	5	0	3	0	1	**10**	2	0
133	1	4	1	7	1	1	2	4	7	2	3	0	1	0	0	**27**	1	0	0
134	2	2	5	0	19	14	22	1	6	1	3	4	20	21	**48**	0	3	19	34
135	9	15	1	1	8	5	6	0	0	0	**25**	4	10	12	11	1	9	15	19
136	9	27	4	3	20	13	24	4	4	4	14	1	**45**	20	19	0	6	10	29
137	6	7	0	0	12	11	10	0	10	2	7	0	7	**42**	4	4	10	3	1
138	3	3	0	4	2	1	3	0	1	1	4	0	10	8	2	2	12	4	3
139	9	12	0	0	10	1	12	3	0	1	8	0	11	10	2	1	3	24	18
140	9	4	0	2	4	4	0	3	0	8	2	0	2	0	8	0	3	30	13
141	17	34	3	3	10	2	16	14	0	**48**	14	2	19	3	0	4	0	16	10
142	1	2	2	5	0	0	0	14	2	4	0	1	0	0	1	10	**21**	0	0
143	2	0	0	0	1	0	1	0	2	1	0	0	0	1	4	**12**	10	5	2
144	3	3	1	0	5	3	7	0	2	0	1	1	10	8	**7**	0	10	15	13
145	3	1	0	1	0	0	0	3	0	3	4	0	0	0	1	0	1	0	0
146	0	1	0	0	4	4	3	2	5	4	1	1	**12**	3	5	14	4	3	5
147	7	6	5	0	10	6	15	0	3	0	2	0	10	**32**	13	0	9	8	10
148	2	2	0	0	2	0	3	1	0	0	1	1	1	3	4	0	0	0	6
149	18	14	0	3	2	1	2	12	3	1	21	0	1	1	0	0	3	18	3
150	7	18	4	4	10	6	22	2	0	3	5	0	11	8	8	0	0	18	30
151	0	3	2	0	2	2	1	7	6	**16**	0	2	0	1	2	6	3	0	2
152	0	0	1	0	4	2	2	0	4	2	0	1	3	2	10	6	**26**	5	4
153	0	2	4	0	4	0	2	0	2	0	1	1	1	2	6	**25**	18	4	8
154	0	1	0	0	7	5	0	1	14	0	1	3	9	11	**21**	2	6	5	8
155	5	7	0	1	4	1	5	0	6	6	**35**	2	9	2	1	15	1	4	4
156	13	15	0	0	31	12	32	1	8	4	13	15	**67**	26	29	3	20	16	37
157	20	29	5	5	16	7	20	3	2	7	14	4	20	**29**	4	1	4	10	16
158	1	3	1	0	5	1	4	0	0	2	2	0	4	2	5	3	5	7	11
159	1	4	4	0	7	3	5	0	8	1	1	0	5	4	19	5	6	7	16
160	6	3	0	1	3	0	5	2	1	2	3	3	4	5	3	1	13	9	8
161	18	21	4	3	6	3	7	22	2	**58**	11	1	3	1	1	1	0	10	7
162	6	3	0	0	4	0	1	1	1	0	3	1	8	3	4	10	**35**	0	0
163	0	3	0	0	0	0	1	0	1	0	3	0	1	1	0	**24**	10	0	1
164	0	0	5	0	6	1	6	2	4	0	2	2	2	1	**27**	5	2	1	5
165	11	13	1	0	1	1	1	1	0	5	**38**	1	4	3	1	0	4	2	5
166	14	34	4	2	41	11	37	0	17	2	17	4	**67**	50	14	1	6	18	45
167	3	6	5	21	1	0	0	17	18	7	5	0	1	**10**	0	6	0	8	2
168	1	0	2	5	2	6	8	0	2	0	1	0	2	5	6	4	6	6	16
169	5	5	0	1	2	0	1	0	0	0	10	0	4	1	4	0	8	1	7
170	16	29	1	11	2	1	2	15	1	7	14	3	6	3	1	4	0	16	12
171	6	5	1	2	4	0	2	1	4	**28**	5	0	1	1	1	3	4	21	14
172	3	1	0	2	1	0	0	1	0	0	0	7	3	2	2	3	**35**	0	1
173	1	0	1	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	3	**6**	0	3	0
174	6	1	1	1	7	3	5	0	0	1	7	3	1	5	**35**	0	15	5	19
175	9	18	1	1	1	0	2	10	0	10	**21**	1	7	1	1	6	0	7	2
176	12	20	0	0	15	6	29	3	4	3	15	18	**46**	20	9	6	6	13	37
177	16	25	4	0	35	10	48	2	4	2	16	2	49	**67**	23	6	11	17	32
178	5	7	2	1	7	10	8	0	1	1	3	0	10	18	8	3	11	3	4
179	0	0	0	3	0	0	0	4	4	0	0	0	0	0	7	1	4	5	4
180	2	3	0	2	2	1	1	5	1	12	6	1	2	1	0	4	3	4	1

Table 16 (4) YG 予備検査 x^2 の表

項目	S	S-R	T	T-R	D	C	DC	R	CR	G	A	M	I	N	O	Ag	Co	Y	Y′
181	1	0	1	2	0	1	1	0	0	9	0	7	0	0	0	0	0	1	1
182	4	3	0	0	1	0	0	0	1	0	2	0	4	2	6	2	23	0	4
183	1	3	1	0	3	0	4	0	0	0	1	0	0	1	2	20	7	0	2
184	1	0	1	0	6	8	4	1	6	0	1	2	1	3	10	3	1	3	0
185	14	18	0	4	2	0	1	11	1	9	36	0	3	0	0	3	0	12	4
186	6	8	0	0	14	16	12	1	6	1	1	1	24	15	14	5	8	0	3
187	12	10	8	2	18	8	29	1	1	3	7	4	21	37	20	1	10	13	23
188	0	0	3	11	0	0	5	1	1	0	0	2	4	0	10	7	5	11	9
189	19	14	8	5	16	19	5	2	3	0	10	3	25	28	7	0	6	17	24
190	2	1	1	0	7	12	3	0	14	3	2	3	3	9	4	10	5	1	6
191	26	23	4	17	2	0	2	24	9	22	7	0	2	0	1	3	0	10	8
192	3	2	0	0	6	5	0	0	5	1	4	3	8	6	10	4	26	1	8
193	4	4	0	0	0	0	1	3	0	3	7	0	0	1	1	9	0	5	4
194	6	10	4	3	19	7	27	0	10	0	1	25	21	12	24	10	7	5	8
195	8	14	3	1	15	4	16	0	7	5	34	3	18	13	10	0	1	13	16
196	7	26	13	0	38	11	45	0	6	1	13	0	61	38	31	2	6	25	16
197	14	10	2	8	8	0	3	5	2	1	8	2	1	10	3	0	4	5	9
198	0	1	1	2	6	1	0	0	0	0	1	17	2	7	4	1	5	0	1
199	6	4	2	0	3	0	0	2	0	1	4	6	2	2	1	0	5	8	6
200	0	1	0	0	12	14	7	2	24	0	1	2	13	9	19	11	3	3	13
201	3	2	1	4	0	0	0	0	2	8	2	0	1	1	1	0	4	1	4
202	1	2	3	1	0	0	0	3	0	1	0	0	1	3	7	4	41	6	13
203	1	0	0	0	4	3	3	1	3	1	0	3	10	8	9	20	17	0	5
204	14	16	12	4	36	15	29	2	5	2	8	1	45	32	44	23	14	18	40
205	14	16	1	5	0	0	2	11	2	5	37	1	1	0	0	11	0	9	3
206	5	6	4	0	15	3	13	0	4	1	3	1	26	11	17	0	17	7	19
207	1	2	0	0	1	3	3	0	2	0	1	0	5	5	3	1	3	2	1
208	20	31	9	4	14	6	10	12	0	3	15	2	13	13	8	0	3	35	48
209	4	3	0	0	0	0	0	6	3	1	5	1	0	2	1	5	0	4	5
210	6	4	4	3	10	6	13	0	1	0	0	2	17	27	7	3	3	19	30
211	16	14	1	0	1	6	5	7	0	49	11	0	4	3	0	1	0	5	1
212	3	13	1	2	3	6	7	3	0	0	4	15	10	4	12	4	29	7	14
213	4	8	0	0	0	0	6	7	3	4	10	2	1	0	0	48	0	0	1
214	1	0	10	0	12	12	13	0	7	1	0	1	12	14	32	6	6	1	11
215	1	4	0	0	0	1	0	1	0	0	14	3	2	0	1	2	0	4	0
216	11	20	10	0	35	19	29	0	5	1	12	1	59	27	12	0	3	20	30
217	0	3	1	0	5	2	8	1	1	0	0	0	8	15	5	3	11	7	18
218	9	6	11	4	13	10	12	2	0	1	1	0	4	14	20	1	9	8	18
219	14	14	1	0	5	4	8	3	0	11	24	3	12	3	0	4	0	13	4
220	7	9	3	12	2	0	0	19	5	10	0	3	0	0	0	1	6	8	14
221	0	1	3	1	0	0	0	0	3	16	3	0	0	0	0	0	2	0	0
222	16	16	2	0	12	8	14	1	5	0	7	2	30	17	17	14	48	8	11
223	3	4	0	3	0	0	1	0	0	2	11	2	0	0	0	45	1	7	5
224	3	1	1	0	4	1	4	1	1	0	0	1	4	4	23	1	12	6	10
225	9	24	0	0	14	0	24	0	2	2	21	1	29	17	6	0	5	14	10
226	4	6	1	0	10	5	5	0	7	1	4	2	37	14	8	6	11	5	4
227	7	10	0	0	25	21	35	0	20	0	8	2	40	44	40	3	8	20	31
228	10	18	44	6	31	18	46	3	0	1	3	6	18	19	31	4	10	30	45
229	2	5	11	0	18	4	14	0	6	0	0	1	24	20	34	11	10	16	22
230	25	31	8	10	26	7	19	8	0	5	13	0	22	13	3	1	2	25	26
231	0	1	6	1	1	1	4	0	0	6	0	0	0	1	0	1	0	3	6
232	5	3	0	0	13	2	3	0	4	0	10	2	7	8	6	4	17	1	11
233	2	1	2	2	3	4	4	2	1	2	0	0	3	1	2	22	1	1	2
234	2	0	1	0	3	4	3	1	4	0	0	2	3	4	8	1	10	5	8
235	17	18	0	0	4	1	3	0	1	11	37	0	5	7	0	21	1	8	3
236	5	5	0	0	4	1	4	0	1	0	3	2	10	2	4	1	14	9	10
237	3	5	0	0	8	1	5	0	2	0	3	10	10	29	13	16	12	18	24
238	2	2	17	1	9	7	16	1	0	0	4	0	4	9	19	2	8	30	26
239	4	3	1	3	4	2	1	0	0	0	1	2	4	2	6	2	2	3	7
240	37	56	2	7	11	1	18	13	0	19	41	2	22	5	11	1	6	29	32

YG 予備検査の尺度項目

	S 項 目	χ^2
51	新しい友達はなかなかできない	53
41	人前で話すのは気がひける	52
101	異性（男なら女）の友達は殆んどできない	40
21	知らぬ人と話す時は固くなる	39
71	人目に立つようなことは好まない	38
81	人中ではあがるたちである	35
31	色々な人と知合になるのが樂しみである	34
91	自分で話すより人の話を聞く方である	33
61	世話役はいつも人に頼むことにしている	31
11	会などの時はいつも人の先に立つて働く	27
1	話すより書く方が気持を伝えやすい	24
111	世間から離れて一人で生活がしたい	15

	S-R 項 目	χ^2
72	人前に出るのが恥かしい	79
82	人と広くつきあうのが好きである	67
62	人中ではだまつている	61
12	目上の人の前に出ると固くなる	58
22	活潑でない	55
92	こちらから進んで友達を作ることが少ない	55
42	異性（男なら女）の前では人一倍恥しがる	53
32	人が見ていると仕事ができない	49
52	人に対してはいつも氣樂に返事ができる	46
102	色々な世間の活動がしてみたい	46
112	人前で赤面するので困ることが多い	42
2	友達は選ばれた少数だけでよい	21

	T 項 目	χ^2
83	何でもよく考えてみないと氣がすまない	52
43	深く物事を考える傾向がある	50
3	度々考えこむくせがある	33
63	むずかしい問題を考えるのが好きである	31
93	度々人はなぜあんな事をするのかと考える	29
23	人のすることの裏を考えることが多い	28
53	友達と眞面目な話をするのが好きである	20
73	人の品行（行い）が氣になるたちである	20
103	時々人生の意義について考えてみる	17
113	何でもめんどうなことは好まない	14
13	人の気持を色々推測してみることが多い	13
33	何が起つても割合平気でいられる	5

	T-R 項 目	χ^2
84	きがるなたちである	52
4	のんきなたちである	34
104	お祭さわぎが好きである	34
24	運動より勉强の方が好きである	27
14	こまかいめんどうな仕事が好きである	15
44	何のあてもなく散歩に出ることがある	13
34	一人でゆつくり考える時がほしい	11
94	仕事はいつも真剣にやる	10
74	未来のことには余り興味がない	8
114	人中で働いている時が一番楽しい	8
54	いつもそわそわして落付かない	5
64	時々自分で自分の心を反省(分析)する	5

	D 項 目	χ^2
55	いつも疲れた気持である	67
15	人中にいてもふと淋しくなることがある	54
5	度々後悔で胸が一杯になることがある	52
45	大体いつも機嫌がよい	39
25	いやな人と道で出合うと避けて通る	34
35	座つていても気分が落付かない	28

	C 項 目	χ^2
65	時々ボカンとしていることがある	44
85	感情的である	44
95	時々気が散つて考がまとまらない	42
75	気持を顔にあらわしやすい	41
105	頭がよくなつたり悪くなつたり定まらない	39
115	一人で遊びに行くことはめつたにない	8

	DC 項 目	χ^2
26	わけもなく自分がみじめだと思う事がある	79
16	度々元気がなくなる	72
56	時々自分をつまらぬ人間だと思う事がある	59
106	時々何に対しても興味がなくなる	56
96	度々過去の失敗をくよくよと考える	53
86	生きるのがいやなほどゆううつな時がある	52
36	早く決心すればよかつたと悔むことが多い	39
6	何か不幸が起りそうで不安である	34
66	困ることがあつてもほがらかでいられる	21
46	わけもなく喜んだり悲しんだりする	13
76	心配で眠られぬことが度々ある	13
116	周囲の人々の気分がすぐ自分に伝染する	12

	R 項目	χ^2
27	人と一緒にはしやぐことが多い	52
77	運動競技を見ている時はいつも夢中である	34
107	友達は時々変わる方である	34
47	いつも何か刺激を求める	28
117	計画を立てるより早く実行がしたい	28
57	人をからかうくせがある	25

17	**周囲の人とうまく調子を合わせていく**	24
97	**会やグループの爲に働くのが楽しみである**	18
67	**思つたこと**は遠慮なくいう方である	17
37	**用心深い**たちである	16
87	真面目な劇より万才の方がよい	13
7	人の批評は余り気にしない	10

	CR　項　目	χ^2
68	**早合点の傾向がある**	53
8	**よく考えずに行動してしまうことが多い**	49
28	**衝動的である（自分がおさえられない）**	44
48	**気が変りやすい**	41
58	**仕事に変化がないとすぐいやになる**	35
98	**怒り易いがすぐなおる**	35
18	**色々ちがう仕事がしてみたい**	31
108	**退屈したときは何か強い刺激がほしい**	29
38	**とてもありそうもないことを空想する**	23
78	**実行する前に考えなおしてみることが多い**	17
88	昔のことを考えるのが楽しみである	8
118	陽気に仲間と時をすごすのが好きである	7

	G　項　目	χ^2
121	**てきぱきと物事を片付ける**	62
161	**仕事は人よりずつと速い方である**	58
211	**短い時間に澤山の仕事をする自信がある**	49
141	**動作はきびきびしている**	48
171	**一つの仕事がすむとすぐ次の仕事にうつる**	28
191	**口数が多い方である**	22
151	**人から向見ず**だといわれることがある	16
221	**足が速いので**いつも人を追いこして歩く	16
181	いつも時間より早く出かけていく	9
201	人からさいそくされないと働かない	8
131	食事は人一倍速い方である	6
231	家の者が遊びに出ても喜んで留守をする	6

	A　項　目	χ^2
165	**成るべく面倒なことにはかかわりあわない**	38
205	**何か事件が起きた時には進んで世話をする**	37
235	**目上の人とも遠慮なく議論することがある**	37
185	**会の仕事などは喜んで引きうける**	36
155	**正しいと思うことは人にかまわず実行する**	35
195	**困難にぶつかると気がくじける**	34
135	**気が弱いので物売りを断るのに苦勞する**	25
175	**会などをうまく導いていく才能がある**	21
225	**人とちがうことは恥かしくてできない**	21
125	物の値段が高ければ遠慮なく負けさせる	14
215	買物に欠点があればどんどん返しにいく	14
145	いつも友人や親戚の世話ばかりしている	4

	I　項　目	χ^2
156	**劣等感（人に劣る感じ）に悩まされる**	67
166	**失敗しやしないかといつも心配である**	67
196	**人から邪魔にされはしまいかと心配である**	61
216	**仲々決心がつかず機会を失うことが多い**	59
176	**何かにつけて自信がない**	46
136	**人からいつも見られている樣で不安である**	45
226	**もつとちがう境遇に生れたかつたと思う**	37
206	**いつも他人が羨ましいと思う**	26
186	**興奮するとじき涙が出る**	24
126	目立つような席に坐るのは好まない	12
146	軽蔑されたと思うとひどく腹が立つ	12
236	いつも自分は人から無視されていると思う	10

	N　項　目	χ^2
177	**一寸したことがすぐ仕事の邪魔になる**	67
227	**気分がしばしば動搖する**	44
137	**急に刺激されるとひどく驚くことがある**	42
187	**理由もなく不安になることが時々ある**	37
147	**度々ねつかれないで困ることがある**	32
157	**競技などの時固くなる**	29
237	**侮辱された恨みはいつまでも忘れられない**	29
217	気狂になりはしまいかと心配した事がある	15
127	人中でお化粧する人はいやな気がする	14
167	じつとおとなしくしているのが苦手である	10
197	余り自分のことを聞かれるのはいやである	10
207	広い通を横切るのが気づまりである	5

	O　項　目	χ^2
134	**何もかも旨く行かないと思う日が時々ある**	48
204	**すぐ感情を傷けられやすい**	44
174	**人から觸れられたくない秘密がある**	35
214	**色々な事が皆自分に関係がある樣に思える**	32
124	**じきにうろたえるたちである**	28
164	**時々難かに打明け話がしたい**	27
194	**いつも自分を他人と比較する傾向がある**	24
224	**わざと除け者にされたことが度々ある**	23
154	**いつも話題は自分のことになりやすい**	21
184	講演を聞きながら時々合槌を打つ癖がある	10
234	私のことをいつも悪くいう人がある	8
144	人の親切には下心がありそうで不安である	7

	Ag　項　目	χ^2
213	**失礼なことをされると怒つていない**	48

223	不正なことは黙つていられない	45
133	平凡に暮すよりは何か変つたことがしたい	27
153	人の意見を度々馬鹿らしいと思う事がある	25
163	余り出しやばる人は抑えるのがよいと思う	24
233	人から指図されるのはきらいである	22
183	自分を守るには人と争うのもやむをえない	20
203	世間の人は馬鹿ばかりだと思うことがある	20
143	私を利己主義だという人がある	12
193	列の先に割込む人には遠慮なく注意する	9
123	負けずぎらいである	6
173	新しい計画を立てるのが好きである	6

Co	項　目	χ^2
222	人は私を充分に認めてくれない	48
202	人は結局利慾のために働くのだと思う	41
162	人が見ていないと大抵の人は怠けると思う	35
172	世の中の人は人の事などかまわないと思う	35
212	親友でもほんとうに信用する事はできない	29
152	人から虐待された經験がある	26
192	スパイのような人が澤山いる	26
182	世の中は不公平なことに満ちていると思う	23
142	成功するためには嘘も必要だと思う	21
232	自分はいつも運がわるい	17
122	自分はいつもいやな仕事を押しつけられる	11
132	悪くもないのに罰せられた経験がある	10

第17A表も同じ関係を示したものであるが、最上列の数字は各特性に対して1％level で有意な項目の実数であり、最左端の数字は同じものを240項目に対する百分比で示した値である。表中の他の数字は各特性間に一致して有意差を示す項目の実数（右上）とその一致可能数に対する百分比（左下）である。そこで例えば S 特性群と S-R 特性群とは有意項目数が97％も一致しているのであるから、

Table 17A　有意項目の一致度數

（右上は実数左下は％）

		S	S-R	T	T-R	D	C	DC	R	CR	G	A	M	I	N	O	Ag	Co	Y	Y'
		98	119	38	40	122	64	105	64	44	54	89	15	124	101	97	33	69	127	148
S	41		95	22	28	72	37	71	42	11	43	76	7	73	57	47	8	24	92	87
S-R	50	97		24	32	87	46	84	46	18	44	80	11	89	68	56	21	34	97	96
T	16	58	63		15	31	22	28	12	9	6	12	0	27	27	25	2	19	26	29
T-R	17	70	80	40		22	8	23	36	15	23	19	0	20	12	8	4	2	30	33
D	51	73	73	82	55		61	93	25	28	25	57	11	104	94	50	12	46	92	107
C	27	58	72	58	20	95		54	9	22	9	27	5	58	56	50	11	31	43	56
DC	44	72	80	74	58	89	84		26	19	29	55	10	94	80	78	10	40	86	96
R	27	66	72	32	90	36	14	41		15	36	35	2	25	14	11	9	7	44	37
CR	18	25	41	24	38	64	50	43	35		6	10	3	25	21	26	9	11	12	26
G	23	80	81	16	58	46	17	54	67	14		34	2	25	11	12	5	5	42	36
A	32	85	90	32	48	64	42	62	55	23	63		5	61	44	31	10	20	70	68
M	6	47	73	0	0	73	33	67	13	20	13	33		11	10	11	3	8	10	12
I	52	74	75	71	50	85	91	90	39	57	40	69	73		93	78	15	50	88	104
N	42	58	67	71	30	93	88	79	22	48	20	49	67	92		75	13	47	74	86
O	40	48	58	66	20	52	78	80	17	59	22	35	73	80	77		14	48	66	84
Ag	14	24	64	6	12	36	33	30	27	27	15	30	33	33	39	42		15	11	12
Co	29	35	49	50	5	67	48	58	11	25	9	29	53	72	68	70	45		40	53
Y	53	94	82	68	75	75	67	82	69	27	78	79	67	71	73	68	33	58		110
Y'	62	89	81	76	83	88	88	91	58	59	67	76	80	83	85	87	36	77	87	

Table 17B　各尺度間の共通被験者数

（Y-G予備検査 GP 各群50名）

	S	S-R	T	T-R	D	C	DC	-R	CR	-G	-A	I	N
S		38/1	14/10	18/8	17/4	15/7	20/2	20/3	9/12	24/5	28/3	25/3	20/4
S-R	33/1		14/11	18/7	21/1	14/9	21/2	21/2	7/7	22/5	27/2	27/3	18/5
T	16/7	20/7		25/6	20/6	14/7	16/3	20/9	6/23	16/14	9/12	16/10	14/8
T-R	19/6	20/8	16/7		17/13	17/10	17/9	27/6	7/20	14/9	13/8	14/12	10/9
D	16/5	28/6	20/5	16/8		21/7	31/2	15/9	21/5	10/9	17/7	27/1	27/2
C	19/9	20/8	16/8	9/17	23/7		23/5	10/14	20/5	15/12	23/9	20/7	19/7
DC	22/6	29/5	21/8	15/8	25/2	23/4		12/13	19/4	14/8	17/5	29/2	26/0
-R	21/8	25/6	17/6	19/1	17/11	10/11	20/5		6/23	21/3	15/3	19/13	17/15
CR	14/11	11/10	8/8	7/19	19/4	18/4	12/8	5/25		12/12	13/10	21/5	16/4
-G	21/7	21/3	17/13	16/10	22/11	15/11	18/7	23/6	6/15		17/9	18/9	19/14
-A	26/3	27/0	14/14	13/7	24/8	17/13	17/4	18/10	14/11	25/5		20/3	22/7
I	23/4	30/1	16/9	12/7	29/2	24/1	28/0	17/10	19/10	15/9	25/5		27/3
N	27/8	30/5	17/11	14/13	31/1	21/4	27/0	9/12	18/2	9/11	15/4	31/0	

右上欄はP群、左下欄はG群。

左上数字は一致人数、右下数字はGとPとが逆になつた人数。

R, G, A, 三特性についてはこの関係は逆に記入した。

なお尺度が夫々全く独立と仮定した場合の偶然的一致度は200÷16＝12.5名である。

全く識別力をもたず、独立特性としての意義を有しないといわなければならない。このようにして、DとDC、或はRとT-Rとの間にも区別がつけられない。尤もこれらは Guilford の検査においても区別されていなかつたものを、我々がしいて区別したのであつたが、一方DとC, N或はCとI, N或は又S-RとA等の如く、はつきりと別の特性とされたものの間にも識別力がないという結果がえられている。そこで我々はこの内的整合性の増進と、特性間の独立性の増進とを目標として、新しい検査の作製に努力するに至つたである。

なお**第17B表**は同じ関係を被験者の一致度から見たものである。

4. **YG 検査第一型式の作製。**　このような見地から我々は比較的独立な特性を代表し、しかも極めて有意な項目のみからなるテストバツテリーを構成しようとしたのであるが、この場合標準の取り方によつて2種類の検査を作製した。以下これらを **YG検査の第一型式**及び**第二型式**と命名することにする。

YG 検査第一型式においては特性数を16とし、各特性を代表する項目数を25ずつとした。即ち合計16×25＝400となるはずであるが、異なる特性間に項目の重複を許したから、実数は200問となつた。

特性数を16に限定したのはS特性とS-R特性とを合併し、D特性とDC特性とを合併し、又T-R特性を廃棄したことによる。S特性25問及びS-R特性25問の得点合計相互間の相関は何れも.9を越える。又T-RとRとの相関は.88であるのみなず、T-R項目として選ばれた12項目は4項目を除き他

はその代表価において不充分であることが見出されたからである。各特性に25問を選んだのは、比較的代表価の高い項目を出来るだけ多数採用したいと考えた結果に他ならぬ。

かくして作製されたYG検査の第一型式を構成する各特徴項目は次頁の通りであるが、各項目の末尾には念のため第16表に示したカイ二乗の価を並記しておいた。但しM項目の数値は第16表のものと異なり、これは前にも述べたように後に西京大学生男女各100名ずつの解答数に対してカイ二乗検定を行つた結果である。

YG予備検査のA Group 200名がこれらの特徴項目群に対して示した得点の度数分布は**第18表**に示される。

Table 18　YG-I の度数分布

（京大生 A Group 200名）

得点	S	T	D	C	R	CR	G	A	M	I	N	O	Ag	Co	Y	Y'
49—50	3	0	5	1	0	0	2	1	0	1	0	1	0	1	0	4
47—48	9	6	5	3	0	0	6	4	0	3	1	2	0	1	2	3
45—46	5	13	7	5	5	1	3	4	0	1	0	4	0	5	8	3
43—44	13	8	4	4	4	2	8	4	7	4	1	5	4	11	7	3
41—42	10	11	3	5	2	3	8	8	4	3	0	5	1	13	4	6
39—40	13	11	14	3	8	6	14	4	6	5	4	9	12	19	7	3
37—38	9	11	11	9	11	7	10	4	13	7	2	7	11	14	8	4
35—36	7	14	5	10	11	8	8	4	15	10	9	7	11	15	6	8
33—34	13	8	8	17	5	11	9	6	21	7	8	9	12	11	8	13
31—32	4	14	13	7	11	14	8	11	26	11	16	12	22	17	11	7
29—30	11	7	14	6	13	10	15	9	16	15	8	12	15	6	13	12
27—28	11	12	7	16	5	17	8	12	16	16	10	12	21	15	3	13
25—26	7	15	8	11	10	17	14	13	14	9	8	14	14	21	14	13
23—24	11	8	7	14	8	14	9	8	19	12	15	11	22	13	10	11
21—22	13	11	9	8	8	15	4	14	12	7	14	8	16	8	10	3
19—20	5	7	11	13	13	7	11	9	9	9	14	13	10	10	14	14
17—18	3	6	7	13	15	15	11	11	11	10	13	14	9	6	12	13
15—16	10	8	6	9	5	7	12	13	4	14	14	13	4	4	15	8
13—14	6	4	10	10	6	10	4	10	3	12	10	10	6	5	13	6
11—12	7	10	5	3	17	6	5	9	3	15	15	13	7	3	9	5
9—10	6	5	6	10	10	10	5	13	0	12	11	5	2	0	5	11
7—8	6	6	12	5	15	13	12	8	1	6	15	4	1	0	7	11
5—6	7	2	6	9	9	3	9	6	0	8	9	8	0	0	10	11
3—4	8	3	10	6	7	1	4	5	0	0	2	2	0	2	4	9
0—2	3	0	7	3	2	3	1	10	0	3	1	0	0	0	0	6
SD	13.4	11.7	13.6	11.7	12.0	10.2	12.5	12.2	7.6	11.0	9.8	11.0	7.9	9.2	11.6	12.5
Q_1	15.9	20.2	13.3	15.4	11.3	15.6	16.2	12.3	23.2	13.5	12.1	15.7	21.9	24.3	14.8	11.3
M	27.1	28.6	24.7	24.0	22.0	23.0	26.0	22.2	27.8	23.0	20.5	25.4	28.1	31.5	23.8	22.4
Q_3	39.0	38.3	36.1	33.3	32.3	30.8	36.7	30.5	34.0	30.9	28.3	32.3	32.4	38.5	32.5	31.6

YG 検査第一型式の尺度項目

（ゴチク数字は自己尺度によるもの）

（*印は第二型式と一致する項目）

S 項目		χ^2
92.*	こちらから進んで友達を作ることが少ない	55
89.*	誰とでもよく話す	49
62.*	人中ではだまつている	44
82.*	人と広くつきあうのが好きである	44
72.	人前に出るのが恥かしい	38
119.*	誰とでも平気でつきあう	38
90.	はにかみやである	37
240.	人中では何時も後の方に引込んでいる	37
12.	目上の人の前に出ると固くなる	37
51.*	新しい友達は仲々できない	**53**
41.	人前で話すのは気がひける	**52**
52.	人に対してはいつも気楽に返事ができる	29
32.	人がみていると仕事ができない	26
191.	口数が多い方である	26
230.	いんきである	25
79.*	人中に出てもまごつかない	22
112.	人前で赤面するので困ることが多い	22
121.	てきぱきと物事を片付ける	22
97.	会やグループの為に働くのが楽しみである	21
157.	競技などのとき固くなる	20
208.	人と一緒にいるのが気づまりである	20
21.*	知らぬ人と話す時はかたくなる	**39**
67.	思つたことは遠慮なく云う方である	19
71.*	人目に立つようなことは好まない	**38**
91.	自分で話すより人の話を聞く方である	**33**

T 項目		χ^2
228.	しばしば物思いに沈むことがある	44
83.*	何でもよく考えてみないと気がすまない	**52**
43.*	深く物事を考える傾向がある	**50**
60.	度々ゆううつになる	25
110.	ぼんやり考えこむくせがある	23
15.	人中にいてもふと淋しくなることがある	21
78.*	実行する前に考えなおしてみることが多い	20
238.*	会話の最中にふと考えこむくせがある	17
100.	些細なことを気にやむ	15
9.	多勢と一緒にいるのが好きである	14
109.	気持があつさりしている	14
3.*	度々考えこむくせがある	**33**
16.	度々元気がなくなる	13
37.*	用心深いたちである	13
84.	きがるなたちである	13
196.	人から邪魔にされはしまいかと心配である	13
63.*	むずかしい問題を考えるのが好きである	**31**
204.	すぐ感情を傷付けられやすい	12
218.*	一人きりでいたいと思うことが時々ある	11
229.	度々人の気持を確かめてみたい	11
96.	度々過去の失敗をくよくよと考える	10
216.	仲々決心がつかず機会を失うことが多い	10
214.	色々の事が皆自分に関係がある様に思える	10
93.	度々人はなぜあんな事をするのかと考える	**29**
23.*	人のすることの裏を考えることが多い	**28**

D 項目		χ^2
16.*	度々元気がなくなる	**53**
55.*	いつも疲れた気持である	**67**
166.	失敗しやしないかといつも心配である	41
96.*	度々過去の失敗をくよくよと考える	39
196.	人から邪魔にされはしまいかと心配である	38
60.*	度々ゆううつになる	36
204.	すぐ感情を傷付けられやすい	36
15.*	人中にいてもふと淋しくなることがある	**54**
32.	人が見ていると仕事ができない	35
177.	一寸したことがすぐ仕事の邪魔になる	35
216.	仲々決心がつかず機会を失うことが多い	35
100.	些細なことを気にやむ	34
106.*	時々何に対しても興味がなくなる	33
5.	度々後悔で胸が一杯になることがある	**52**
156.	劣等感（人に劣る感じ）に悩まされる	31
228.*	しばしば物思いに沈むことがある	31
26.	わけもなく自分がみじめだと思う事がある	30
86.	生きるのがいやなほどゆううつな時がある	29
10.	心配性である	26
230.*	いんきである	26
70.	不満が多い	25
227.	気分がしばしば動揺する	25
56.*	時々自分をつまらぬ人間だと思う事がある	25
19.	いつもほがらかである	21
3.	度々考えこむくせがある	20

C 項目		χ^2
16.	度々元気がなくなる	26
65.	時々ボカンとしていることがある	**44**
85.*	感情的である	**44**

106.	時々何に対しても興味がなくなる	24
48.*	気が変りやすい	22
110.	ぼんやり考えこむくせがある	21
227.*	気分がしばしば動揺する	21
95.*	時々気が散つて考えがまとまらない	42
75.*	気持を顔にあらわしやすい	41
105.	頭がよくなつたり悪くなつたり定まらない	39
216.	仲々決心がつかず機会を失うことが多い	19
189.	人が来てうるさいと思うことが度々ある	19
60.	度々ゆううつになる	18
228.	しばしば物思いに沈むことがある	18
58.*	仕事に変化がないとすぐいやになる	16
68.	早合点の傾向がある	16
186.*	興奮するとじき涙が出る	16
56.	時々自分がつまらぬ人間だと思う事がある	16
112.	人前で赤面するので困ることが多い	15
204.	すぐ感情を傷付けられやすい	15
200.*	こうふんしやすい	14
134.	何もかも旨くいかないと思う日が時々ある	14
86.	生きるのがいやなほどゆううつな時がある	13
26.	わけもなく自分がみじめだと思う事がある	13
40.*	すぐふきげんになる	13

R 項 目		χ^2
82.	人と広くつきあうのが好きである	41
27.*	人と一緒にはしやぐことが多い	52
83.	何でもよく考えてみないと気がすまない	30
9.*	多勢と一緒にいるのが好きである	29
84.*	きがるなたちである	29
49.	いきいきしている	26
68.*	早合点の傾向がある	25
89.	誰とでもよく話す	25
191.*	口数が多い方である	24
104.*	お祭りさわぎが好きである	19
119.	誰とでも平気でつきあう	19
220.	あまりじようだんをいわない	19
62.	人中ではだまつている	18
102.	色々な世間の活動がしてみたい	17
167.*	じつとおとなしくしているのが苦手である	17
2.	友達は選ばれた少数だけでよい	16
66.	困ることがあつてもほがらかでいられる	15
91.	自分で話すより人の話をきく方である	15
170.	人のあつかいがうまい	15
4.	のんきなたちである	34
109.	気持があつさりしている	14
19.	いつもほがらかである	13
41.	人前で話すのは気がひける	12
205.	何か事件がおきた時には進んで世話をする	11
24.	運動より勉強の方が好きである	27

CR 項 目		χ^2
8.	よく考えずに行動してしまうことが多い	49
47.	いつも何か刺激を求める	28
200.	こうふんしやすい	24
28.	衝動的である（自分がおさえられない）	44
68.	早合点の傾向がある	53
27.	人と一緒にはしやぐことが多い	21
48.	気が変りやすい	41
227.	気分がしばしば動揺する	20
167.	じつとおとなしくしているのが苦手である	18
166.	失敗しやしないかといつも心配である	17
124.	じきにうろたえるたちである	15
58.	仕事に変化がないとすぐいやになる	35
98.	怒りやすいがすぐなおる	35
154.	いつも話題は自分のことになりやすい	14
190.	気が短い	14
116.	周囲の人々の気分がすぐ自分に伝染する	13
43.	深く物事を考える傾向がある	12
85.	感情的である	12
117.	計画を立てるより早く実行がしたい	12
5.	度々後悔で胸が一杯になることがある	11
18.	色々ちがう仕事がしてみたい	31
57.	人をからかうくせがある	11
35.	坐つていても気分が落付かない	10
75.	気持を顔にあらわしやすい	10
108.	退屈した時は何か強い刺激がほしい	29

G 項 目		χ^2
121.*	てきぱきと物事を片付ける	62
161.*	仕事は人よりずつと速い方である	58
211.*	短い時間に沢山の仕事をする自信がある	49
141.*	動作はきびきびしている	48
62.	人中ではだまつている	26
49.*	いきいきしている	23
240.	人中ではいつも後の方にひつこんでいる	19
69.*	新しいことにもすぐなれる	17
84.	きがるなたちである	16
41.	人前で話すのは気がひける	15
52.*	人に対してはいつも気楽に返事ができる	15
19.*	いつもほがらかである	14
79.	人中に出てもまごつかない	13
89.	誰とでもよく話す	13
55.	いつも疲れた気持である	12

66.*	困ることがあつてもほがらかでいられる	12
72.	人前に出るのが恥かしい	12
82.	人と広くつきあうのが好きである	12
102.	いろいろな世間の活動がしてみたい	12
180.	たのまれたことはすぐ行う	12
117.	計画を立てるより早く実行がしたい	11
219.	困難な時は却つて元気を出す	11
17.*	周囲の人とうまく調子を合わせていく	10
80.	気がきかない	10
171.	一つの仕事がすむとすぐ次の仕事に移る	28

A 項 目

		χ^2
240.*	人中ではいつも後の方に引込んでいる	41
72.*	人前に出るのが恥かしい	38
12.*	目上の人の前に出ると固くなる	36
62.	人中ではだまつている	35
61.*	世話役はいつも人にたのむことにしている	29
67.*	思つたことは遠慮なく云う方である	28
90.*	はにかみやである	27
97.*	会やグループの為に働くのが楽しみである	26
41.*	人前で話すのは気がひける	25
49.	いきいきしている	24
219.	困難な時は却つて元気を出す	24
42.	異性(男なら女)の前では人一倍恥しがる	21
91.*	自分で話すより人の話を聞く方である	21
149.	人の世話が好きである	21
52.	人に対してはいつも気楽に返事ができる	19
92.	こちらから進んで友達を作る事が少ない	19
11.*	会などの時はいつも人の先に立つて働く	18
21.	知らぬ人と話す時は固くなる	18
89.	誰とでもよく話す	18
165.	成るべく面倒なことにはかかわりあわない	38
205.	何か事件がおきた時には進んで世話をする	37
235.	目上の人とも遠慮なく議論することがある	37
185.	会の仕事などは喜んで引受ける	36
155.	正しいと思うことは人にかまわず実行する	35
195.	困難にぶつかると気がくじける	34

M 項 目

(数値は西京大学々生の男女差、ゴチック番号は男性的)

		χ^2
199.*	大切な決心をする時も余り人に相談しない	16
120.*	いつも自分は駄目だと思う	14
194.*	いつも自分を他人と比較する傾向がある	14
118.*	陽気に仲間と時をすごすのが好きである	10
198.*	馬鹿正直である	10
26.*	わけもなく自分がみじめだと思う事がある	8
56.	劣等感（人に劣る感じ）に悩まされる	8
176.	何かにつけて自信がない	8
181.*	いつも時間より早く出かけていく	8
212.*	親友でも本当に信用することはできない	8
86.*	生きるのがいやなほどゆうつな時がある	7
111.*	世間から離れて一人で生活がしたい	7
127.*	人中でお化粧する人はいやな気がする	7
65.	ときどきボカンとしていることがある	6
71.	人目に立つようなことは好まない	6
134.*	何もかも旨く行かないと思う日が時々ある	6
57.	人をからかうくせがある	5
62.	人中ではだまつている	5
110.	ぼんやり考えこむくせがある	5
135.	気が弱いので物売りを断るのに苦労する	5
228.	しばしば物思いに沈むことがある	5
21.	知らぬ人と話す時は固くなる	4
56.	時々自分をつまらぬ人間だと思う事がある	4
92.	こちらから進んで友達を作ることが少ない	4
237.	侮辱された恨みはいつまでも忘れられない	4

I 項 目

		χ^2
156.*	劣等感（人に劣る感じ）に悩まされる	67
166.*	失敗しやしないかといつも心配である	67
72.	人前に出るのが恥かしい	30
222.	人は私を充分に認めてくれない	30
225.*	人とちがうことは恥かしくてできない	29
230.	いんきである	22
240.	人中ではいつも後の方に引込んでいる	22
21.	知らぬ人と話す時は固くなる	21
187.	理由もなく不安になることが時々ある	21
194.	いつも自分を他人と比較する傾向がある	21
112.*	人前で赤面するので困ることが多い	20
157.*	競技などのとき固くなる	20
90.	はにかみやである	19
95.	時々気が散つて考えがまとまらない	19
121.	てきぱきと物事を片付ける	19
141.	動作はきびきびしている	19
12.	目上の人の前に出ると固くなる	18
23.	人のすることの裏を考えることが多い	18
40.	すぐふきげんになる	18
70.	不満が多い	18
195.*	困難にぶつかると気がくじける	18
226.	もつとちがう境遇に生れたかつたと思う	37
38.	とてもありそうもないことを空想する	16
41.	人前で話すのは気がひける	16
62.	人中ではだまつている	16

N 項 目		χ^2
177.*	一寸したことがすぐ仕事の邪魔になる	67
210.*	神経質である	27
156.	劣等感（人に劣る感じ）に悩まされる	26
137.	急に刺激されるとひどく驚くことがある	42
40.	すぐふきげんになる	19
58.	仕事に変化がないとすぐいやになる	18
178.	困難な状況では汗が出て来て困る	18
110.	ぼんやり考えこむくせがある	17
187.	理由もなく不安になることが時々ある	37
70.	不満が多い	17
25.	いやな人と道で出会うと避けて通る	16
186.	興奮するとじき涙が出る	15
33.	何が起つても割合平気でいられる	14
92.	こちらから進んで友達を作る事が少ない	14
214.*	色々な事が皆自分に関係がある様に思える	14
112.	人前で赤面するので困る事が多い	14
218.	一人きりでいたいと思う事が時々ある	14
1.	話すより書く方が気持を伝えやすい	13
76.	心配で眠られぬことが度々ある	13
208.	人と一緒にいるのが気づまりである	13
3.	たびたび考えこむくせがある	12
6.	何か不幸が起りそうで不安である	12
35.	坐つていても気分が落付かない	12
147.	度々ねつかれないで困ることがある	32
237.	侮辱された恨みはいつまでも忘れられない	29

O 項 目		χ^2
227.	気分がしばしば動揺する	40
26.	わけもなく自分がみじめだと思う事がある	36
60.	度々ゆううつになる	34
229.	度々人の気持を確かめてみたい	34
196.	人から邪魔にされはしまいかと心配である	31
228.	しばしば物思いに沈むことがある	31
86.	生きるのがいやなほどゆううつな時がある	29
106.	時々何に対しても興味がなくなる	29
110.	ぼんやり考えこむくせがある	29
156.	劣等感（人に劣る感じ）に悩まされる	29
16.	度々元気がなくなる	27
134.	何もかも旨く行かないと思う日が時々ある	48
204.	すぐ感情を傷付けられやすい	44
40.	すぐふきげんになる	24
55.	いつも疲れた気持である	24
177.	一寸したことがすぐ仕事の邪魔になる	23
5.	度々後悔で胸がいつぱいになる	20
68.	早合点の傾向がある	20
105.*	頭がよくなつたり悪くなつたり定まらない	20
187.	理由もなく不安になることが時々ある	20
218.	一人きりでいたいと思うことが時々ある	20
174.	人から触れられたくない秘密がある	35
214.	色々の事が皆自分に関係がある様に思える	32
124.	じきにうろたえるたちである	28
164.*	時々誰かに打明け話がしたい	27

Ag 項 目		χ^2
47.	いつも何か刺激を求める	27
213.*	失礼なことをされるとだまつていない	48
223.*	不正なことはだまつていられない	45
104.	すぐ感情を傷付けられやすい	23
202.*	いろいろな世間の活動がしてみたい	22
235.*	目上の人とも遠慮なく議論することがある	21
108.*	退屈したときは何か強い刺激がほしい	20
237.*	侮辱された恨みはいつまでも忘れられない	16
155.*	正しいと思うことは人にかまわず実行する	15
28.*	衝動的である（自分がおさえられない）	14
146.*	軽蔑されたと思うとひどく腹がたつ	14
222.	人は私を充分に認めてくれない	14
200.	こうふんしやすい	11
205.	何か事件が起た時には進んで世話をする	11
229.	度々人の気持を確かめてみたい	11
142.	成功するためにはうそも必要だと思う	10
162.	人が見ていないと大抵の人は怠けると思う	10
58.	仕事に変化がないとすぐいやになる	10
190.*	気が短い	10
194.	いつも自分を他人と比較する傾向がある	10
44.	何のあてもなく散歩に出ることがある	9
129.*	いつも何かしていないと気がすまない	7
133.*	平凡に暮すより何か変つたことがしたい	27
153.	人の意見を度々馬鹿らしいと思う事がある	25
163.	余り出しやばる人は抑えるのがよいと思う	24

Co 項 目		χ^2
222.*	人は私を充分に認めてくれない	48
26.	わけもなく自分がみじめだと思う事がある	23
16.	度々元気がなくなる	20
156.	劣等感（人に劣る感じ）に悩まされる	20
202.*	人は結局利慾のために働くのだと思う	41
153.	人の意見を度々馬鹿らしいと思う事がある	18
60.	度々ゆううつになる	18
203.	世間の人は馬鹿ばかりだと思うことがある	17
206.	いつも他人が羨ましいと思う	17
23.	人のすることの裏を考えることが多い	16
40.	すぐふきげんになる	16

174.*	人から触れられたくない秘密がある	15
162.*	人が見ていないと大抵の人は怠けると思う	35
172.*	世の中の人は人の事などかまわないと思う	35
204.	すぐ感情を傷付けられやすい	14
236.	いつも自分は人から無視されていると思う	14
55.	いつも疲れた気持である	13
47.	いつも何か刺激を求める	12
106.	時々何に対しても興味がなくなる	12
138.	肺病その他の病気を人一倍こわがる	12
224.*	わざと除け者にされたことが度々ある	12
237.	侮辱された恨みはいつまでも忘れられない	12
212.	親友でもほんとうに信用する事はできない	29
152.	人から虐待された経験がある	26
192.*	スパイのような人が沢山いる	26

	Y 項 目	χ^2
89.	誰とでもよく話す	67
82.	人と広くつきあうのが好きである	45
52.	人に対してはいつも気楽に返事ができる	42
19.	いつもほがらかである	58
208.	人と一緒にいるのが気づまりである	35
2.	友達は選ばれた少数だけでよい	34
16.	度々元気がなくなる	32
17.	周囲の人とうまく調子を合せていく	32
32.	人が見ていると仕事ができない	31
119.	誰とでも平気でつきあう	50
140.	誰からも好かれる	30
228.	しばしば物思いに沈むことがある	30
238.	会話の最中にふと考えこむくせがある	30
60.	たびたびゆううつになる	29
240.	人中ではいつも後の方に引込んでいる	29
69.	新しいことにもすぐなれる	48
51.	新しい友達はなかなかできない	26
109.	気持があつさりしている	46
196.	人から邪魔にされはしまいかと心配である	25
230.	いんきである	25
9.	多勢と一緒にいるのが好きである	45
139.	いつもはりきつて新しい仕事にとりかかる	24
92.	こちらから進んで友達を作ることが少ない	21
118.	陽気に仲間と時をすごすのが好きである	21
49.	いきいきしている	40

	Y′ 項 目	χ^2
60.	たびたびゆううつになる	77
86.	生きるのが嫌なほどゆううつな時がある	52
16.	度々元気がなくなる	48
208.	人と一緒にいるのが気づまりである	48
166.	失敗しやしないかといつも心配である	45
228.	しばしば物思いに沈むことがある	45
72.	人前に出るのが恥かしい	44
55.	いつも疲れた気持である	41
204.	すぐ感情を傷つけられやすい	40
100.	些細なことを気にやむ	58
156.	劣等感（人に劣る感じ）に悩まされる	37
176.	何かにつけて自信がない	37
96.	度々過去の失敗をくよくよと考える	35
26.	わけもなく自分がみじめだと思う事がある	34
134.	何もかも旨く行かないと思う日が時々ある	34
5.	度々後悔で胸が一杯になることがある	32
240.	人中ではいつも後の方に引込んでいる	32
45.	大体いつも機嫌がよい	30
210.	神経質である	30
40.	すぐふきげんになる	46
110.	ぼんやり考えこむくせがある	45
90.	はにかみやである	42
120.	いつも自分はだめだと思う	41
10.	心配性である	38
50.	気むずかしい	38

5. YG 検査第二型式の作製。 第二型式の作製は次ぎのようにして行われた。第一型式では或る一つの特性について χ^2 の値の大きい項目を重複に拘わらず25問ずつ集めたのであつたが、第二型式では多くの特性に対して有意差を示す項目が相当多数あることに着目し、この有意性の配分に何らかの型を見出すことができまいかという考え方を指導原理として、項目の分類が試みられた。この場合は勿論出来れば項目の重複を避くべきであると考えられる。分類の手段としては第16表に示された χ^2 の価が利用されたのであるが、それらを試行錯誤的に色々と組合わせ、主として12項目を一群として、それらに対する各被験者の綜合得點を算出し、それを基礎として、これらの項目群が内的整合性を示すか否かを χ^2 検定によつて見出そうとしたのである。この仕事は非常に面倒な仕事であつたが、それによつて我々は S, D, C, G, A, I, N 及び R の8特性については完全に自己矛盾のない各

12項目から成る特徴項目群を構成することに成功した。又 T 特性では3項目が5％レヴェルであるが、やはり全部が有意差を示している。これに反して M, O, Ag, Co の4特性については満足な結果がえられなかつたことを告白せざるをえない。しかしこれらの特性についても第16表が示す価に準拠して各12項目ずつの集群が作られた。これらの集群はそれ自身の GP 分析によつては必ずしも充分に整合的ではなかつたが、しかし第16表においては夫々の特性について有意差を示したものであるので、その限りにおいて決して無意味なものということはできない。なお本型式においては第一型式で問題とされた CR 及び Y, Y′ の3項目は一応取扱わないことにした。そこでこの型式は結局 Guilford の Inventory と同じような13特性から構成されることになつた。これらの特性に割当てられた項目分類表を次ぎに掲げることにしよう。右端に示された数値は各群別に GP 群を構成して分析された各項目に対する χ^2 の価である。なおゴチク活字で印刷した項目は1％レヴェル以上で有意な項目、初めの数文字をゴチク活字にしたものは5％レヴェルで有意な項目を意味する。

YG 検査第二型式の尺度項目

（*印は第一型式と一致する項目）

S 項目	χ^2
89.* 誰とでもよく話す	82.8
82.* 人と広くつきあうのが好きである	77.4
119.* 誰とでも平気でつきあう	67.2
51.* 新しい友達は仲々できない	65.6
92.* こちらから進んで友達を作ることが少ない	57.8
31. 色々な人と知合になるのが樂しみである	53.3
20. 無口である	50.4
62.* 人中ではだまつている	50.4
101. 異性（男なら女）の友達は殆んどできない	47.6
71.* 人目に立つようなことは好まない	44.9
21.* 知らぬ人と話すときは固くなる	38.4
79.* 人中に出てもまごつかない	30.2

T 項目	χ^2
83.* 何でもよく考えてみないと気がすまない	69.4
43.* 深く物事を考える傾向がある	49.0
3.* 度々考えこむくせがある	46.2
78.* 実行する前に考えなおしてみることが多い	39.7
238.* 会話の最中にふと考えこむくせがある	34.8
218.* 一人きりでいたいと思うことが時々ある	25.0
63.* むずかしい問題を考えるのが好きである	22.1
23.* 人のすることの裏を考えることが多い	21.2
208. 人と一緒にいるのが気づまりである	21.2
37.* 用心深いたちである	18.5
4. のんきなたちである	16.8
14. こまかいめんどうな仕事が好きである	16.0

D 項目	χ^2
16.* 度々元気がなくなる	86.5
228.* しばしば物思いに沈むことがある	75.7
60.* 度々ゆううつになる	81.0
96.* 度々過去の失敗をくよくよと考える	56.3
110. ぼんやり考えこむくせがある	53.3
15.* 人中にいてもふと淋しくなることがある	49.0
109. 気持があつさりしている	49.0
106.* 時々何に對しても興味がなくなる	47.6
56.* 時々自分をつまらぬ人間だと思う事がある	47.6
55.* いつも疲れた気持である	41.0
187. 理由もなく不安になることが時々ある	34.8
230.* いんきである	31.4

C（E）項目	χ^2
227.* 気分がしばしば動揺する	74.0
200.* こうふんしやすい	50.4
48.* 気が変りやすい	50.4
5. 度々後悔で胸が一杯になることがある	50.4
58. 仕事に変化がないとすぐいやになる	49.0
85.* 感情的である	49.0
36. 早く決心すればよかつたと悔むことが多い	49.0
40.* すぐ不機嫌になる	44.9
137. 一寸したことでひどく驚くことがある	42.2
75.* 気持を顔にあらわしやすい	39.7
95.* 時々気が散つて考えがまとまらない	36.0
186.* 興奮するとじき涙が出る	30.2

（E）は emotional unstable

R 項目	χ^2
27.* 人と一緒にはしやぐことが多い	60.8
84.* 気がるなたちである	50.4

167.*	じつとおとなしくしているのが苦手である	44.9
47.	いつも何か刺激を求める	44.9
68.*	早合點の傾向がある	43.6
191.*	口數が多い方である	42.2
8.	よく考えずに行動してしまうことが多い	33.6
9.*	多勢と一緒にいるのが好きである	31.4
149.	人の世話が好きである	27.0
104.*	お祭さわぎが好きである	25.0
117.	計画を立てるより早く実行がしたい	23.0
18.	色々ちがう仕事がしてみたい	23.0
	G 項 目	χ^2
22.	活潑でない	67.2
19.*	いつもほがらかである	64.0
141.*	動作はきびきびしている	62.4
49.*	いきいきしている	62.4
121.*	てきぱきと物事を片付ける	50.4
161.*	仕事は人よりずつと速い方である	50.4
52.*	人に對してはいつも気樂に返事ができる	47.6
45.	大体いつも機嫌がよい	44.9
69.*	新しい事にもすぐなれる	36.0
17.*	周囲の人とうまく調子を合わせていく	36.0
211.*	短い時間に澤山の仕事をする自信がある	34.8
66.*	困ることがあつてもほがらかでいられる	33.6
	A (L) 項 目	χ^2
90.*	はにかみやである	81.0
72.*	人前に出るのが恥かしい	72.3
240.*	人中ではいつも後の方に引込んでいる	67.2
30.	引込みじあんである	64.0
41.*	人前で話すのは気が引ける	60.8
12.*	目上の人の前に出ると固くなる	57.8
61.*	世話役はいつも人に頼むことにしている	54.8
91.*	自分で話すより人の話を聞く方である	44.9
11.*	会などの時はいつも人の先に立つて働く	41.0
67.*	思つたことは遠慮なくいう方である	41.0
97.*	会やグループの爲に働くのが樂しみである	39.7
170.	人のあつかいがうまい	33.6

(L) は social leadership

	M 項 目 (ゴチク番号は男性的)	χ^2
26.*	わけもなく自分がみじめだと思う事がある	60.8
86.*	生きるのがいやなほどゆううつな時がある	38.4
134.*	何もかも旨く行かないと思う日が時々ある	29.2
111.*	世間から離れて一人で生活がしたい	25.0
212.*	親友でもほんとうに信用する事はできない	21.2
118.*	陽気に仲間と時をすごすのが好きである	19.4
120.*	いつも自分はだめだと思う	13.0
198.*	馬鹿正直である	11.0
127.*	人中でお化粧する人はいやである	8.4
199.*	大切な決心をする時も余り人に相談しない	2.6
181.*	いつも時間より早く出かけていく	2.3
194.*	いつも自分を他人と比較する傾向がある	1.2
	I 項 目	χ^2
166.*	失敗しやしないかといつも心配である	68.9
157.*	競技などのとき固くなる	59.3
196.	人から邪魔にされはしまいかと心配である	56.3
156.*	劣等感(人に劣る感じ)に悩まされる	54.8
176.	何かにつけて自信がない	51.8
112.*	人前で赤面するので困ることが多い	49.0
225.*	人とちがうことは恥かしくてできない	46.2
42.	異性(男なら女)の前では人一倍恥しがる	43.6
216.	仲々決心がつかず機会を失うことが多い	41.0
195.*	困難にぶつかると気がくじける	39.7
124.	じきうろたえるたちである	39.7
150.	余り迷わずに決心がつく	33.6
	N 項 目	χ^2
177.*	一寸したことが仕事の邪魔になる	86.5
100.	些細なことを気にやむ	75.7
204.	すぐ感情を傷付けられやすい	65.6
210.*	神經質である	56.2
10.	心配性である	53.3
136.	人からいつも見られている様で不安である	46.2
73.	人の品行(行い)が気になるたちである	43.6
189.	人が来てうるさいと思うことが度々ある	43.6
32.	人が見ていると仕事ができない	34.8
214.*	色々な事が皆自分に關係がある様に思える	32.5
7.	人の批評は余り気にしない	27.0
50.	気むずかしい	27.0
	O (P) 項 目	χ^2
38.	とてもありそうもないことを空想する	56.3
147.	度々ねつかれないで困ることがある	49.0
65.	時々ボカンとしていることがある	38.4
159.	空想にふけるのが樂しみである	33.6
105.*	頭がよくなつたり悪くなつたり定まらない	29.2
164.*	時々誰かに打明け話がしたい	25.0
25.	いやな人と道で出会うと避けて通る	24.0
178.	困難な状況では汗が出て来て困る	21.2
35.	坐つていても気分が落付かない	16.8
152.	人から虐待された経験がある	16.8
76.	心配でねむられぬことが度々ある	15.2
46.	わけもなく喜んだり悲しんだりする	13.7

(P) は phantastic

Ag (A) 項 目	χ^2	Co (F) 項 目	χ^2
213. * 失礼なことをされるとだまつていない	40.3	226. もつとちがう境遇に生れたかつたと思う	43.6
102. * 色々な世間の活動がしてみたい	34.8	222. * 人は私を充分に認めてくれない	37.2
223. * 不正なことはだまつていられない	32.5	70. 不満が多い	37.2
190. * 気が短い	29.2	202. * 人は結局利慾のために働くのだと思う	30.2
129. * いつも何かしていないと気がすまない	28.1	162. * 人が見ていないと大抵の人は怠けると思う	27.0
28. * 衝動的である(自分がおさえられない)	26.0	192. * スパイのような人が澤山いる	25.0
108. * 退屈した時は何か強い刺激を求める	26.0	174. * 人から觸れられたくない秘密がある	25.0
146. * 軽蔑されたと思うとひどく腹が立つ	23.0	182. 世の中は不公平なことに満ちていると思う	24.0
133. * 平凡に暮すより何か変つたことがしたい	16.0	229. 度々人の気持を確かめてみたい	22.1
155. * 正しいと思うことは人にかまわず実行する	16.0	144. 人の親切には下心がありそうで不安である	18.5
237. * 侮辱された恨みはいつまでも忘れられない	15.2	172. * 世の中の人は人の事などかまわないと思う	17.6
235. * 目上の人とも遠慮なく議論することがある	2.56	224. * わざと除け者にされた事が度々ある	11.2
(A) は aggressive		(F) は frustrated	

これらの各特性項目12問ずつに対して、YG 豫備検査おいて京大生 A Group の200名が示した得點の度数分布は**第19表**に掲げた通りである。

Table 19　YG-II の 度 数 分 布

(予備検査の A Group 200名による)

得点	S	T	D	C	R	G	A	M	I	N	O	Ag	Co
23—	11	1	16	4	1	9	3	0	4	5	0	0	1
21—22	19	3	12	9	3	12	9	0	11	11	3	8	2
19—20	16	5	13	15	9	23	13	2	9	21	3	11	6
17—18	19	6	23	17	13	21	17	0	16	11	10	21	8
15—16	16	18	15	21	25	23	10	11	21	18	14	33	10
13—14	13	24	18	15	18	15	14	17	17	29	22	31	25
11—12	22	18	10	24	28	16	13	25	19	21	35	28	26
9—10	17	31	18	26	25	22	13	41	19	15	27	22	35
7—8	13	34	16	22	26	18	25	49	18	13	27	23	29
5—6	12	27	20	19	23	16	17	27	18	24	28	15	18
3—4	18	23	13	8	16	10	24	19	19	16	19	7	34
1—2	15	9	16	15	10	8	24	8	21	9	11	1	2
0	9	1	10	5	3	7	24	1	8	7	1	0	4
SD	7.11	4.84	7.33	6.04	5.34	6.46	6.90	3.96	6.49	6.33	4.70	4.62	4.80
Q_1	5.8	5.8	5.6	6.7	6.3	7.5	2.7	6.1	4.7	6.0	5.9	8.9	5.6
M	12.0	9.5	11.8	11.2	10.4	12.5	8.5	8.5	10.3	11.5	9.5	12.5	9.4
Q_3	18.1	13.1	17.7	16.0	14.6	17.9	14.9	10.9	15.6	16.3	12.7	15.9	12.7

6. **諸尺度相互間の関係。** 我々は今まで三種類の尺度を取扱つた。一つは YG 豫備検査を構成するにあたつて Guilford その他の諸検査から採用した暫定的尺度で（101頁以下参照）、19（M を加えて）の特性に各12項目を選定したものである。これが我々の研究の出発點となつたのである。この尺度については特性間の相関係数は算出しなかつたが、**第17表**に示したように有意項目の一致度数表が作製してある。これを見ると各特性間の一致度は一般的に極めて高いものであることがわかる。

第二には YG 検査第一型式の尺度であつて（121頁以下参照）、これは第16表に示した項目分析表中カイ二乗の値の高いもののみ25項目ずつ（重複がある）を16特性に対して選定したものである。従つてこの尺度は一応出発點尺度を純粋化したものと考えることができるであろう。その各特性間の相関表は**第20表の左下半分**に示してある。

第三には YG 検査第二型式の尺度であつて（126頁以下参照）、これも第16表に示した項目分析表中カイ二乗の値の高いものから選定されたのではあるが、この場合には各特性を代表する項目間に重複の起るのをさけることにしたから、項目数は12、特性数も13に限定された。項目の重複をさけたことは一応我々の目標の一つであつた特性の独立性を高めたと考えられるが、一方第一型式に用いたよりも小さいカイ二乗の値を示す項目をも採用することになり、内的整合性を低めるおそれがあると考え

Table 20　YG 検査の相関 Matrix

（右上第二型式、左下第一型式）

	S	T	D	C	R	CR	G	A	M	I	N	O	Ag	Co	Y	Y′	YK	再
S		23	41	22	-47		-64	-73	-28	41	35	18	-19	22	-78	51	-67	66
T	46		39	08	-42		-29	-15	-27	14	35	20	05	23	-44	44	-35	-33
D	52	84		58	-22		-57	-37	-60	62	70	61	-03	47	-74	90	-73	-63
C	41	72	88		19		-27	-19	-39	56	61	56	26	44	-42	65	-47	-53
R	-77	-53	-45	-25			50	39	11	-03	-17	-13	-38	-13	44	-19	39	43
CR	10	19	45	64	24													
G	-85	-51	-57	-41	82	-01		68	38	-45	-38	-42	26	-19	80	-60	75	71
A	-90	-37	-47	-35	69	-09	81		26	-55	-39	-23	-33	-22	62	-51	58	58
M	-54	-67	-81	-78	44	-32	54	49		-46	-48	-45	08	-37	48	-63	48	46
I	81	62	77	70	-57	42	-71	-41	-69		64	49	-16	43	-56	73	-56	-62
N	55	73	84	83	-41	50	-50	-49	-75	74		50	04	51	-56	80	-60	-61
O	38	75	89	90	-25	55	-41	-34	-77	68	83		13	44	-42	62	-41	-36
Ag	-07	33	35	49	20	64	17	18	-23	24	41	45		19	13	-02	-08	-19
Co	41	64	80	80	-27	51	-38	-34	-67	72	75	78	53		-39	50	-39	-40
Y	-80	-70	-73	-58	81	-14	83	70	67	-75	-68	-55	-11	-58		-78	83	
Y′	61	81	95	86	-52	42	-64	-56	-81	83	85	87	33	80	-78		-79	
YK	-70	-65	-72	-57	69	-22	76	69	64	-72	-66	-60	-12	-59	85	-78		

られた。そこでこの場合には新しく選ばれた項目群を基準として一々 GP 分析を施行し、かかる操作を試行錯誤的にしばしば反復することによつて、上述の如き内的整合度の高いグループを選定することができた。従つて第二型式の尺度は特性の独立性においても、亦尺度の内的整合性の點においても、何れも高い水準を有するものと考えられる。この尺度の特性相互間の相関表は**第20表の右上半分**に示してある。

但しこの右上半の表中 Y 及び Y′ の項に記入された値は YG 予備検査の出発点尺度の Y 及びY′ 得点と第二型式の各特性の得点との間の相関係数である。又第二型式では CR の値は計算してない。

第20表の周辺に掲げた値は第一部に述べた YK 向性検査第二型式の綜合得点と YG 第一及び第二の各特性との相関である。**最下欄**は YK-II の綜合得点と、YG 第一型式の各25項目を YK-II と同じ施行日に行つた YG 予備検査から抽出して採点したものとの相関、**最右欄から2行目**は同じく YK-II の綜合得点と、YG 予備検査から抽出された YG 第二型式の各 12 項目ずつの得点との相関である。**最右欄**の数値はこの同じ YK-II の綜合得点と、五ヶ月後に行われた YG 第二型式の新型検査（後述）における各特性に関する得点との相関である。

さてこの表で直ちに気づかれることは、左下の第一型式に対する相関値が、右上の第二型式の相関値に対して著しく高いということである。しかしこれは主として第一型式の尺度項目には多くの重複があるということの結果にすぎない。（因みに Guilford の検査得点から算出されたアメリカの Lovell の相関表の値は第26表に示してあるが、それは上の両者の中間に位する。）この重複のために高くなつたと考えられる点を除外して考えると、二つの相関表は極めて類似せるものであることがわかる。例外ともいうべきはおそらくT特性の値が第二型式において他の感情特性に関して著しく後退している点位のものであろう。

この二つの相関表の類似は表の周辺に示した YK との相関値にも現われる。同じ YK の得点と第一型式及び第二型式の各特性との間の相関値は、前者が一般に高い水準にあるということを除いては、極めて類似している。この場合にも例外は T 特性に（おそらく R 特性にも）認められる。

さらにこの二つの型式の類似は次ぎに述べる第21表の相関によつても明らかにされるであろう。

Table 21　三つの尺度間の相関

（YG予備検査の資料による）

	S	T	D	C	R	CR	G	A	M	I	N	O	Ag	Co
r_{I-II}	90	75	92	84	77		89	92	84	79	72	68	75	79
common items	(9)	(9)	(9)	(9)	(7)		(10)	(10)	(12)	(6)	(3)	(2)	(12)	(7)
r_{orig-I}	89	70	81	75	77	89	73	79		75	79	80	64	63
Common items	(5)	(5)	(3)	(5)	(1)	(8)	(5)	(6)		(3)	(5)	(6)	(5)	(7)
$r_{orig-II}$	87	77	79	70	79		70	68		81	71	64	63	75
Common items	(5)	(5)	(2)	(3)	(3)		(4)	(0)		(5)	(1)	(1)	(3)	(6)

第21表は同じ YG 予備検査の資料（京大生 A Group 200 名）を用い、上に述べた三つの尺度間の相関を求めたものである。上が YG 第一型式と第二型式、中が出発点尺度と第一型式、下が出発点尺度と第二型式との相関で、 Common items というのは両尺度項目の間に存する共通項目数である。一特性を代表する尺度項目数は上にも述べたように、出発点尺度と第二型式とは何れも12項目ずつであり、第一型式のみは25項目ずつであつた。

これらの値のうちにはその絶対値においては必ずしも大きくないものを含んでいるが、その相対的関係においては、少数の例外を除き極めてよく一致している。これは三つの尺度が可成り類似せる特徴を測定していると考えることを許すものであろう。絶対値が大きくないのはこの種の inventory の限界を示すものとも考えられる。特に O, Ag, Co 等に可成り小さい値が見出されるが、この三者は Guilford-Martin の使用人採用検査から選ばれたものであつて、性格特性というよりはむしろ社会的態度の如きものを表わし、従つて他の特性に比べてより不安定であることを免れないためではなかろうか。

7. YG 検査第二型式の実施。 このように三つの尺度が可成りの程度に一致するものであるならば、実用的には最も純粋化されたと考えられる第二型式を使用するのが当然である。そこでこの型式の尺度項目を、採点その他の視点から最も便利なように配列することにした。その配列の仕方は次ぎのようである。即ちそれは大体予備検査の構成と同様であつて、先ず1番から 120 番に至る1のつく番号に S 項目、2のつく番号に T 項目というように並べ、121 番以下は 1, 2, 3 のつく番号に O 項目、4, 5, 6 のつく番号に Ag 項目、7, 8, 9 のつく番号に Co 項目を配当した。第二型式の 13 特性はこれらの 156 問で完全に測定されるわけであるが、参考のために Y 及び Y′ 特性をも同時に採点しうるように、項目は重複するが、次ぎの各25問ずつをそれらの代表項目と定めた。即ち Y 特性に対しては 1, 11, 21, 31, 41, 51, 111, 3, 13, 23, 33, 43, 6, 16, 26, 36, 46, 7, 17, 27, 37, 47, 130, 140, 150 を、Y′ 特性に対しては 81, 3, 13, 23, 33, 43, 93, 34, 76, 8, 18, 28, 38, 48, 68, 9, 19, 29, 39, 49, 10, 20, 30, 40, 50 を共同使用することにしたのである。

被験者には例の通り1項目約6秒の速度で読み聞かせ、別に用意した answer sheet に○×（ ）の印を記入させる。採点は○に2点、（ ）に1点を与えて特徴別に集計する。但し S 項目中の 1, 11, 21, 51, 111, T 項目中の 2, 12, 22, 32, 42, 52, 62, 72, 82, 92, 112, D 項目中の 63, G 項目中の 6, A 項目中の 87, 97, 107, 117, M 項目中の 58, 98, 108, 118, I 項目中の 119, N 項目中の 110 の 28項目は逆に×印に2点を与えることにした。

項目の配列は**第22表**、答案用紙の型式は**第23表**の通りである。答案用紙中数字をアンチク字体にしたものは×の方に得点を与える項目、* 印は Y 項目、′ は Y′項目を意味する。右側の NR (normal range) というのは表示の得点に該当するものが、被験者の2分の1以上あることを示す大体の数値である。なお 160 番は採点しない。

Table 22　Y-G 自己診断表

型　式　Ⅱ

1 誰とでもよく話す
2 何でもよく考えてみないと気がすまない
3 度々元気がなくなる
4 気分がしばしば動揺する
5 人といつしよにはしやぐことが多い
6 活潑でない
7 はにかみやである
8 わけもなく自分がみじめだと思う事がある
9 失敗しやしないかといつも心配である
10 一寸したことが仕事の邪魔になる
11 人と広くつきあうのが好きである
12 深く物事を考える傾向がある
13 度々物思いに沈むことがある
14 こうふんしやすい
15 気がるなたちである
16 いつもほがらかである
17 人前に出るのが恥かしい
18 生きるのがいやなほどゆううつな時がある
19 競技などのとき固くなる
20 些細なことを気にやむ
21 誰とでも平気でつきあう
22 度々考えこむくせがある
23 度々ゆううつになる
24 気が変りやすい
25 じつとおとなしくしているのが苦手である
26 動作はきびきびしている
27 人中ではいつも後の方に引込んでいる
28 何もかも旨く行かないと思う日が時々ある
29 人から邪魔にされはしまいかと心配である
30 すぐ感情を傷つけられやすい
31 新しい友達は仲々できない
32 実行する前に考えなおしてみることが多い
33 度々過去の失敗をくよくよと考える
34 度々後悔で胸が一杯になることがある
35 いつも何か刺激を求める
36 いきいきしている
37 引込みじあんである
38 世間から離れて一人で生活がしたい
39 劣等感（人に劣る感じ）に悩まされる
40 神経質である
41 こちらから進んで友達を作ることが少ない
42 会話の最中にふと考えこむくせがある
43 ぼんやり考えこむくせがある
44 仕事に変化がないとすぐいやになる
45 早合点の傾向がある
46 てきぱきと物事を片付ける
47 人前で話すのは気が引ける
48 親友でもほんとうに信用する事はできない
49 何かにつけて自信がない
50 心配性である
51 色々な人と知合になるのが楽しみである
52 一人きりでいたいと思うことが時々ある
53 人中にいてもふと淋しくなることがある
54 感情的である
55 口数が多い方である
56 仕事は人よりずつと速い方である
57 目上の人の前に出ると固くなる
58 陽気に仲間と時をすごすのが好きである
59 人前で赤面するので困ることが多い
60 人から見られているようで不安である
61 無口である
62 むずかしい問題を考えるのが好きである
63 気持があつさりしている
64 早く決心すればよかつたと悔むことが多い
65 よく考えずに行動してしまうことが多い
66 人に対してはいつも気楽に返事ができる
67 世話役はいつも人に頼むことにしている
68 いつも自分はだめだと思う
69 人とちがうことは恥かしくてできない
70 人の品行(行い)が気になるたちである
71 人中ではだまつている
72 人のすることの裏を考えることが多い
73 時々何に対しても興味がなくなる
74 すぐ不機嫌になる
75 多勢と一緒にいるのが好きである
76 大体いつも機嫌がよい
77 自分で話すより人の話を聞く方である
78 自分は馬鹿正直である
79 異性(男なら女)の前では人一倍恥しがる
80 人が来てうるさいと思うことが度々ある
81 異性（男なら女）の友達は殆んどできない
82 人と一緒にいるのが気づまりである
83 時々自分をつまらぬ人間だと思う事がある
84 一寸したことでひどく驚くことがある

85 人の世話が好きである
86 新しい事にもすぐなれる
87 会などのときは人の先に立つて働く
88 人中でお化粧をする人はいやである
89 仲々決心がつかず機会を失うことが多い
90 人が見ていると仕事ができない
91 人目に立つようなことは好まない
92 用心深いたちである
93 いつも疲れた気持である
94 気持を顔にあらわしやすい
95 お祭さわぎが好きである
96 周囲の人とうまく調子を合わせていく
97 思つたことは遠慮なくいう方である
98 いつも自分を他人と比較する傾向がある
99 困難にぶつかると気がくじける
100 色々な事が皆自分に関係がある様に思える
101 知らぬ人と話すときは固くなる
102 のんきなたちである
103 理由もなく不安になることが時々ある
104 時々気が散つて考えがまとまらない
105 計画を立てるより早く実行がしたい
106 短い時間に沢山の仕事をする自信がある
107 会やグループの為に働くのが楽しみである
108 大切な決心をする時も余り人に相談しない
109 じきうろたえるたちである
110 人の批評は余り気にしない
111 人中に出てもまごつかない
112 こまかいめんどうな仕事が好きである
113 いんきである
114 興奮するとじき涙が出る
115 色々ちがう仕事がしてみたい
116 困ることがあつてもほがらかでいられる
117 人のあつかいがうまい
118 いつも時間より早く出かけていく
119 余り迷わずに決心がつく
120 気むずかしい
121 とてもありそうもないことを空想する
122 度々ねつかれないで困ることがある
123 時々ボカンとしていることがある
124 失礼なことをされるとだまつていない
125 色々な世間の活動がしてみたい
126 不正なことはだまつていられない
127 もつとちがう境遇に生れたかつたと思う
128 人は私を充分認めてくれない
129 不満が多い
130 友達はえらばれた少数だけでよい
131 空想にふけるのが楽しみである
132 頭がよくなつたり悪くなつたり定まらない
133 時々誰かに打明け話がしたい
134 気が短い
135 いつもなにかしていないと気がすまない
136 衝動的である（自分がおさえられない）
137 人は結局利慾のために働くのだと思う
138 人がみていないと大抵の人は怠けると思う
139 スパイのような人が沢山いる
140 誰からも好かれる
141 いやな人と道で出会うと避けて通る
142 困難な状況では汗が出て来て困る
143 坐つていても気分が落付かない
144 退屈したときは何か強い刺激がほしい
145 軽蔑されたと思うとひどく腹が立つ
146 平凡に暮すより何か変つたことがしたい
147 世の中は不公平なことに満ちていると思う
148 度々人の気持を確かめてみたい
149 人から触れられたくない秘密がある
150 いつもはりきつて新しい仕事にとりかかる
151 人から虐待された経験がある
152 心配でねむれぬことが度々ある
153 わけもなく喜んだり悲しんだりする
154 正しいと思うことは人にかまわず実行する
155 侮辱された恨みはいつまでも忘れられない
156 目上の人とも遠慮なく議論することがある
157 世の中の人は人の事などかまわないと思う
158 人の親切には下心がありそうで不安である
159 わざと除け者にされたことが度々ある
160 あまりじようだんをいわない方である

尺度名の変更について。 これまで我々は尺度の名称を Guilford に従つて S T D C R 等と呼んで来た。しかし我々の尺度は種々なる操作の過程を経て Guilford の名称とは必ずしも一致しない側面を露呈するに至つた。これは Guilford の分析の不備による点もあり、又我々の操作の方に欠点があつたかも知れない。とにかく数個の名称は変更する方が適当であると考えられるようになつた。

1. 先ず第一に **C 項目**の名称は循環性（**cyclothymia**）というよりは、感情不安定性（emotional

Table 23 Answer Sheet for YG-II NR

*1	*11	*21	*31	*41	*51	61	71	/81	91	101	*111	S		121	131	141	151	P	(O)	S		5～17
																				T		5～12
2	12	22	32	42	52	62	72	82	92	102	112	T		122	132	142	152			D		6～17
*/3	*/13	*/23	*/33	*/43	53	63	73	83	/93	103	113	D		123	133	143	153			E		7～15
																				R		7～14
4	14	24	/34	44	54	64	74	84	94	104	114	E	(C)	124	134	144	154	A	(Ag)	G		8～18
																				L		4～15
5	15	25	35	45	55	65	75	85	95	105	115	R		125	135	145	155			M		5～10
*6	*16	*26	*36	*46	56	66	/76	86	96	106	116	G		126	136	146	156			I		5～15
																				N		6～17
*7	*17	*27	*37	*47	57	67	77	87	97	107	117	L	(A)	127	137	147	157	F	(Co)	P		6～13
																				A		9～16
/8	/18	/28	/38	/48	58	/68	78	88	98	108	118	M		128	138	148	158			F		6～12
/9	/19	/29	/39	/49	59	69	79	89	99	109	119	I		129	139	149	159			*Y		
/10	/20	/30	/40	/50	60	70	80	90	100	110	120	N		*130	*140	*150	160			/Y		

unstable）という方が適当と思われるので、 **E** と符号化したい。

2. 第二に **A 項目**は支配性（ascendance）というよりは、指導性（social leadership）という方が適当のようである。従つてこれは **L** と符号化する。

3. 第三に **O 項目**は特に意識的に主観性を意味する項目を集める努力をしたにも拘わらず、それらは殆んどすべて操作中に脱落して、残つたものは肉体的な意味での神経質症状のようなものを主とするものとなつた。神経質項目は別にあるので、最も負荷量の大きい項目の特性を取つて暫定的にではあるが、空想性（phantastic）と名づけようと思う。符号は **P**。

4. 第四に **Ag 項目**は愛想のよさ（agreeableness）というよりも、攻撃性（aggressive）という方が適当であろう。符号は **A**。

5. 第五に **Co 項目**は協調性（cooperativeness）というよりも、不満性（frustrated）という方がよろしい。符号は **F**。

勿論本論文では混乱を避けるためになるべく旧符号を用いていくが、必要な場合には新符号を括孤内に入れて並記することにしよう。

さてこの YG 検査の第二型式は先きに YG 予備検査に参加した京大学生の A Group に属する150名に施行された。その得点の度数分布を彼らが YG 予備検査において同じ項目に反応した得点の分布と共に表示すると**第24表**の通りである。両検査における各特性間の相関は表中の最下欄に示してあるが、両検査の施行間隔が5ヶ月であること、及びその項目配置が可成りちがつていることを考慮に入れると、この数値は相当高いものということができるであろう。

次ぎにこの YG 第二型式は奈良少年鑑別所の非行少年133名（受刑中の者96名鑑別中の者37名）に施行された。年齢は大学生と同じ20才前後である。その得点の度数分布は**第25表 a** の通りであつて、これを京大生の度数分布と比較し、 t テストにかけると**第25表 b** のような価がえられた。

Table 24　YG-II の度数分布（再検査）

（アンチク体は予備検査中における同一項目に対する得点の度数，被験者は京大生150名）

得点	S	T	D	C	R	G	A	M	I	N	O	Ag	Co
23—	5 (6)	1 (1)	8 (13)	3 (2)	2 (0)	8 (6)	3 (2)	0 (0)	3 (3)	7 (4)	1 (0)	3 (0)	0 (1)
21—22	8 (14)	3 (2)	7 (7)	7 (5)	3 (2)	13 (9)	6 (7)	1 (0)	9 (9)	13 (10)	1 (2)	6 (7)	0 (1)
19—20	10 (15)	1 (5)	15 (10)	5 (13)	9 (7)	17 (11)	8 (9)	0 (0)	7 (6)	9 (13)	3 (2)	12 (9)	5 (4)
17—18	15 (16)	4 (5)	9 (16)	14 (13)	7 (8)	12 (18)	10 (7)	4 (0)	8 (9)	16 (11)	7 (7)	16 (16)	7 (8)
15—16	12 (14)	15 (10)	11 (12)	21 (17)	13 (18)	13 (21)	18 (8)	6 (8)	15 (17)	19 (15)	19 (11)	22 (23)	13 (7)
13—14	18 (10)	7 (20)	24 (14)	16 (12)	25 (10)	11 (10)	16 (11)	8 (13)	12 (14)	9 (17)	17 (18)	24 (25)	15 (18)
11—12	14 (18)	19 (12)	8 (7)	14 (18)	17 (24)	23 (11)	14 (11)	13 (19)	9 (15)	15 (10)	20 (23)	19 (15)	26 (21)
9—10	20 (12)	19 (21)	14 (12)	18 (15)	16 (20)	10 (18)	13 (9)	26 (25)	15 (10)	14 (13)	14 (21)	20 (18)	27 (25)
7—8	5 (12)	28 (27)	14 (12)	13 (17)	18 (21)	14 (14)	8 (21)	30 (38)	16 (14)	8 (11)	20 (21)	19 (18)	19 (20)
5—6	8 (7)	22 (22)	11 (14)	14 (14)	18 (18)	7 (11)	16 (13)	39 (24)	19 (14)	12 (21)	21 (17)	4 (12)	14 (17)
3—4	13 (9)	20 (18)	9 (11)	14 (8)	12 (11)	8 (9)	14 (19)	17 (18)	16 (14)	12 (12)	12 (16)	5 (7)	16 (22)
1—2	12 (12)	8 (6)	15 (13)	9 (12)	6 (8)	8 (6)	14 (18)	6 (4)	13 (18)	13 (8)	8 (11)	0 (0)	4 (3)
0	10 (5)	3 (1)	5 (9)	2 (4)	4 (3)	6 (6)	10 (15)	0 (1)	8 (7)	3 (5)	7 (1)	0 (0)	4 (3)
SD	6.76 (6.80)	4.90 (4.92)	6.78 (7.46)	5.88 (6.06)	5.50 (5.12)	6.68 (6.40)	6.58 (6.72)	4.00 (3.56)	6.46 (6.60)	6.76 (6.52)	5.26 (4.80)	4.66 (4.78)	4.70 (4.84)
Q_1	5.3 (7.5)	5.1 (5.7)	6.1 (5.2)	6.4 (6.5)	6.3 (6.3)	7.8 (7.4)	4.5 (3.0)	5.2 (5.8)	4.6 (4.4)	6.2 (5.7)	5.5 (5.7)	9.1 (8.6)	6.5 (5.7)
M	11.1 (12.4)	8.7 (9.4)	11.5 (11.5)	11.2 (11.1)	10.5 (10.0)	12.7 (12.2)	10.2 (8.6)	8.0 (8.3)	9.8 (10.1)	12.0 (11.4)	9.5 (9.4)	13.1 (12.5)	9.7 (9.4)
Q_3	16.5 (18.1)	11.8 (13.0)	16.7 (17.5)	15.6 (15.9)	14.2 (13.9)	18.5 (17.2)	15.4 (13.6)	10.1 (10.7)	15.0 (15.2)	17.4 (16.5)	13.7 (12.7)	16.4 (16.0)	12.8 (12.6)
r_{12}	.67	.56	.77	.72	.74	.82	.75	.55	.74	.78	.66	.61	.58

Table 25 a 非行少年の YG-II

（奈良少年鑑別所 133名）

得点	S	T	D	C	R	G	A	M	I	N	O	Ag	Co
23—24	3	0	8	6	9	13	0	0	7	10	5	3	1
21—22	9	1	6	12	6	19	10	0	13	9	10	12	5
19—20	13	4	11	12	11	12	22	3	15	15	15	17	15
17—18	19	4	12	15	10	19	11	6	19	11	20	23	18
15—16	12	14	22	16	19	23	16	17	9	9	19	26	23
13—14	16	18	20	19	18	13	11	18	10	13	12	21	24
11—12	12	19	21	19	11	8	17	36	15	14	16	16	16
9—10	14	21	7	15	14	8	10	20	15	20	11	5	14
7—8	11	17	10	11	20	7	8	21	9	13	13	3	5
5—6	7	11	11	2	11	5	11	9	8	11	6	4	7
3—4	8	9	3	5	0	3	8	3	9	3	1	2	3
1—2	6	12	2	1	3	2	6	0	3	4	4	0	2
0	3	3	0	0	1	1	3	0	1	1	1	1	0
SD	6.12	4.98	5.42	5.16	5.62	5.68	6.18	3.54	6.16	6.10	5.50	4.46	4.62
Q_1	8.1	6.1	10.5	10.4	8.3	12.2	7.8	8.5	8.9	8.6	10.0	12.7	10.8
M	12.6	9.6	13.5	14.1	13.1	15.6	12.6	11.2	13.6	13.2	14.0	15.3	13.7
Q_3	17.7	13.4	17.2	18.1	17.1	20.3	18.3	13.7	18.8	18.6	18.2	18.4	17.2

Table 25 b 京大生と非行少年との比較

	S	T	D	C	R	G	A	M	I	N	O	Ag	Co
t	1.9	1.5	2.7**	4.4***	3.9***	3.9***	3.2**	7.1***	5.1***	1.6	7.0***	4.0***	7.2***

** 1% level, *** 0.1% level

本稿の目的は本検査の標準化を行おうとするのではなかつたから、未だ余り多くの資料を集めていない。しかしこの例が示すように可成り著しい差を示す集団が見出されるということは注目に価する事実であるように思われる。尤も京大生はおそらく決して同年輩の正常者の代表的集団ではないのであろう。従つて標準化の仕事は勿論今後に譲らなければならない。

Ⅲ　第二部の結び

第二部の目的は総括的な所謂向性検査の他に、或る程度まで特殊的な性格特性を測定しうるような自己診断検査を構成することであつた。特に Guilford の13特性を診断する三つの inventory から出発して、GP 分析による項目分析を行い特性数を19個に増加するという迂路を通つて、最後にはやはり13特性から成る inventory に到達した。しかしそれらの13特性は Guilford のそれと極めて密接な関係を有するものと思われる一方、又それらとは幾分ニュアンスを異にするが如きものであつた。

S 特性は「誰とでもよく話す」「人と広くつきあうのが好きである」等の項目によつて代表されるような**社交性**を表わすものと考えられる。Guilford が考えたような羞恥心や隠遁性の如きは余り前面に現われなかつた。

T 特性は「何でもよく考えて見ないと気がすまない」「深く物事を考える傾向がある」等の項目によつて代表される**思索性**とでも名づくべきもので、Guilford が liking for thinking と名づけた「むずかしい問題を考えるのが好きである」という性質や、intellectual leadership と名づけた「内省的である」「しばしば考えこむ」という性質とは可成りニュアンスを異にするものとなつた。これは Guilford の特性をそのまま尺度に用いると「しばしば物思いに沈む」とか「度々ゆううつになる」とかいう抑鬱性因子が余りにも大きな負荷を示すようになるので、我々の場合は特にこの種の因子を除外する努力が払われたためである。このことは先きに第二型式の T 特性において感情的諸特性との相関値が著しく後退したと説いた事実に対応するものなのである。

D 特性は「度々元気がなくなる」「しばしば物思いに沈むことがある」「度々ゆううつになる」等の項目によつて代表される**抑鬱性**であつて、これは Guilford の D 特性とよく一致するようである。

C 特性は「気分がしばしば動揺する」「こうふんしやすい」「気が変りやすい」等によつて代表される**感情不安定性**であり、Guilford のそれが「気分の動揺が激しい」「感情を傷けられやすい」「未来の不幸を心配する」「しばしば空想にふける」等かなり異質的なものの寄合世帯であり、従つて D, I, N, O 等の諸特性から区別し難かつたのに比して、我々の場合は可成りはつきりと分離された。名称は感情不安定性、従つて符号は **E** とするのが適当ではないかと考えられる。

R 特性は「人と一緒にはしやぐことが多い」「気がるなたちである」等によつて代表されるもので、Guilford の「**のんきさ**」(rhathymia) と恐らく同じ特性であると思われる。

YG 第一型式においては CR 特性を独立として取扱つたが、これは第二型式の C と R とを混合したようなものである。C の12項目中 7 項目、R の12項目中 7 項目が一致している。しかるに第一型式の C や R とは関連性が少なく、一致項目は前者に25項目中 7 項目、後者に 4 項目あるに過ぎない。そしてそれらとの相関も高くない。従つてこれは或は独立の特性であるかも知れないが、今のところ何ともいいかねる。

G 特性は「活潑である」「いつもほがらかである」「動作はきびきびしている」等によつて代表される**活動性**の特性で、Guilford の一般活動性 (general activity) と大体同じものと考えられるので、符号はそのまま G としておく。

A 特性は「はにかみやである」「引込みじんである」等に負荷が多く、Guilford の S と区別できないようにも見えるが、その他に「会などの時はいつも人の先に立つて働く」「思つたことは遠慮なくいう」等にも可成りの負荷を示すから、これを社会的**指導性**（social leadership）と名づけ、**L** と符号化しようと思う。

M 特性は「わけもなく自分をみじめだと思うことがある、」等極めて社会性を含む特性であつて、この点において Guilford の**男子性**（masculinity)と一脈相通ずるものがある。符号はやはり **M** のままにしておこう。

I 特性は「失敗しやしないかといつも心配である」「人から邪魔にされはしまいかと心配である」「劣等感に悩まされる」等によつて代表されるもので、**劣等感**という名称でよいであろう。符号は **I**。

N 特性は「一寸したことが仕事の邪魔になる」「些細なことを気にやむ」「神経質である」等で代表される**神経質**特性である。符号は **N**。

O 特性は「とてもありそうもないことを空想する」「度々ねつかれないで困ることがある」等で代表されるもので、Guilford の主観性とは可成り違うものとなつているようである。適当な名称がないので、かりに**空想性**（phantastic）と名づけておく。符号は **P** とする。

Ag 特性は「失礼なことをされると黙つていない」等やや角のある性格を表わすもののようであり、愛想のなさ（lack of agreeableness)でもよいが、むしろ**攻撃的**（aggressive）と考えてみたい。符号は **A** を用いる。

Co 特性は「もつとちがう境遇に生れたかつた」「不満が多い」等で代表されるもので、協調性というよりはむしろ**不満性**（frustrated）という方が当つていると思われる。従つて符号も **F**とすることにした。

これらの特性が果して生来的の性格特性であるか、或は習慣的な生活態度に過ぎないかは、我々の資料からはきめられない。しかしとにかく比較的独立な又内的整合性の高い性格の一面であることには間違いあるまい。この検査を如何に活用するか、如何に標準化するかは、我々に課された今後の課題である。

第三部　矢田部 Guilford 性格検査の因子分析的研究

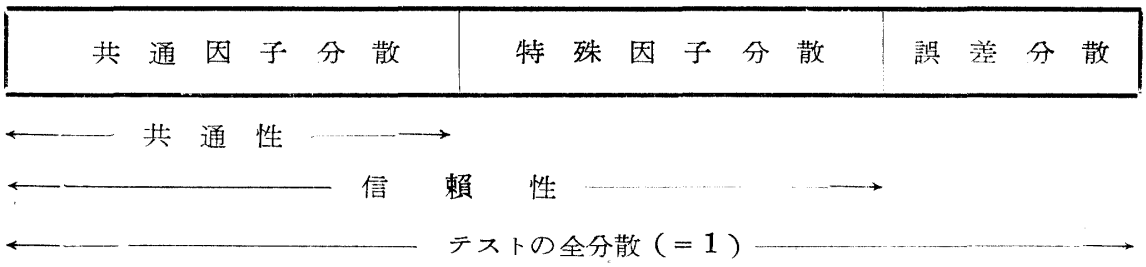
研究担当者　辻　岡　美　延

I 出発点

第二部における我々の課題は項目分析によつて本インヴェントリーの内的整合性を高めることにあつた。それではこのような操作を経て作成された夫々の特性項目群は性格の如何なる特性を測定するものであるか、又そのような特性、或は次元の数は幾何であるかを因子分析によつて探究するのが第三部の課題である。

元来、因子分析は知能の構成因子の探究に用いられてきたものであり、L. L. Thurstone(15)は60数種の知能検査の間に求められた相関行列から、知能の機能的単位 (functional unit) 即ち一次因子 (primary factor) を抽出し、さらにこれらの一次因子の間の相関を分析して知能の二次因子(secondary factor) を求め、この二次因子が先きに Spearman によつて仮定された「一般知能因子」"g"に該当するものであると主張した。その後因子分析は知能の研究のみならず、人格、集団性格、知覚、学習等のあらゆる領域の探索的研究法として有力な武器となりつつある。

1945年 C. Lovell (12) は Guilford Personality Inventory の13の尺度の相関を213名の調査結果から求め、これに Thurstone の重心法 (centroid method) を用いた因子分析的研究を発表した。この分析は相関行列の主対角線に相関行列の各列の最大絶対値を各尺度の共通性 (communality) の推定値として代入する通常の分析方法にしたがつたものであつたが、1950年 Thurstone(13) はこの研究を批判した論文において、Guilford の13の尺度が一次独立 (linear independent) であるか否かが決定されぬ限り、このような方法による分析は好ましくなく、先ず13の尺度によつて表わされる一次独立な次元の数の決定が先決問題であり、これが決定された後に、二次因子分析を行い、二次因子の領域を究明すべきことを指摘した。そして自ら Lovell の相関行列の再分析を行つた結果を発表したのである。主対角線値の関係を図示すると次ぎのようになるが



今夫々の尺度によつて表わされる次元（因子）の数を決定しようとする場合には、共通因子と特殊因子との分散の合計、即ち信頼性 (reliability) が求めらるべきであり、テストの全分散から誤差分散だけは除外されなければならない。従つて因子に還元される相関行列の主対角線上には信頼度係数が挿入さるべきであるというのである。

このような理由によつて Thurstone は **Table 26** に示された Lovell の結果から **Table 27** のセ

ントロイド因子行列 F_0(centroid factor matrix) を求め、9箇の一次独立な因子を抽出した。換言すれば Guilford の13の尺度は一次従属であるわけである。

Table 26 ギルフオドの13の尺度の相関行列(ラヴエル)

(Correlation Matrix for Guilford's Thirteen Scores) (C. Lovell)

N=213

	S	T	D	C	R	G	A	M	I	N	O	Ag	Co
1 S	90	42	64	44	66	38	73	10	59	38	47	14	22
2 T	42	84	65	59	30	-07	20	21	34	39	41	17	24
3 D	64	65	94	90	23	-04	48	32	74	71	75	34	44
4 C	44	59	90	88	-02	-19	31	33	68	70	72	35	42
5 R	66	30	23	-02	90	56	53	04	27	08	21	-08	-02
6 G	38	-07	-04	-19	56	89	44	-07	09	-23	-06	-31	-17
7 A	73	20	48	31	53	44	88	26	57	33	46	00	20
8 M	10	21	32	33	04	-07	26	85	33	35	37	01	21
9 I	59	34	74	68	27	09	57	33	91	67	75	35	45
10 N	38	39	71	70	08	-23	33	35	67	89	72	47	53
11 O	47	41	75	72	21	-06	46	37	75	72	83	50	62
12 Ag	14	17	34	35	-08	-31	00	01	35	47	50	80	63
13 Co	22	24	44	42	-02	-17	20	21	45	53	62	63	91

(本文において述べた理由によりゴチク数字で示された主対角線値には Guilford の手引の信頼度係数が採用されている。なお以下の Table でも小数点は省略される。)

Table 27 セントロイド因子行列(サアストン)

(Centroid Factor Matrix F_0, Thurstone)

	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ	Ⅷ	Ⅸ
1 S	75	-47	18	05	20	-13	-07	-11	09
2 T	58	13	58	10	-26	-04	03	11	-15
3 D	88	19	28	-14	10	-02	07	-06	08
4 C	77	41	28	-25	13	04	15	-02	04
5 R	45	-70	13	25	-16	16	-22	14	05
6 G	15	-79	-17	-12	-18	25	27	-14	04
7 A	67	-50	-17	-17	14	-29	06	16	-08
8 M	41	20	-22	-38	-50	-22	-32	09	07
9 I	83	07	-15	-18	19	14	-08	11	14
10 N	74	39	-08	-09	13	12	-16	-09	-18
11 O	83	25	-14	03	08	09	06	17	07
12 Ag	42	44	-22	51	23	08	-05	-11	-08
13 Co	58	38	-35	42	-08	-14	21	-11	13

Table 28 座 標 変 換 行 列（サアストン）

(Transformation Matrix Λ, Thurstone)

	R^1	S^1	E^1	V^1	D^1	A^1	I^1	X_1^1	X_2^1
Ⅰ	26	30	30	17	16	16	16	15	12
Ⅱ	-06	13	10	08	-28	-09	-32	03	04
Ⅲ	80	-40	48	-21	-03	-34	-15	-17	-03
Ⅳ	34	80	-28	-23	01	08	04	-28	08
Ⅴ	-42	-20	-04	-56	37	-34	-32	28	-15
Ⅵ	-02	08	07	-11	-85	-01	85	18	14
Ⅶ	03	-02	00	-72	-04	84	11	31	-06
Ⅷ	06	-22	-76	-17	-04	-11	-01	82	-17
Ⅸ	00	00	00	00	-16	00	00	00	-95

因子記号の羃数は一次因子であることを示す。

Table 29 斜 交 因 子 行 列（サアストン）

(Oblique Factor Matrix V, Thurstone)

		Guilford's Measures	R^1	S^1	E^1	V^1	D^1	A^1	I^1	X_1^1	X_2^1
1	−S	Social Extraversion	-29	11	32	01	42	-01	06	-03	-04
2	−T	Thinking Extraversion	-76	06	36	07	00	-01	02	-02	22
3	−D	Freedom from Depression	-35	05	50	04	12	05	-01	13	01
4	−C	Emotional Stability	-26	-05	50	-02	00	05	-05	22	02
5	R	Rhathymia	-41	21	-03	14	07	-04	45	-02	03
6	G	General Activity	02	00	05	-07	-04	44	60	02	01
7	A	Ascendance	03	-02	-03	03	55	18	00	30	04
8	M	Masculinity	00	00	08	74	01	-01	-04	01	02
9	−I	Freedom from Inferiority Feelings	05	12	15	14	04	02	17	35	-06
10	−N	Freedom from Nervousness	-01	24	32	24	00	-07	05	10	29
11	−O	Objectivity	-08	31	07	06	00	16	13	34	01
12	−Ag	Agreeableness	03	66	00	-05	-01	03	-03	-06	19
13	−Co	Cooperativeness	-03	72	00	03	07	43	-03	-03	00

Table 30 一 次 因 子 間 の 相 関（サアストン）

(Correlations between Primary Factors, Thurstone)

	R^1	S^1	E^1	V^1	D^1	A^1	I^1	X_1^1	X_2^1
R^1	100	-11	-23	15	07	11	-01	06	-02
S^1	-11	100	52	-03	01	-37	-15	56	-14
E^1	-23	52	100	05	04	-18	-10	66	-12
V^1	15	-03	05	100	03	32	-11	30	-09
D^1	07	01	04	03	100	-17	71	03	-19
A^1	11	-37	-18	32	-17	100	-26	-16	04
I^1	-01	-15	-10	-11	71	-26	100	-19	-22
X_1^1	06	56	66	30	03	-16	-19	100	-01
X_2^1	-02	-14	-12	-09	-19	04	-22	-01	100

この因子行列に **Table 28** の座標変換行列(Tansformation Matrix Λ)によつて軸の廻転を施し、かれは七つの心理学的解釈を持つ因子と二つの仮りの説明をもつ因子とを抽出した。これらの因子は斜交因子で、互に相関を有しながら単純構造 (simple structure) をなすよう軸の廻転が行われたのである。これらの一次因子の間の相関行列は **Table 30** に示されており、**Table 29** は一次因子が夫々の尺度に持つ負荷量を示した斜交因子行列 (Oblique Factor Matrix V) である。Table 29 から抽出された一次因子の性質を説明すれば

R^1. 反省的 (Reflective)

T.	思考的内向	.76*
R.	のんきさ	—.41*
D.	抑鬱性	.35
S.	社会的内向	.29
C.	循環性傾向	.26

* 符号は尺度の名称に応じて変えても可なる故適宜変えてある。

この因子は「内向的」或は「内省的」ともよばれる。ただし社会的適応性という意味を持たない。頭文字をとつて R^1 と記号化しよう。羃数は一次因子であることを示す。(以下因子はすべて頭文字であらわされる。)

$S.^1$ 社交的 (Sociable)

Co.	協調性	.72
Ag.	愛想の良さ	.66
O.	客観性	.31
N.	神経質	—.24
R.	のんきさ	.21

$E.^1$ 情緒安定的 (Emotionally Stable)

C.	循環性傾向	.50
D.	抑鬱性	—.50
N.	神経質	—.32
S.	社会的外向	.32
T.	思考的外向	.32

$V.^1$ 精力的 (Vigorous)

M.	男子性	.74
N.	神経質	—.24

$D.^1$ 主導的 (Dominant)

A.	支配性	.55
S.	社会的外向	.42

A^1. 活動的 (Active)

G. 一般的活動性 .44

Co. 協調性 .43

$I.^1$ 衝動的 (Impulsive)

G. 一般的活動性 .60

R. のんきさ .45

以上の7箇の一次因子は心理学的意味の比較的明瞭なものであるが、この七つの因子に加えて二つの比較的明瞭でない因子があげられた。Thurstone はその一つを

$C.^1$ 自信 (Self-confidence)

I. 劣等感 —.35

O. 客観性 .34

A. 支配性 .30

という。この因子の独立性や有意性は疑わしく、一次因子とすることは保留された。もう一つの因子も神経質 (N) に .29 の負荷があるだけで、これも一次因子としてとりあげるにはあまりにも不明瞭である。

Table 30 の一次因子間の相関表で最も顕著な相関を示すものは主導的 (D^1) と衝動的 (I^1) であり (r=.71)、しかもこの二つの因子に属する Guilford の尺度が全く別々のものであることは興味深い。又社交性 (S^1) と情緒安定性 (E^1) との相関も高く (r=.52)、斜交因子行列 (V)—Table 29—を見るとこの二つの因子に属する尺度の分離は明らかである。

Thurstone の研究は以上のような一次因子の抽出だけに留るのであるが、1952年 M. E. Baehr (2) は上述の Thurstone の一次因子の相関行列に二次因子分析を施し、4箇の二次因子を抽出した (**Table 31**)。半面その方法は一次因子間の相関行列の主対角線に共通性 (communality) を挿入する方法である。Baehr は軸廻転後の (**Table 33**) 因子の心理学的解釈にあたり、G. Heymans (10) 及び E. D. Wiersma (17) の気質学説を採用した。Heymans 等の気質学説では、気質は下記の三変数からなり、これらの三つの連続変数の合成によつて構成されるといわれる。即ち (次頁へ)

Table 31 二次セントロイド因子行列 (ベール)

(Secondary Centroid Factor Matrix F_1 —Baehr)

	I	II	III	IV
R^1	—18	—08	24	35
S^1	59	40	—16	32
E^1	65	59	12	—24
V^1	—14	24	53	14
D^1	47	—50	45	03
A^1	—57	15	36	—16
I^1	46	—76	30	—07
X_1^1	45	65	28	26
X_2^1	—18	06	—16	—01

Table 32　二次座標変換行列（ベール）

(Transformation Matrix Λ—Baehr)

	A^2	B^2	C^2	D^2
Ⅰ	.737	.427	.032	.266
Ⅱ	.460	—.582	.487	—.241
Ⅲ	—.098	.685	.831	—.098
Ⅳ	.485	.099	—.265	.929

Table 33　二次斜交因子行列（ベール）

(Secondary Oblique Factor Matrix V_1—Baehr)

	A^2	B^2	C^2	D^2
R^1	—02	10	06	37
S^1	79	—12	00	06
E^1	62	04	47	—55
V^1	02	15	52	06
D^1	09	80	14	—02
A^1	—46	—07	40	—07
I^1	—07	85	—09	—03
$X_1{}^1$	73	—02	49	—06
$X_2{}^1$	—10	—22	—11	04

1. 一次機能--二次機能 (Primary function—Secondary function)
2. 活動性 (Activity)
3. 情緒性 (Emotionality)

一次機能というのは衝動的で活気があり、大体陽気であるが気が変りやすく、注意散漫で新しい刺激には直ちに反応し、従つて作業にむらがあつて、注意の集中を必要とする作業には不向きのような性質であると考えられた。

Baehr はこの Heymans と Wiersma の学説が自分の二次因子の性質と非常によく一致することを認め、抽出した二次因子を次ぎのように命名した。

A^2. 情緒安定性 (Emotionally Stable)

この二次因子は Thurstone の一次因子の中、社交的 (.79)、自信 (.73)、情緒安定的 (.62) 活動的 (—.46) に対して大きな因子負荷量を示しており、これを Guilford の尺度に置きかえると下のようになる。

Thurstone の因子	Guilford の尺度への因子負荷量		
S^1. 社交的……	Co.	協調性	.72
	Ag.	愛想のよさ	.66
C^1. 自　信……	I.	劣等感のないこと	.35
	O.	客観性	.34
E^1. 情緒安定的……	C.	循環性傾向	.50
	D.	抑鬱性のないこと	.50

A¹. 活動的(負)……{G. 一般的活動性 .44
Co. 協調性 .43

B² 一次機能 (Primary Function)

この二次因子は Thurstone の衝動的 (.85) 及び主導的 (.80) に対して高い負荷量を示し、これを Guilford の尺度に書き直すと、

I¹. 衝動的……{G. 一般的活動性 .60
R. のんきさ .45

D¹. 主導的……{A. 支配性 .55
S. 社会的外向 .42

となり、これこそ Heymans と Wiersma のいう一次機能の特徴をとらえた因子であると彼女は考えた。

C². 活動性 (Activity)

この二次因子は Thurstone の精力的因子 (.52)、自信 (.49)、情緒安定的 (.47)、活動的 (.40) に対して高い負荷量を示す。これを Guilford の尺度に書き直すと

V¹. 精力的…… M. 男子性 .74

C¹. 自 信……{I. 劣等感のないこと .35
O. 客観性 .34

E¹. 情緒安定的……{C. 循環性傾向 .50
D. 抑鬱性のないこと .50

A¹. 活動的……{G. 一般的活動性 .44
Co. 協調性 .43

ここに表わされているのは、情緒不安定性の影響を制御することから自由な、精力的で自信に満ちた行動の特徴であり、この自由で精力的な行動の特徴こそ Heymans が活動性と呼んだものと極めてよく一致すると Baehr はいう。

D². 情緒不安定性 (Emotionally Unstable)

この二次因子は Thurstone の反省的 (.37)、情緒安定性 (—.55)に対して高い負荷量を持つもので情緒不安定性と名づけられており、これを Guilford の尺度になおすと

R¹. 反省的……{T. 思考的外向 —.76
R. のんきさ —.41

E¹. 情緒安定性(負)…{C. 循環性傾向 .50
D. 抑鬱性のないこと .50

この因子によつて表わされる主要特徴は思考的内向、情緒不安定、抑鬱的で、のんきさを欠くことであり、概して不適応的な性質を意味する。二次因子 A² は情緒安定性を表わす因子であつたから、情緒安定性と不安定性即ち適応性と不適応性とは質的に異なり、この二つは同一因子の両極にあるようなものではないと考えられた。

Ⅱ　実　　験

1.　実験の施行。

目　的　ここでは第二部において作成した矢田部 Guilford 性格検査第二型式の因子的構造を究明しようとする。(第一型式の因子分析は後日発表の予定である。)

方　法　尺度の間に求めた相関行列の主対角線に各尺度の信頼性 (reliability) を代入し、各因子抽出後の主対角線値の修正は行わず、計算を続け、主対角線値が消えるまで、或は有意な因子負荷量の生ずる限り、分析を行う。かくしてえられた因子行列を、単純構造をなす斜交因子行列に変換し、この一次因子間の相関をさらに分析する二次因子分析を施す。この際は一次因子間の相関行列の主対角線値には共通性の推定値としてこの相関行列の各列の最大絶対値を代入する。求められた二次の直交因子行列は単純構造をなす斜交二次因子に変換される。

被験者、調査者、調査場所、日時、調査方法、採点、等は第二部 (87 頁) を参照。

さてここに問題となるのは主対角線値の選定である。始め我々は再検査の信頼度係数(第24表参照)を採用するつもりであつたが、五カ月後の再検査の信頼度係数は相関行列の各列の最大絶対値に比して、比較的低いものが多かつた。これは五カ月の時日及び両検査の項目配置の相異などによる他の諸要因の関与による信頼度の低下を示すもので、この部分が全部誤差分散だと考えることには考慮の余地がある。だからこの値を主対角線に代入するということは、二種の異質な実験を結合して同時に分析するということを意味するもので、少くとも、第一回目の結果に表わされた性格の因子構造を整合的に分析することを意味しないと考えられる。その上、この比較的低い値を主対角線上に挿入することは、実は相関行列の Gramian property を破壊するおそれがあるという数学的な理由もある。そこで我々は各尺度の信頼度係数としてかりに .9 という値を採用した。この値は大体 Thurstoneが用いた値の平均に近い。Thurstone もかれの分析の場合、Lovell の採用した Guilford の手引の信頼度係数 .80～.94 という比較的大なる値をそのまま採用しているが、それもおそらく上のような二つの理由によるのであろうと考えられる。

2.　因子分析。

第二型式の13尺度の間に求められた相関行列 (N＝200) は **Table 34** の通りで、第一型式では各々の尺度の間に重複項目があるため、それと比較してこの場合の相関は概して低かつた。この相関行列を Thurstone の完全重心法 (complete centroid method) (14) で因子行列に還元したのが **Table 35** のセントロイド因子行列 (centroid factor matrix) であり、これを **Table 37** の座標変換行列 (transformation matrix) によつて軸の廻転を行い、**Table 38** の斜交因子行列 (oblique factor matrix) をえた。これらの斜交因子、即ち一次因子 (primary factor 或は first-order factor) の間の相関行列は **Table 39** である。この相関をさらに分析して、二次の直交因子行列に還元したのが**Table 40** であり、これを **Table 42** の座標変換行列によつて軸の廻転を行い、**Table 43** 次斜交因子、即ち二次因子 (secondary factor 或は second-order factor) をえた。二次因子の間のの如き二相関は **Table 44** にある。

Table 34　YG-II の13尺度の相関行列 (N=200)

(Correlation Matrix for Yatabe-Guilford's Thirteen Scores)

		S	T	D	C	R	G	A	M	I	N	O (P)	Ag (A)	Co (F)
1	S		.23	.41	.22	.47	.64	.73	.28	.41	.35	.18	.19	.22
2	T	.23		.39	.08	.42	.29	.15	.27	.14	.35	.20	-.05	.23
3	D	.41	.39		.58	.22	.57	.37	.60	.62	.70	.61	.03	.47
4	C	.22	.08	.58		-.19	.27	.19	.39	.56	.61	.55	-.26	.44
5	R	.47	.42	.22	-.19		.50	.39	.11	.03	.17	-.13	.38	-.13
6	G	.64	.29	.57	.27	.50		.68	.38	.45	.38	.42	.26	.19
7	A	.73	.15	.37	.19	.39	.68		.26	.55	.39	.24	.33	.22
8	M	.28	.27	.60	.39	.11	.38	.26		.46	.48	.45	.08	.37
9	I	.41	.14	.62	.56	.03	.45	.55	.46		.65	.49	.16	.43
10	N	.35	.35	.70	.61	.17	.38	.39	.48	.65		.50	-.04	.51
11	O(P)	.18	.20	.61	.55	-.13	.42	.24	.45	.49	.50		-.13	.44
12	Ag(A)	.19	-.05	.03	-.26	.38	.26	.33	.08	.16	-.04	-.13		-.19
13	Co(F)	.22	.23	.47	.44	-.13	.19	.22	.37	.43	.51	.44	-.19	

この表は Table 20 と同じものであるが因子分析の手続き上、R, G, A, M, Ag は符号を逆にしてある

Table 35　YG-II のセントロイド因子行列

(Centroid Factor Matrix F_0)

		Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ	Ⅷ
1	S	67	41	-19	23	16	13	-23	-08
2	T	46	19	60	26	-13	12	36	-20
3	D	83	-25	13	-08	-18	06	03	09
4	C	56	-57	-20	12	-16	29	-12	12
5	R	40	70	33	-14	-13	12	-10	19
6	G	76	34	-18	12	-26	-09	-09	09
7	A	69	39	-34	10	23	06	-08	-10
8	M	64	-26	20	-23	-17	-27	-30	-36
9	I	75	-25	-29	-19	18	15	12	-17
10	N	76	-32	15	-10	15	26	06	12
11	O(P)	60	-45	-18	20	-30	-20	26	05
12	Ag(A)	21	52	-22	-56	11	-32	22	09
13	Co(F)	52	-44	19	31	42	-27	-06	12

Table 36　第8因子剰余の頻数分布 (n=169)

(Frequency Distribution of 8th Factor Residuals)

Residual :	-.06	-.05	-.04	-.03	-.02	-.01	.00	.01	.02	.03	.04	.05	.06	.07	.08
Frequency :	1	1	8	8	9	11	10	15	9	4	1	0	0	0	1

Table 37 座標変換行列

(Transformation Matrix Λ)

	D^1	E^1	V^1	A^1	R^1	S_1^1	S_2^1	X_1^1
Ⅰ	14	29	07	15	17	21	21	00
Ⅱ	22	-42	-09	00	17	-21	00	36
Ⅲ	-43	-15	29	-39	51	18	-15	-26
Ⅳ	30	-26	-36	18	19	38	-56	-09
Ⅴ	32	-20	-27	-79	00	59	38	-68
Ⅵ	33	34	-42	-35	38	-55	33	56
Ⅶ	-42	49	-47	23	67	05	61	-06
Ⅷ	-52	51	-55	05	-24	30	00	12

Table 38 斜交因子行列

(Oblique Factor Matrix V)

Yatabe-Guilford's Measures			D^1	E^1	M^1	A^1	R^1	S_1^1	S_2^1	X_1^1
1	S	Social Extraversion	56	-15	-07	-01	04	10	00	14
2	T	Thinking Extraversion	-07	04	02	01	81	08	07	01
3	D	Freedom from Depression	-12	47	11	17	17	11	16	05
4	C (E)	Emotional Stability	12	53	-10	19	-08	03	04	12
5	R	Rhathymia	-03	-06	06	-04	26	-16	04	36
6	G	General Activity	18	11	03	43	01	04	-07	31
7	A (L)	Ascendance (Leadership)	54	-06	-12	02	03	12	20	08
8	M	Masculinity	05	-06	70	11	-08	05	-09	-17
9	I	Freedom from Inferiority Feelings	25	39	-02	02	08	08	50	-06
10	N	Freedom from Nervousness	00	51	-09	-16	25	21	38	-10
11	O (P)	Objectivity (Phantastic)	-19	49	-03	57	05	23	04	-06
12	Ag(A)	Agreeableness (Aggressive)	-15	07	05	09	-08	-04	45	05
13	Co(F)	Cooperativeness (Frustration)	-01	08	-01	-17	01	79	-05	-67

Table 39 一次因子間の相関

(Correlations between Primary Factors)

	D^1	E^1	M^1	A^1	R^1	S_1^1	S_2^1	X_1^1
D^1	100	56	27	12	25	14	-12	07
E^1	56	100	18	-22	19	-12	-58	-21
M^1	27	18	100	-30	29	80	41	77
A^1	12	-22	-30	100	-02	-27	16	-38
R^1	25	19	29	-02	100	19	-16	14
S_1^1	14	-12	80	-27	19	100	58	95
S_2^1	-12	-58	41	16	-16	58	100	58
X_1^1	07	-21	77	-38	14	95	58	100

Table 40　二次セントロイド因子行列

(Secondary Centroid Factor Matrix F_1)

	I	II	III	IV
D^1	-15	-59	44	-17
E^1	-36	-77	-13	-20
M^1	72	-53	18	-09
A^1	-27	33	49	-18
R^1	08	-38	14	-23
S_1^1	91	-32	23	16
S_2^1	62	38	45	21
X_1^1	96	-24	06	18

Table 41　第二次第四因子剰余

(4th Factor Residuals)

	D^1	E^1	M^1	A^1	R^1	S_1^1	S_2^1	X_1^1
D^1								
E^1	09							
M^1	-03	03						
A^1	02	-05	-05					
R^1	-06	-10	-02	02				
S_1^1	02	02	-05	01	01			
S_2^1	03	03	10	02	-08	01		
X_1^1	07	01	-04	-04	00	-04	00	

Table 42　二次座標変換行列

(Transformation Matrix A_1)

	A^2	B^2	C^2	D^2
I	45	28	60	90
II	86	00	-50	-17
III	-22	-94	-47	40
IV	-06	23	40	00

Table 43　二次斜交因子行列

(Secondary Oblique Factor Matrix V_1)

	A^2	B^2	C^2	D^2
D^1	67	49	07	-14
E^1	78	03	-15	24
M^1	-17	01	57	81
A^1	-06	58	63	10
R^1	-31	-16	08	19
S_1^1	07	07	60	96
S_2^1	50	-20	05	68
X_1^1	20	25	74	92

* Signs are reversed in order to be consistent with interpretation.

Table 44　二次因子間の相関

(Correlations between Secondary Factors)

	A^2	B^2	C^2	D^2
A^2	100	-99	99	-99
B^2	-99	99	-99	99
C^2	99	-99	100	-99
D^2	-99	99	-99	100

3. 因子に関する考察。[1)]

(1) 一次因子

D^1. 主導性 Dominant (S^1. 社会的外向[2)] Social extraversion)

本実験の尺度			Thurstone の尺度		
S.	社会的外向	.56	S.	社会的外向	.42
A.	支配性（指導性）	.54	A.	支配性	.55
N*.	神経質でないこと	.25			

この因子の主要特徴は社会適応性に富み、対人的接触を求め、友を好み、排他的でなく、社会的統率性を示すもので、上の表にもあるごとく、Thurstone が Dominant と名づけている因子と合致するものと思われる。従つて我々もこれを一応主導性と命名することにした。我々の場合にはこの因子は神経質でないこと（—N）にわずかに .25 の負荷を示すが、これはこの因子の名称及び解釈に矛盾するものでなく、かえつて興味深い事実であると思われる。

註1）D^1, A^2 等の如く因子記号につけた羃数は夫々一次因子二次因子であることを示す。

2）この因子が社会的外向とも考えられることについては後の結びを参照されたし。

E[1]. 情緒安定性 (Emotional Stability)

本実験の尺度			Thurstone の尺度		
C.	情緒安定性	.53	C.	情緒安定性（循環性傾向）	.50
N.	神経質でないこと	.51	N.	神経質でないこと	.32
O*.[1]	客観性(空想的でない)	.49			
D.	抑鬱性のないこと	.47	D.	抑鬱性のないこと	.50
I.	劣等感のないこと	.39	I.	劣等感のないこと	.15
			S*.	社会的外向	.32
			T*.	思考的外向	.36

この因子と Thurstone の因子 E[1] (Emotional Stability) とは情緒安定性、神経質でないこと、抑鬱性のないこと、劣等感のないこと、において両者がほとんど一致している。しかし上表中＊印の尺度については一致がみられない。我々の尺度は Guilford の尺度のままでなく、項目分析を通じて可成りに変化をうけている部分もあるのであるから、当然完全な一致は望めないわけであるが、全く独立に分析してえられたこれらの因子を比較するとき、両者の一致は顕著であるというべきであろう。従つてこの因子も亦 Thurstone に従つて情緒安定性と名づけることにした。

M[1]. 男子性 (Masculinity)

本実験の尺度			Thurstone の尺度		
M.	男子性	.70	M.	男子性	.74
			N*.	神経質でないこと	.24

この因子も Thurstone が Vigorous と名づけた因子とほとんど一致するもので、共に男子性に大きな負荷を持つ。このことは両特徴の選出方法が全くちがつていることを考慮に入れると、極めて注目すべき結果であるといわなければならない。

A[1]. 活動的 Active (G[1]. 現実性 Reality Grade)

本実験の尺度			Thurstone の尺度		
G.	一般的活動性	.43	G.	一般的活動性	.44
O.	客観性（空想的でない）	.57	O.	客観性	.16
			Co*.	協調性	.43

この因子の両者の一致はやや疑わしく、特に協調性において、我々の場合には負荷量が認められない。

註1) 以下の表の中で＊印をつけた特性或は因子は一方にのみ含まれ他方には含まれぬことを示す。

R^1. 反省的 Reflective (T^1. 思考的内向 Thinking Introversion)

本実験の尺度			Thurstone の尺度		
T.	思考的外向	.81	T.	思考的外向	—.76
R.	のんきさ	.26	R.	のんきさ	—.41
N*.	神経質でないこと	.25			
D.	抑鬱性のないこと	.17	D.	抑鬱性のないこと	—.35
			S*.	社会的外向	—.29
			C*.	情緒安定性	—.26

この因子は両者共に思考的外向に最大の負荷を持ち、のんきさがこれに次ぐもので、やや一致しないところがあるとはいえ、Thurstone が反省的と名づけたものと逆方向の行動特徴を表現する因子と考えられる。

S_1^1 & S_2^1. 社交的 $Sociable_{1,2}$. (F^1. フラストレイション Frustration, A^1. 攻撃的 Aggression)

この因子は両者が結合すれば Thurstone の社交的 (Sociable) と一致するものであるが、我々の場合には分離して現われた。

本実験の尺度				Thurstone の尺度		
S_1^1			(S^1)			
Co.	協調性(不満のない)	.79	(.43)	Co.	協調性	.72
O.	客観性(空想的でない)	.23	(.23)	O.	客観性	.31
N.	神経質でないこと	.21	(.34)	N.	神経質でないこと	.24
S_2^1						
Ag.	愛想のよいこと(攻撃的でない)	.45	(.43)	Ag.	愛想のよいこと	.66
I.	劣等感のないこと	.50	(.24)	I.	劣等感のないこと	.12
N.	神経質でないこと	.38	(.34)	N.	神経質でないこと	.24
A*.	支配性	.20	(....)	R*.	のんきさ	.21

(S^1) は S_1^1 と S_2^1 とを分離しない場合

この S_1^1, S_2^1 の2因子は軸の廻転の過程において二つに分離されたもので、分離されない前の因子負荷量は上表右側の( )内に示された如き値を示し、Thurstone の Sociable との一致が明瞭である。

X_1^1.

本実験の尺度			Thurstone の尺度		
Co*.	協調性(不満性)	—.67			
R.	のんきさ	.36	R.	のんきさ	.45
G.	一般的活動性	.31	G.	一般的活動性	.60

この因子にもつとも近似的な Thurstone の因子は衝動的 (Impulsive) であるが、本実験の因子には協調性に負の大きな負荷があるという相異がある。この因子は先きの S_1^1 と高い相関を有し、この因子の独立性及び有意味性は疑わしい。

上の8因子の間の相関の中、その独立性及び有意味性から見て顕著なものは、D^1 (主導性) と E^1 (情緒的安定性) が .56、E^1 と S_2^1 (社交性第二) とが —.58、M^1 (男子性) と S_1^1 (社交性第一) とが .80、S_1^1 と S_2^1 とが .58である。(上述の理由から $S_1^1X_1^1$, $M^1X_1^1$, $S_2^1X_1^1$ の関係は除外する。)

(2) 二 次 因 子

我々の二次因子分析においては Baehr の場合と同じく四箇の因子が抽出された。

A^2 因 子 情緒的安定 (Emotionally Stable)

本実験の因子			Baehr の因子		
E^1. **情緒安定性**		(.78)	E^1. **情緒安定性** (.62) 及び **自信** (.73)		
C.	情緒安定性	.53	C.	情緒安定性	.50
D.	抑鬱性のないこと	.47	D.	抑鬱性のないこと	.50
N.	神経質でないこと	.51	N.	神経質でないこと	.32
O.	客観性(空想的でない)	.49	O.	客 観 性	.34
I.	劣等感のないこと	.39	I.	劣等感のないこと	.35
S_2^1. **社交性第二**		(.50)	S^1. **社 交 性**		(.79)
Ag.	愛想のよいこと (攻撃的でない)	.45	Ag.	愛想のよいこと	.66
I.	劣等感のないこと	.50	I.	劣等感のないこと	.12
N.	神経質でないこと	.38	N.	神経質でないこと	.24
			O*.	客 観 性	.31
			Co*.	協 調 性	.72
D^1. **主 導 性**		(.67)	A^1. **活 動 性**		(—.46)
S.	社会的外向	.53	G*.	一般的活動性	.44
A.	支配性(指導的)	.54	Co*.	協 調 性	.43

本実験の A^2 因子は一次因子の情緒安定性 (E^1) に .78、社交性 (S_2^1) に .50、主導性 (D^1) に .67 の負荷を有するもので、これを矢田部 Guilford の尺度に置きかえると上表の左半部のようになる。同じようにして Baehr のこれに対応する二次因子の構成を Guilford の尺度に置きかえたのが上表右半部であり、ここでは Thurstone の情緒安定性と自信とは結合された形で現わされている。なぜなら自信という因子は情緒安定性と極めて近い関係にあり、その独立性は疑わしいと Thurstone も述べているためであり、又我々の情緒安定性という一次因子は丁度この二つを結合したものに相応しているものだからである。又我々の社交性(S_2^1)は Thurstone の社交性(S^1)に対応する。ただし我々の S_2^1 因子は Thurstone の S^1 から S_1^1 の因子が分離されたものであるため、表中の * 印の客観性及び協調性は我々の二次因子の中には含まれていない。このようにして考えてみると我々の二次因子 A^2 は Baehr の二次因子 Emotionally Stable と殆んど一致するものであることがわかる。一致しない一面は本実験の二次因子には主導性 (D^1) が含まれていること、又 Baehr の因子には活動性 (A^1) が負の値 (—.46) で含まれていることである。この点について Baehr は、余りに活動的であり、余りに協調的にすぎることは、情緒の安定性にとつてはマイナスになると説いた。

B^2 因 子　現実性 (Reality Grade)

本実験の因子		Baehr の B^2 因子	
D^1. **主 導 性**	(.49)	D^1. **主 導 性**	(.80)
S. 社会的外向	.56	S. 社会的外向	.42
A. 支配性 (指導性)	.54	A. 支 配 的	.55
A^1. **活 動 性**	(.58)	I^1. **衝 動 的**	(.85)
G. 一般的活動性	.43	G. 一般的活動性	.60
O*. 客観性 (空想的でない)	.57	R*. のんきさ	.45

この二次因子は主導性に .49、活動性に .58 の負荷量をもつもので、同じように Baehr の B^2 因子との対応を考えたのが上の表である。両者で一致しないのは本実験の因子には O の負荷があり、Baehr の因子には R の負荷がある点であるが、それが如何なる理由によるのであるかは今のところ明らかでない。

C^2 因 子　活動性 (Activity)

本実験の因子		Baehr の C^2 因子	
M^1. **男 子 性**	(.57)	V^1. **精 力 的**	(.52)
M. 男 子 性	.70	M. 男 子 性	.74
A^1. **活 動 的**	(.63)	A^1. **活 動 的**	(.40)
G. 一般的活動性	.43	G. 一般的活動性	.44
O. 客観性 (空想的でない)	.57	O. 客 観 性	.16
S_1^1. **社交性第一**	(.60)	Co. 協 調 性	.43
Co. 協調性 (不満がない)	.79	E^1. **情緒安定性** (.47) 及び **自信** (.49)	
O. 客観性 (空想的でない)	.23	D*. 抑鬱性のないこと	.50
		C*. 情緒安定性	.50
		O. 客 観 性	.34
		I*. 劣等感のないこと	.35

この二次因子は我々の男子性 (M^1) に .57、活動的 (A^1) に .63、社交性第一 (S_1^1) に .60 の負荷を持つ (我々の X_1^1 因子は有意味性の観点からここではとり上げない。) これらの尺度への置換は上表の通りであるが、Baehr の二次因子との対応関係は次ぎのようになつている。男子性は一対一の対応をなし、活動的は協調性を除いて対応する。我々のこの因子に情緒的安定性、及び自信なる次元を持たないでのであるが、本実験結果の如く、活動性より情緒性を除いたものの方がより純粋な行動特徴をとらえているものといわなくてはなるまい。この意味において Baehr の活動性は我々の活動性よりも複雑な因子と解すべきである。この因子は活動性 (Activity) と命名して大過ないであろう。

D^2 因 子　社交性 (Sociable)

この因子は Baehr の二次因子の中には対応するものを見出すことが困難で、むしろ Thurstone の一次因子社交的 (Sociable) との一致性が高いものである。しかしながら Thurstone の一次因子よりも一層基本的なものと思われるから、一応二次因子社交性と名づけておくことにしよう。

本実験の因子		Thurstone の S^1 因子	
S^1_1 **社交性第一**	(.96)	S^1. 社交的	
Co. 協調性 (不満がない)	.79	Co. 協調性	.72
O. 客観性 (空想的でない)	.23	O. 客観性	.31
S^1_2 **社交性第二**	(.68)	R*. のんきさ	.21
Ag. 愛想の良さ(攻撃的でない)	.45	Ag. 愛想のよいこと	.66
I. 劣等感のないこと	.50	I. 劣等感のないこと	.12
N. 神経質でないこと	.38	N. 神経質でないこと	.24
M^1. 男子性	(.81)		
M*. 男子性	.70		

この二次因子は S_1^1 に .96、S_2^1 に .68、M^1 に .81 の負荷をもつもので、二つの社交性に男子性を加えたものであるが、これによつてもここに見出された意味での男子性なるものの社会性が窺われることは極めて興味深いことと思われる。

Ⅲ　第三部の結び

以上の如く我々は一次因子分析において8箇の一次因子を抽出したのであるが、そのうち8番目の X_1^1 因子はその独立性の疑わしいものであつた。その他の因子は、夫々 Thurstone の、Dominant, Reflective, Vigorous, Active に対応し、社交性第一と第二は Sociable に、情緒安定性は Emotional Stability 及び Confident に対応するもののようにみえる。ただかれの Impulsive なる因子はついに抽出することができなかつた。尤も我々の分析が唯一の可能性でなかつたことはいうまでもない。我々のセントロイド因子行列に対しても、それに次の **Table 45** の如き座標変換を施すと Thurstone の Confident 及び Sociable に相応する因子や、又のんきさだけを除いた Baehr の一次機能の因子が、既に一次因子において抽出されることを注意しておきたい。

とにかく YG 検査の尺度と Guilford の原型との間には可成りの相異があるにも拘わらず、国境を越えて相当の一致度を示したということは注目に値する。両者は項目総数も、尺度項目数も、亦それらの表現も異なり、因子分析の技術上主対角線上に挿入した信頼度の値も異なるのであるが、求められた次元の数も、亦その次元の性質も極めて親近せるものであつた。

しかし一方においては必ずしも重要な相異がなかつたわけではない。**Table 47** は一次因子に関する我々の結果と Thurstone の結果との対応表である。それのデテイルについて一応心理学的な想像的考察を加えてみたい。

Table 45　座標変換行列

(Transformation Matrix)

	C^1	S^1	P^1
Ⅰ	21	25	26
Ⅱ	-23	-15	42
Ⅲ	-16	13	-53
Ⅳ	-36	-33	57
Ⅴ	06	42	00
Ⅵ	84	-38	00
Ⅶ	-21	46	-25
Ⅷ	00	50	-30

C^1. Confident

S^1. Sociable

P^1. Primary function

に夫々対応する。

Table 46　斜交因子行列

(Oblique Factor Matrix)

	C^1	S^1	P^1
S	17	-17	64
T	-12	05	-01
D	27	26	-07
C	50	-02	07
R	03	03	10
G	-01	01	49
A	14	03	62
M	06	02	00
I	45	24	13
N	47	34	-14
O	-05	23	08
Ag	-15	43	-02
Co	-12	43	01

Table 47　一次因子の比較

(YG-II vs. Thurstone)

	D^1 (D^1)	E^1 (E^1)	M^1 (V^1)	A^1 (A^1)	R^1 (R^1)	S_1^1 (S^1)	S_2^1	X_1^1 (I^1)	(X_1^1)	(X_2^1)
S	56 (42)	-15 (32)			(-29)	10		14		
T		(36)			81 (-76)					(22)
D	-12 (12)	47 (50)	11	17	17 (-35)	11	16		(13)	
C	12	53 (50)	-10	19	(-25)			12	(22)	
R			(14)		26 (-41)	-16 (21)		36 (45)		
G	18	11		43 (45)				31 (60)		
A	54 (55)		-12	(18)		12	20		(30)	
M			70 (74)	11				-17		
I	25	39 (15)	(14)			(12)	50	(17)	(35)	
N		51 (32)	(24)	-16	25	21 (24)	38	-10	(10)	(29)
O	-19	49		57 (16)		23 (31)		(13)	(34)	
Ag	-15					(66)	45			(19)
Co				-17 (43)		79 (72)		-67		

括弧外は YG-II の因子負荷量、括弧内は Thurstone の因子負荷量

先ず **D^1因子**は Thurstone によつて Dominant と名づけられたのであるが、我々の尺度項目は S にしろ A にしろ Dominant という色彩のあるものは有意性が高くなく、従つてこれは Guilford のように単に社会的内向と名づけた方が適当な因子であるように思われる。

E^1因子はもちろん Emotional Stability という名称が適当であると思われるのであるが、これも Thurstone では S, D, C, R, I, N という謂わゆる感情項目のすべてに負荷を有するのであつて、狭義の安定性だけではなく、むしろ情緒的反応の適応性一般に関する因子と考えなければならない。我々の場合 T が脱落したのは、上にも述べたように我々が、Guilford の T 尺度に含まれる感情性を意識的に screen したためであり、一方我々の場合 O が加わつているのは、O が D や C と極めて密接な関係にある項目であることを思うと、むしろ当然であるといわなければならない。

V^1因子についても前に述べたように、これは男子性の Vigorous の面を示すものではなく、むしろ女子の社会的自由に限界があることから来る生活態度を表わすものらしく思われる。従つて集団によつて反応項目の細目は異なりうるが、しかもその底には一貫して流れるその社会のモーレスを窺わせるものであつて、特に日本とは全く異なるアメリカの、しかも全く選定規準をも異にしたこの特性について、同じような次元が見出されたことは非常におもしろい。Thurstone のものは N に幾何かの負荷があるが、我々の場合も軸の立て方によつては、同等の負荷が N にかかりえたのである。とにかく我々にはこの因子を精力的と名づけることには賛成できないのであつて、素直にそれを男子性と呼んでおくことにしたいと思う。

A^1因子は最も難解の因子の一つである。Thurstone の場合は G の他に Co に大きな負荷があるのに対して、我々の場合は O にあるのは如何なる事情によるのであろうか。かれの場合は G, Co, A 等であるから、何等の不満もなく社会的活動をどんどんやつてのける特性を意味すると思われるのに対して、我々の場合は G, O, C, D 等であるから、別に社会的活動とは関係なく、負の性質として考えると、感情生活の不安定性から気楽に活動ができないことを意味するようである。従つてこれは生活態度の現実性、非現実性の次元のように思われる。尤もこういう次元を抽出したことが妥当であつたか否かは、もつと周到なる検討を必要とするかも知れない。

R^1因子が思考的内向を意味することについては、異議はない。しかし、それは Guilford のいわゆる Liking for Thinking でも Intellectual Leadership でもなく、思索性とでも名づくべきものであろう。純粋の LT や IL は尺度項目が少なく、一つの次元として独立性を主張するには余りにも力が弱いように思われる。若し又類似項目によつてこれを補強しようとすれば、Guilford の Inventory が示すように「物思いに沈む」というような感情面がのさばり出して、この因子の真面目は失われる。我々は意識してこの不純さを除去しようとしたが、その結果は我々の R 因子中には Thurstone のそれに比較して、感情項目の負荷が小さくなつて現われたのである。

S_1^1, S_2^1 両因子 についていうと S_1^1 因子は O 因子 N 因子等の負荷が示すように、充分な生活力のない者が不満を以て社会に対する生活態度を表現するもののようであるのに対して、S_2^1 は感情反応のやや激しい者が aggressive に行動する場合に働く因子のように思われる。

X_1^1 は S_1^1 と .95 も相関があるので独立性を主張しえないと思うが、若しこの軸がやや異なる方向

に立てられて、不平もなくのんきに社会活動を続ける、かの frustration-aggression 事態における neutral 型を表わすものならば面白いようにも思われる。これは勿論単なる希望的観測にすぎない。そうでないとすればRGの方向には cyclothymia を表わし、マイナスCoの方向には schizothymia を表わす一つの次元が考えられないものであろうか。これも全く空想の域を出ない。この文章のくだりは因子分析の原理に暗い報告者のたわごとで、研究分担者の与り知らぬことを申添えておく。

さて**二次因子** A^2 が情緒安定性であることは改めて説明を要しないであろう。これに E^1 因子の他に社交性第二が加わることは勿論であるし、主導性も亦それを消極的性質において社会的内向と考えれば、そこに感情因子が働くことは明らかであるといわなければならない。ただ Baehr において活動性が加つているのが問題であるが、この場合の活動性中にはCoを含むものであつて、その消極的性質たる不平が感情と深い関係にあることを考えると理解に困難はないようである。

B^2 因子は我々の場合は D^1 と A^1 とからなり、Baehr の場合は D^1 と I^1 とからなるわけであるが、先きに我々の活動が現実性であることを説いたように、それは Thurstone の I^1 とも亦極めて近親の関係にあるものと思われる。Baehr はこの因子を Heymans の一次機能と考えたが、わかりにくいこの名を用いるよりも我々はこれを現実性の因子と名づけるのがよいと考える。

C^2 因子は我々の場合は M^1 (V^1), A^1, 及び S_1^1 から成り、Baehr の場合は V^1, A^1, 及び E^1 等から成る。我々の場合に E^1 を含まないのは、感情因子は気を付けなければどこにでももぐり込んで来るような universal 因子であるため、凡ゆる場合に我々がそれに対する censureを きつくした結果であると思われる。社交性第一は Co 及び O から成る一次因子であるが、我々の場合 Co は不満のないこと、O は非現実的な空想や、神経衰弱的な不眠等を伴わないことを意味するので、活動的因子たるこの因子を構成するのは当然であると思われる。

D^2 因子は S_1^1 と S_2^1 とに M^1 を加えたものであるが、S_1^1 は Co と O とを含み、上述の如く不満のない、神経衰弱的でない性質を意味し、S_2^1 は Ag, I, N から成り、攻撃的でなく、劣等感もなく、神経質でないことを意味するのであつて、これが社交性の特徴であることは言を俟たない。それに度々説いたように男子性も亦その機能的な層においては社会的なものであるから、この因子の心理的意義は極めて明瞭であるということができる。

さて最後にこれらの四つの二次因子間の相関について驚くべき結果が獲得された。それは **Table 44** に見られるように、すべての値が完全な1を示したということである。この事実を如何に解釈すべきであろうか。それは果して性格特性の最後の "g" を示すものであろうか。或は単なる状況因子を表わすものにすぎないであろうか。或は又、単に因子分析の手続による結果なのであろうか。この事実を解明するためにはさらに多くの資料を集め、さらに多くの思索を重ねなければならない。

その努力の第一歩として、我々は今 YG 検査の第一型式の得点に関してもその因子分析を進めつつある。又上述の「出発点尺度」についても、有意でない項目を省き、信頼度の高い項目だけについての得点を算出して、その間の相関に関して因子分析を行う計画をもつている。これらの実験の結果、及びその他多くの研究（それらは着々として行われているのであるが）を待つて、正しい心理学的解釈のできる日が余り遠い将来でないことを祈るものである。

結　　語

執筆者　　園　原　太　郎

我々の総合研究「人格診断法の総合的研究」は、本報告の冒頭に述べられた如く、極めて広く且つ困難な人格研究の領域に対して、捨石的な意味において一つの道をきり拓こうと努力している。一応問題を次の三点に要約した。(1)従来の諸性格検査法を検討し、できるだけ十分な統計的信頼性をもつ性格診断法を作製すること。この場合はできるだけ性格の形成的な変動面を離れて、比較的不動の基本的な因子を捉えて診断しうるように力めること。(2)性格が社会的生活場面で顕現せられる形成過程について、その要因を分析すると共に、標準的な発達尺度を作製すること。(3)異常人格の異種性を明らかにするため、臨床的に妥当性をもつ異常人格者用の人格診断尺度を作製すること。我々はこれらの三問題を中心として研究組織を三部会に分け、第一部会性格検査、第二部会社会性発達、第三部会異常人格として出発した。研究の順序からいえば、性格検査法を制定し、これを社会的発達や異常人格に用いていくのが最も望ましいのは明らかであるが、人格の基本的因子について未だ殆んど何も分つていない現状では、一応各部会夫々独立の見地から研究を進め、相互の成果の集積からさらに高次の見地に到達することも一つの行き方と考えたのである。しかしそれにしても、一応比較的確実な性格検査法をもつという必要は、第二部会第三部会においても強く感ぜられ、第一部会の成果に深い期待がよせられていたのである。

本報告は、第一部会において自己診断法を担当された矢田部教授以下京大心理学教室をあげての努力の成果であり、高い内的整合性をもち日本人向きに改訂された総括的自己診断法（YK検査)、特性別自己診断法（YG 検査）が、その周到なる統計的検査基礎を明らかにして報告された。これを如何に実用的に標準化するかテスト化するかの問題はなお残されているが、それはもはや時日の問題に過ぎない。

質問形式による性格の自己診断法は、その信頼性や妥当性について種々の弱点が指摘されており、人によつては全然その有用性を信じない学者も少くない。しかしながらこれらの弱点は必ずしも自己診断法にのみ存するものではなく、他の方法による診断法にもすべて共通のものであり、むしろ自己診断法は、再検査や折半法による統計的信頼度では他の方法を凌ぐものがあるのみならず、そのことは又、自己診断法によつてのみ捉えることのできる個人の或る恒常的傾向の存することをも示すものであるといえよう。ともあれ inventory 形式の自己評定法は、簡便であり直接的であるという実用的見地からのみみても、軽々に葬り去られるべきではなく、我々はできるだけその信頼性を高めるべく統計的検定を十分にし、その妥当性を検討して、その効用を尽したいと思うのである。

わが国で最もひろく用いられている淡路式向性検査は、その再検査による信頼係数が大体0.6～0.7で、この種検査法としての許容範囲に属するにも拘わらず、その各項目についての GP 分析の結果に

よれば、有意差を示すものが五十項目中僅か十四項目に過ぎなかつた。そのことは向性検査の構成がその目的からいつて整合的であることが望ましいにも拘わらず、この検査が相当異質的であることを示し、他の三十六項目が、総合得点によつて判定さるべき向性に関して偶然的である危険性を示すものであつた。勿論テストによつては内的構成が異質的であつても、各項目が妥当性をもてば、信頼しうる種類のものもある。しかし自己診断法が種々の弱点をもちつつもなお強くその存在を主張しうる理由の一つは、回答者が十分検査項目の質問を理解する能力があり、かつ検査に対して協力的である限り、検査項目に対して予料的に自己を評定することができ、一応恒常的なこの選択傾向を基礎にして総合的にその傾向の大小を検定しうるという点であろう。この予料的自己評定傾向が所謂「真の」性格傾向を示すものであるか、或は補償や反対形成などの機制により投影的に現われるものであるかは別問題である。性格検査としてはできるだけ「真の」性格傾向に近いものが現われるようなものが望ましいには違いないが、自己診断という操作を前提とする限り、この制約を超えて望むことは、却つてこの方法の妥当性を失わせるものである。しかしながら、自己診断法の存立理由がそこにある限り、総合得点の基準となるべき検査項目への反応傾向が、総合的傾向に対して整合的であるようなものであり、かつ個人の反応形式としてはできるだけ恒常的でありうるようなものが必要である。この二つの条件が共に十分満足せしめられることが最も望ましいのであるが、しかし実際問題としては、第二の条件の満足には種々の困難が伴う。年令により、知能程度により、或は思考習慣により、さらには質問形式により、この条件の満足がかなり動揺することは、よく知られている通りである。けれどもよく考えれば、このことは単に自己診断的内省にのみ伴う困難ではなく、心理学的内省、さらには心理的反応一般に共通のものであり、むしろかかる動揺性の上に如何にして恒常的なものを構成するかが心理学一般の問題であるといつてよい。勿論それだからといつて、自己診断法の客観性を高める上に、この点を全然考慮しないでよいという理由にはならない。しかし、もしも検査の各項目が、その項目の集合によつて表わされるような特性に対して、比較的よき整合性を示し（Guttman, L. の所謂一次元性 unidimensionality; Loevinger, の所謂等質性 homogeneity)、かつその特性が比較的単一的なものでありえたならば、それを構成する検査各項目への個人の反応恒常性は、それ程重要でないことも明らかであろう。即ち個々の検査項目への反応が恒常であるよりも、項目の集合によつて表わされる特性への個人の反応傾向が恒常であることの方が重要なのである。このことがいいうるためには、上述した特性が単一性、換言すれば基本的なものであることが必要であり、これを表わす項目が整合的であることが必要である。[1] かく考えれば、むしろテストの整合性が必要条件であり、項目への反応の恒常性は十分条件であると考えてよいと思われる。勿論検査作製の現段階において、反応の恒常性を無視しうる程、十分に必要条件を満たしうることは考えられない。しかし、一般に非難される自己診断法の困難は、この意味で、検査の集合的特性の整合性等質性を高めることによつて、救済される道をもつものと信じられる。

本報告において検定された統計的処理が、第一に GP 分析により内的整合性を高めることに向けられているのも、この理由からである。この意味で、YK 検査、YG 検査では、少なくとも従来わが国

註 1）我々の総合研究の第二部会の、大西憲明による社会的行動評定尺度の研究に於ても、情緒安定の如き基本的なものでは GP 有意差項目が多く、誠実さなどの徳目的なものでは有意項目が大いに減少する。

において危惧されていた自己診断法の一つの弱点は克服されていると考えられる。ただし、これらの検査の内的整合性そのものの信頼度は計算されなかつた。しかし本報告では、極めて高い判定規準でGP 分析が行われているから、項目相関による信頼度も相当高いものが期待されるのではないかと思われる。

YK 検査の再検査による信頼係数は、中学生で約0.6であつた。自己診断法の再検査相関としてはこの値も決して低いものではなく、淡路式向性検査も中学生での再検査相関は大体この程度であつた。しかしYK検査が、後者に比べて遙かにその内的整合性を高めたにも拘わらず、再検査信頼度においてはほぼ同等であつたということは、いささか意外であつた。勿論、この相関値は、YK 第一型式と第二型式との相関、即ち一種の代替型式信頼度であつて、厳密な意味での再検査係数ではないのであるから、もし型式を同じくした再検査を行つたなら、恐らくこれ以上の値をうるであろうとは期待できる。しかし次の事情も考えられねばならぬ。一つは、中学生の回答に、比較的無反応が多かつたこと、二つには、例えば、YK 第一型式の項目「21. 議論より実行」が有意差を示さなかつたのに対し、殆んど同じ内容をもつと思われる YA 向性検査の「5. 思案するより活動が好き」が、YK に基づく GP 分析で大きな有意差を示した如きに見られるような、項目の表現に対する中学生の理解力の不十分さである。前者の無回答の中にも、何れとも反応がきめられぬものの他に、項目の意味が理解できないものも含まれているであろう。これらのことを考慮して有意項目としては無回答の多いものを省いたけれども、このような傾向を示す中学生の自己診断には、一般に反応の恒常度が低いこと、即ち反応に変動の多いことが予想されねばならぬ。殊に YK 検査が比較的異質的なものを含む総合的な inventory であるから、この場合内的整合性の優れていることだけでは、反応の恒常度の低い被験者に対しては、十分なる信頼度を期待し難い事情もあると思われる。一般に中学生や一般青年に比べて大学生での自己診断法の再検査相関値が高いのも、この恒常度において大学生の方が安定していることが一因となつているであろう。YK 第二型式は、大学生について再検査検定を行つたならば、本報告で示されているよりも遙かに高い再検査信頼度が期待されるのではないかと思われる。

このことは、本文第20表に示されたように、二回の YG 検査の各特性と YK 検査との相関値が殆んど不変であることからも考えられるのではなかろうか。勿論この相関はむしろ YG検査の各特性が総合的な YK 検査に対して或る不変的関係にあることを示す資料であろうが、相対的に YK 検査の信頼性をも示すものと見做されぬこともない。

YG 検査も各特性別に識別性を高めるために、厳重な判定規準によつて GP 分析が行われ、ほぼ内的整合性において満足しうるものが、ここに報告された。初め Guilford の13の特性群から出発して予備検査が行われたが、Guilford の項目を採用するに当り、(1)日本語として不適当な表現は、適当な日本語に改変した。(2)社会的態度に依拠する所が多いと思われる項目は削除した。(3)感情的因子とは区別さるべき特性群において、感情的な特徴と混同されていると思われるような項目は除外した。(4) Guilford の項目中にある極めて特殊な行動傾向に属するとみなされる項目例えば神経症的徴候の如きものは削除した。こういう改変を行つたので、 Guilford の原案に用いられている特性符号を借用していても、その内容においては必ずしもそれと同一とはいわれないものとなつたものもあ

る。しかして、これらの特性群を十分よく表わす反応の型として、重複して一定の傾向を示すような若干の型を見出し、これを加え、17の反応型式（実際には YK 検査の前半及び後半群を夫々加えて19）について GP 分析が試みられた。その結果、これらの特性群に重複して有意差を示す項目が意外に多数見出され、或る特性を十分代表しうるような比較的独立の項目群を以て検査バッテリーを作ることが、容易ならぬものであるという問題に逢着した。特性別の自己診断テストの妥当性と信頼性とを高める一つの方法は、それが因子的構造においてはできるだけ異質的であり、因子内特性ではできるだけ整合的なテスト項目を以て構成されることである。YG 検査作製の眼目もここに置かれていたのであるが、上述の如く GP 分析の結果は、一方においては個々の項目をとつてみる時は或る特性にのみ固有の反応形式を示すものは極めて少数となり（信頼性が低くなる）、ひいては他方において、特性間の独立性にも疑問をもたざるをえない（妥当性が低くなる）ことになつた。Guilford の13の特性は、彼の因子分析の結果えられたものであるとはいえ、詳細は分らないが、3種のテストを組合せてあり、それらが一次独立でないことは、Thurstone の分析によつても知られている。本報告にも示されているように YG 検査第二型式の因子分析によつても、一次因子は Thurstone と同様、多くても9つを越えなかつた。それ故、Guilford の13の特性群をもととし、さらにそれに随伴傾向のある反応型式を加えて17の特性群をもつた予備検査の結果が、このような結果を示したこともうなづけないことはない。もともと、因子分析的因子特性は、それの負荷量が比較的大きい幾つかの項目の集群から、逆にその心理学的性質を推定されるような性質のものであり、初めの項目が普遍性を有するようなものであればある程、多くの因子に関与するのであり、単一な因子にのみ関与する項目の如きは期待し難いのである。相当精選せられた予備検査の項目すら、その殆んど大部分が各特性群に亘つて有意であるという事情は、一つには、われわれの項目が比較的正常的傾向を主眼として特殊な神経症や病的徴候と目されるものをすべて除外したことにもよるのであろうが、他方又これがこのような形式による特性別判定テストとしては、避けられない根本的な問題を露呈したものとも思われる。因子特性を直接現わすような項目をうることは困難なのである。勿論そういう項目があれば、又それが十分多数あれば、テスト構成は極めて容易であろうけれども、事情はしかく簡単ではない。項目に選ばれた行動傾向は、いわば Cattell の所謂表面特性であり、かような表面特性の集群は、我々は数学的便宜上加算的にこれを取扱つているけれども、もともと、それが何故如何なる心理学的特性において集群を作るか、かかる集群の如何なる心理学的特性が源泉的特性に関与しそれを表わすことができるかという、根本的な問題がここに伏蔵されるのである。我々は今日この問題に対して決定的な答を出すべきデータをもつていない。むしろそれは、一方においては人格構造に関する知見の進歩に期待すると共に、他方においては、テストをより信頼性ありより妥当性あるものに改良していくことにより、そこに含まれる心理学的仮定を検討して徐々に進むことができると思われる。

YG 検査の第一形式は、GP 分析の結果大なる有意差のある項目は、重複をかまわず採点項目にいれ、テストを構成した。これは次の二つの理由による。一は、もともと重複するのが当然である項目を人為的に或る特定特性にのみ属せしめることは、却つて特性の純粋性と独立性を失なわせ、当然存在すべき因子を消失させることになりはしまいか、二は、かく多くの有意項目が重複するということ

は、因子的特性が項目の総括的な特性としてではなく、状況によつて種々の現われた方をする機能的特性として考えられ、根底においては一般因子の如きものも予想されるのではないか、然りとすればデータに忠実な素のままの関係で特性を表現して置く方が、かかる機能的関係を阻害しないことになりはしないかという理由である。しかしその反面、かかる重複は数学的仮定のもとに加算的にのみ取扱われるので、かかる重複加算による相関が、純粋に因子構造による相関を攪乱しはしないかという恐れが十分ある。これは結果から判断するより他ない。我々が注目したのは、第二型式においては消えてしまつた CR, DC 等の重複特性が、第一型式においてはどうなるかという点であつたが、本報告ではまだこれを比較することができなかつた。

第二型式は、重複による相関の攪乱を避けテスト構成を純粋化するために、重複項目は或る特定の一特性にのみ所属せしめられた。この所属に際し、直ちに前記の心理学的難問に逢着するのであるが、これは125頁に記されれようなプリンシプルの下に、反応形式の類同性を選択の基準に煩鎖な検定と心理学的解釈とを反復して、できるだけ恣意性を脱し、内的整合性をもつようにして行われた。その結果、本文に示された如く、予備テストの結果に基づき附け加えた CR, T-R 等の重複特性群は再び脱落して、Guilford の13の特性群に戻つてしまつた。この事情を我々はどう考えたらよいであろうか。一つには GP 分析における差異の有意水準を非常に高くとつたという技術的なことも関係しているであろう。しかし根本的には、ここに用いられた項目が、もともと Guilford 特性項目に近いものとして選択され、重複特性は、これらの項目が常に随伴して現われるという反応形式において見出されたものであつた。もしもかかる随伴傾向が、単に両特性の近親性を示すに過ぎないものならば、第二型式の作製に当つてこれが消滅したのは怪しむに足りない。しかし、もしもこれらの随伴傾向が、何等かの特性傾向に依存し、かかる特性を表わすに適当なる項目が初めからこの Inventory には含まれていないため、たまたま随伴的傾向となつて現われたのであるならば、この特性の消滅は第二型式の欠点となるものであり、妥当性に関係するものである。第一型式においてもこれらの重複特性が独立性をもたないことが証明されるならば、このことは杞憂に過ぎないことになり、簡明なる第二型式の方が実用性において優つたものと考えることができるのであるが、前述の如く、この点についての決定は次の報告に俟たねばならぬ。

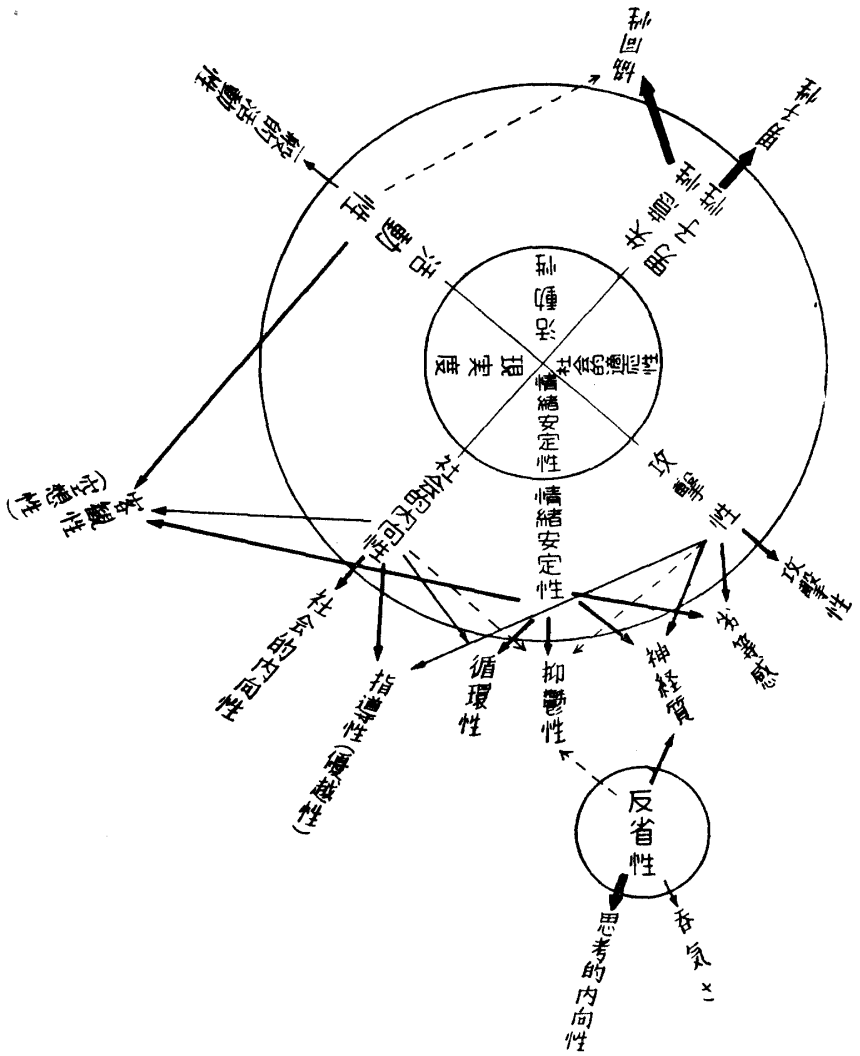
度々繰返す如く、YG 検査の項目は Guilford のテストを出発点とはしたけれども、その内容においては相当異なつている。それにも拘わらず因子分析の結果、第一次因子は Thurstone のそれと極めて近いものが見られたことは、かかるテストによる気質特性の因子構造に、偶然ならざるもののあることを思わしめる。勿論、因子分析法による因子は、相関行列をもととして数学的に自動的に計算されるものとはいえ、斜交分析法にはなお或る程度の任意性が残されている。因子軸を立てるに当つて、Thurstone のそれが暗々裡にモデルにならなかつたとは断言し難い。(この点斜交分析法がさらに直截に行われるような方法の研究が望まれる。) しかしかかるモデルが暗々裡に働いたとしても、実測座標が如何ともし難いほどかけはなれていたならば、似せ難いのは当然である。のみならず我々は、意識的には、Thurstone の分析を一意考慮外に置いて分析したのであつた。従つて結果における近似性は、この種のテストバッテリーの因子構造に基づくものと考えてよいのではなかろうか。勿

論細部において、因子の心理学的特性や因子間関係が、 Thurstone のそれと異なるところのあることは本文に述べられた通りである。殊に O 特性が、Guilford のそれとは相当異なつたため、これが YG 検査の因子構造に大きくひびいている。しかし、全般的には、 Thurstone の一次因子、Baehr の二次因子構造に比較して YG第二型式の因子構造は、より簡明であり整合的である。このことは、恐らく YG 検査が Guilford-Martin の原案よりも、遙かに特性の内的整合性を高めた結果であろうと思われる。

多次元的な因子構造を図示することはできないが、我々のえた因子関係を極めて図式的に還元して示せば、第2図の如くなる。

Fig 2　因子関係図式

(外円内一次因子
内円内二次因子)



この図は因子構造を簡略化しすぎてはいるけれども、その関係の大綱を見るには却つて便であると思われる。初めのバッテリーにおける思考的内向性は、呑気さと共に、他の特性群とは別の次元にあると思われる一次因子反省性（思考的内向性）に属し、諸他の特性と区別されねばならない。恐らくこの因子は、気質特性というよりも、思考的傾向に関するものであつて、通常気質傾向として考えられるものとは異なるものと思われる[1]。他の特性は、主として情意的傾向であり、かつそれが社会的関係において如何に現われるかということに関するもので、互に緊密な相互関係にあることが予想される。そのうち、循環性、抑鬱性、神経質、劣等感など、通常気質傾向として考えられる最も主なものは、何れも一次因子情緒安定性の負荷の大きいものであり、社会的内向性及び攻撃性と共に、二次因子情緒安定性のいわば次元内に属する。こうしてみれば、通常考えられる気質特性は、情緒安定性ともいうべき基本因子に還元されるべきものであるが、この因子は、直接それのみを表わすような特性をもたず、他の一次因子の負荷の如何によつて現実的には種々の気質特性となつて現われるものであると考えられよう。多分に情緒安定性は通常の気質特性においては一般因子的性格をもつものとみなすことができる。このことは Thurstone の因子構造においても、ひとしく認められることである。人は一方においては客観的現実に対し、他方においては社会的現実に対し、行為しなければならないから、これらの現実に対して如何に反応するかが別個の一次因子として抽出されるのであろう。しかしそれらは、結局今述べた如き、情緒的特質を中心として現実に対する働きかたにあるのであるから、我々の分析の結果抽出された二次因子が相互に密接な関係にあることは不思議でない。しかし、その相関値がすべて完全に1であつたということは、この方法が自己診断法であり、特性類別に多分の人為性を含む本検査法の結果として、これが上述の推論を保証する真実の値なのであるか、或は技術的問題から結果した値なのであるか、解答を将来に残さなければならない。

註 1) Thurstone の場合、一次因子反省性は、S.T.D.C.R のすべてに負荷する極めて重要な因子となつている。併しそれは情緒安定性因子（S.T.D.C.N に負荷）と余り違わないともいえる。これは Guilford のバッテリーでは T 項目に余りに情緒的色彩の多い項目が用いられているので、一次因子 R が純粋になり得なかつたのであろうと思われる。そのことがひいては Baehr の二次因子分析で情緒不安定性と情緒安定性とを区別しなければならぬようになつたもののようである。

要　　約

第一部「綜括的自己診断検査の作製」においては Kibler の自己診断表から出発し、数次の GP 分析を経て、50 項目からなる性格診断検査を作製した。これを矢田部 Kibler 向性検査と名づける。この検査の特徴は各項目が殆んど完全な内的整合性を有し、従つて安心して綜合得点を算出しうるところにある。

第二部「特性別自己診断検査の作製」においては Guilford-Martin の Inventory から出発し、数次の GP 分析を経て、各尺度が殆んど完全な内的整合性を有する二つの Inventory を構成した。一つは16特性を各25問の尺度項目によつて測定するものであるが、項目間に重複のあるもので、これを矢田部 Guilford 性格検査第一型式と名づける。二つは13特性を各12問の尺度項目によつで測定するのであるが、項目間に重複のないもので、これを同じくその第二型式と名づけることにした。

第三部「矢田部 Guilford 性格検査の因子分析的研究」においては、上述の第二型式を２００名の京大生に施行した結果から、その因子構造を分析した。一次因子は 8 個抽出されたが、それらは Thurstone の因子と極めて近親的であつた。ただしかれの Impulsive に相当するものは明瞭でなく、その社交性は二つに分離された。

S^1 (D^1). 社会的内向性

E^1 (E^1). 情緒安定性

M^1 (V^1). 男子性

A^1 (A^1). 活動性

T^1 (R^1). 思索性

F^1 (S_1^1). 社交性第一 (Frustratedness)

? (S_2^1). 社交性第二 (Aggressiveness)

(X_1^1) (I^1) この因子の獨立性は疑わしい

第二次因子は 4 個抽出された。

A^2. 情緒安定性

B^2. 現実性

C^2. 活動性

D^2. 社交性

これらは Baehr の二次因子 A^2, B^2, C^2 に対応するが、D^2 は Baehr には対応者なく、むしろ Thurstone の一次因子社交性に近い。

第二次因子間の相関はすべて完全相関を示した。その意味は未だ明らかでない。

文　　献

1. 淡路円治郎、向性検査と向性指数、心研、7, 1932, 1-54, 373-414 ; 8, 1933, 417-434.
2. Baehr, M. E. A factorial study of temperament. Psychometrika, 17, 1952, 107-126.
3. Guilford, J. P. and R. B. Guilford. Personality factors, S, E, and M, and their measurement. J. Psychol., 2, 1936, 107-127.
4. Guilford, J. P. and R. B. Guilford. Personality factors, D, R, T, and A. J. abn. & soc. Psychol., 34, 1939, 21-36.
5. Guilford, J. P. and R. B. Guilford. Personality factors N and GD. Ibid., 239-248.
6. Guilford, J. P. An inventory of the factors STDCR. Beverly Hills, California : Sheridan Supply Co., 1940.
7. Guilford, J. P. & Martin, H. G. The Guilford-Martin inventory of factors GAMIN (Abridged edition). Beverly Hills, California : Sheridan Supply Co., 1943.
8. Guilford, J. P. &Martin, H. G. The Guilford-Martin personnel inventry I. Beverly Hills, California : Sheridan Supply Co., 1943.
9. Guilford, J. P. Fundamental statistics in psychology and education. McGraw-Hill, 1950.
10. Heymans, G. Gesammelte kleinere Schriften zur Philosophie und Psychologie. Haag: Martinus Nijhoff, 1927.
11. Kibler, M. Experimentalpsychologischer Beitrag zur Typenforschung. Zeitschr. f.d. ges. Neurol. u. Psychiat., 98, 1925, 524-544.
12. Lovell, C. A study of factor structure of thirteen personality variables. Educ. Psychol. Meas., 5, 1945, 335-350.
13. Thurstone, L. L. The dimensions of temperament. Psychometrika, 16, 1951, 11-20.
14. Thurstone, L. L. Multiple-factor analysis. Chicago , Univ. Chicago Press. 1947.
15. Thurstone, L. L. and T. G. Thurstone. Factorial studies of intelligence. Psychomet .Monog., No.2, 1942.
16 Van der Horst, Constitutietypen biy Geesteszieken en Gezonden. 1924.
17. Wiersma, E. D. The formation of character, Verhandelingen der Koninklijke Nederlandshe Akademie van Wetenschappen (Tweede Sectie), Amsterdam. 1938, Deel XXXVIII, No. 4, 1-48.